

この伝統を、超える未来を。



平成28年度文部科学省「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」

# 海外子会社の経営を担う 人材を養成する 大学院教育プログラム

2016(平成28)年度 成果報告書



関西大学

# 目次

はじめに .....	3
1. 取組全体の概要	
1-1 背景 .....	4
1-2 目的 .....	4
1-3 内容・方法 .....	4
1-4 実証・改善の実施 .....	5
1-5 産学の役割分担の明確化と産業界支援内容 .....	6
1-6 継続性 .....	6
2. プログラムの開発・実証活動	
2-1 プログラム開発にかかるPDCAサイクル .....	7
2-1-1 協議の場(KU産学官協働高度人材養成会議) .....	7
2-1-2 プログラム開発委員会 .....	8
2-1-3 プログラム評価部会 .....	9
2-2 開発プログラム .....	10
2-2-1 科目一覧と能力指標 .....	10
2-2-2 シラバス作成(例) .....	13
2-2-3 春学期開講科目 .....	14
2-2-4 秋学期開講科目 .....	21
3. 開発プログラムに関する自己点検・評価活動	
3-1 授業実施にかかるPDCAサイクル .....	46
3-1-1 FD部会 .....	46
3-1-2 講座担当者説明会 .....	46
3-2 プレ・ポストアンケート調査 .....	47
3-2-1 アンケートの設問と形式 .....	47
3-2-2 春学期の分析結果と考察 .....	48
3-2-3 秋学期の分析結果と考察 .....	50
3-3 授業評価アンケート調査 .....	52
3-3-1 春学期のアンケート結果 .....	52
3-3-2 秋学期のアンケート結果 .....	60
3-4 授業に係るインタビュー調査 .....	86
3-4-1 春学期のインタビュー結果 .....	86
3-4-2 授業設計のモデル .....	88
3-4-3 秋学期のインタビュー結果 .....	89

## 目次

4. プログラムの普及・広報活動	
4-1 フライヤー及びパンフレットの作成	92
4-2 説明会の実施	92
4-3 ワークショップ	94
4-4 梅田キャンパス開設及び授業開講記念講演会	95
4-5 文部科学省主催 14大学合同成果発表フォーラム	95
4-6 公益財団法人 大学基準協会広報委員会主催シンポジウム	96
4-7 学会発表資料・論文発表	100
4-7-1 日本教育工学会発表資料	100
4-7-2 日本教育メディア学会発表資料	104
4-7-3 論文発表(Journal of Accountancy,Economics and Law)	108
5. 国内ヒアリング調査、プログラム開発、成果発表報告	
5-1 概要	119
5-2 目的	119
5-3 訪問先等	119
5-4 社会人教育、ICTを活用した教育等に係る情報収集及び研究成果発表	120
5-4-1 拓殖大学FDワークショップ	120
5-4-2 第7回教育ITソリューションEXPO	120
5-4-3 関西教育ICT展	121
5-4-4 次世代教育セミナー ―反転授業における映像活用の未来―	121
5-4-5 日本教育工学会 第32回全国大会	121
5-4-6 日本教育メディア学会 第23回年次大会	122
6. 今後の課題	123
おわりに	124

## はじめに

---

本学は、文部科学省「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業」の委託事業として、2014（平成26）年度より3年間「海外子会社の経営を担う人材を養成する大学院教育プログラム」を実施してきた。この間、モニター期間も含め、延べ77社127名の方々に受講いただき、既に多くの方が海外事業体で活躍されている。このような高度な経営管理能力を有する人材は、企業が海外展開を推進していく上でなくてはならない重要な人材である。このような方々が海外で活躍されることで、我が国の企業は持続的な発展を遂げていくことが可能となる。

本学は、「学の実化（じつげ）」、すなわち学理と実際との調和を学是とし、高い専門的学識を修めつつ、その学識を実社会において役立てることのできる人材の育成に努め、商都大阪に位置する大学にふさわしい、社会の発展を力強く牽引する役割を担ってきた。本プログラムは、ASEAN子会社の経営をこれから担う人材に対し、本学大学院研究科が分野横断的に連携することによってASEANにおける経済・経営等の社会科学からのアプローチに加えて、人文系科目としてASEAN地域の根本的理解のための専門科目を提供している。このように「考動力あふれる高度な人材」を育成する本プログラムは、受講生のみならず、外部の有識者の委員の先生方から高い評価をいただいた。

今後ますます多様化する社会人のニーズに対応できるさまざまなプログラムを検討し、企業等で必要とされている社会人の学び直し教育の充実を図ることにより、社会に貢献できればと願っている。

最後に、本事業を推進するにあたり、ご協力いただいた、公益社団法人関西経済連合会、大阪商工会議所、大阪府、株式会社日刊工業新聞社、優成監査法人、株式会社りそな銀行及びりそな総合研究所株式会社等の先生方、講師の先生方に深く感謝申し上げます。

2017（平成29）年4月

事業推進責任者

副学長（教育推進担当） 良永 康平

# 1

## 取組全体の概要

### 1-1 背景

日本の国内市場は、少子高齢化の進展等により、今まで以上の大規模な発展を見込むことは困難な状況となっている。その打開策として海外市場が着目されているのに拠点を分散する戦略をとっており、好環境で成長余力のあるASEANへの関心が非常に高まっている。

ASEANは、6億人近い人口を有し、経済発展により2兆ドルを超えるGDPを有しているが、一人当たりGDPは3571米ドルと日本の12分の1以下にとどまっており、今後の発展が見込まれる地域である。外務省が行った「ASEAN7か国における対日世論調査(平成26年)」によると、ASEANの人たちは、日本について「友好関係かつ信頼できる国」であり、その科学技術や文化、自然等に対し高い関心があると答えている。また、アジアの発展に対する積極的役割に対する期待と日本企業の進出に対する好意的な回答が9割以上を占める等、ASEANは日本からの進出を歓迎する親日的な地域である。

### 1-2 目的

日本企業は、進取の精神とバイタリティにあふれたASEAN等の新興市場の発展を取り込んで成長することが必要である。この地域の発展を取り込んで第2の成長を果たした日本企業はあるが、多くの企業ではいまだ十分に取り込めていない。しかし、本来、高い技術力や満足度の高い製品を有する日本企業は、この新興市場を舞台に、発展と成長に与る可能性が非常に高いはずである。本事業では、当該問題を解決したいという、日本の親会社の経営層(社長等)や経済団体、公的機関等のニーズを受け、本学のシーズを基に、産学協働により教育プログラムを開発する。具体的には、ASEANに進出する企業の現地子会社で経営を担う出向予定者に対して、現地に関わる各種情報、地理歴史、経済情勢等に加え、経営に携わるための理論的、根本的かつ効果的な教育を行う。これにより、ASEANを基盤に企業の第2の発展を果たす原動力となる「考動力」あふれる高度な人材を養成する。

### 1-3 内容・方法

#### ○特別の教育課程の開発

##### ・教育内容(授業科目等)

【大学院修士レベル】本プログラムで養成する「海外子会社の経営を担う『考動力』あふれる高度な人材」は、単に目先の事象にかかるノウハウを持っているだけでなく、事象に対する理論的な背景についての根本的理解と、長期的なフィロソフィが必要である。そのような人材を育てるためには、フィロソフィを持った大学院レベルの教育を展開し、専門教育プログラムにおいて理論を学習するとともに、実践基礎教育プログラム、実践応用教育プログラムにおいて実務に応じた演習を行い、問題点に対し、解決策を提示するのではなく、自分で考え行動することを修得させることが必要となる。

また、「新規性」のある試みとして、インストラクショナルデザインのスキルを持った専門人材を配置して、プログラム運営部会の教員とともに、実務家教員に対して、プログラムの構成、コンテンツの作成や授業の進め方等についての指導・助言を行い、その経験を教育に最大限結び付けるよう配慮することがあげられる。このことにより、実務家教員の雇用が容易になるというメリットもある。

##### ・教育方法

【通常授業】社会人受講者の日常業務に支障がないようにするため、授業を週1回土曜日及び平日夜間に開講する。

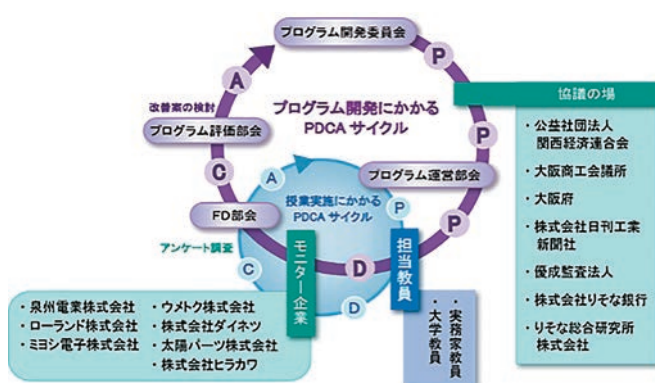
【集中合宿授業】実践基礎教育プログラムの「異文化コミュニケーション」及び実践応用教育プログラムの「海

外派遣者のストレス・マネジメント」の一部は、週末を利用して、本学研修施設で1泊2日の集中合宿により授業を実施する。本合宿授業は、異なるバックグラウンドを有する受講者が、具体的かつ実践的な思考を合宿という形で、密接かつ直接お互いの意見を交換することにより、受講者の教育効果を高めることを企図している。

【e-learningの活用】本プログラムは、社会人向けのプログラムであり、教育効果の上がるのが第一である。しかし、受講生のバックグラウンドは様々で、その経験や知識、能力等の差異を前提とせざるを得ない。そこで、大学院レベルの授業や演習を行うためには、受講者の知識レベルをある程度整えておくことが必要となる。そのため、新しい試みとして、受講者はITを活用して事前に30分程度の反転授業を受講し、課題を行って必要な知識を習得した上で授業を受ける。

#### ・FD

FD活動としては、全学的な活動と本プログラム独自の活動を展開する。本プログラムの独自のFD活動として、プログラム開発委員会に授業内容等の改善のためにFD部会、プログラム構成や教員構成の見直しのためにプログラム評価部会を設置する。そして、図のように、前者の活動に対応する「授業実施にかかるPDCAサイクル」と、後者の活動に対応する「プログラム開発にかかるPDCAサイクル」を回していくことになる。



実証・改善サイクル図

FD部会は、授業評価アンケートを単年度ごとに実施し、受講者からの意見を聴取して、各授業内容の改善を行う。また、教員の教育に係る資質・教授法を高めるために授業研究や公開授業等を取り入れたFD研修会(年に2回開催)を実施する。プログラム評価部会は、受講生及び派遣元企業に対するアンケートに加え、海外派遣されたプログラム修了者を対象に、授業が実際の業務に役立ったか、さらに必要な課題は何か等の情報を収集し、プログラム構成や教員構成の改善案を作成する。これらの結果はプログラム開発委員会にフィードバック

され、協議の場での議論を経て、プログラム構成や教員構成の見直し、プログラム内容等の改善が行われる。このようなPDCAサイクルを展開することにより、社会との連携を有機的に展開し、実践に活かされる教育プログラムを確立する。

#### ○社会人向けの配慮

時間的制約に対する配慮：日常業務に支障がないようにするため、授業を週1回土曜日及び平日夜間に実施する。

場所的制約に対する配慮：都心部大阪(平成28年10月開校梅田キャンパス)で開講する。それぞれの都市の中心地で開講することにより、地理的、時間的負担を軽減するべく配慮する。

e-learningの活用：上述したように受講生は、事前にインターネット上で反転授業を受講し、課題を行って、必要な知識を習得した上で授業または演習を受ける。

欠席者への配慮：講義収録・配信システムを活用し、仕事等やむを得ない理由で欠席した受講者が、事後に授業を受講できるようにする。

### 1-4 実証・改善の実施

関西大学には上述の「考動力」あふれる人材を育ててきた実績に加え、ASEANについての研究や教育に関する多くの業績がある。これらのシーズを活用し、産業界等からのニーズに合わせた教育プログラムの提供が可能である。また、りそな総合研究所(株)、大阪府、及び大阪商工会議所等の産学協働に係る協賛と協力を得た多くの企業並びに団体には、実務的・実践的な経営者教育等の実績があり、それらから提供される教育資源を組み合わせ、教育プログラムを実証・改善していくことが必要である。さらに、公的機関や民間企業等が提供する実践



的な教育プログラムとの補完性を意識しながら、本プログラムの教育内容を改善する。

そのために、図で示した通り、「授業実施にかかるPDCAサイクル」と「プログラム開発にかかるPDCAサイクル」を回す。前者の「授業実施にかかるPDCAサイクル」は、教員の授業内容の改善を目的としている。FD部会が受講生に授業評価アンケートを行い、授業の実施にかかる改良点を把握し、プログラム運営部会を通じた各教員へのフィードバックと年に2回開催予定のFD研修会を通して、その改善を行う。後者の「プログラム開発にかかるPDCAサイクル」は、プログラム構成や教員構成の改善を目的としている。実務家を中心メンバーとするプログラム評価部会が受講生や派遣元企業さらに海外派遣されたプログラム修了者に、講義・演習の内容が社会人の学びたい内容と合致しているか、授業が実務に役立っているか等についてアンケート調査を実施し、その問題点を把握する。これらの結果を基にした改善案は、プログラム開発委員会でまとめられ、協議の場において議論されるとともに、産業界のニーズ・評価等が付加され、プログラム構成の見直しや教員の発掘・登用に反映される。

## 1-5 産学の役割分担の明確化と産業界支援内容

### ○産学の役割分担の明確化

産業界(企業及び各種団体等)は、企業の具体的なニーズを背景に、当該プログラム開発への協力をを行い、学界(関西大学)は、産業界の協力のもと、社会のニーズに合致した大学院レベルの教育を提供する。このような役割分担を産業界に理解していただいたことから、大企業を中心とした企業の団体である「関西経済連合会」、中小企業を含む多くの企業の団体である「大阪商工会議所」、関西と関東を地盤とする日本を代表する都市銀行である「りそな銀行」より「協議の場」に参加いただけることになった。さらに、官界(大阪府)に加え、マスコミ(日刊工業新聞社)にも「協議の場」に参加いただいた。このように、個別企業のニーズのみならず、産業界全体といえるような支援を得ることにより、そのニーズを教育プログラムに反映させる体制を構築した。

### ○産業界支援内容

公益社団法人関西経済連合会、大阪商工会議所、大阪府、(株)日刊工業新聞社、優成監査法人、(株)りそな銀行、りそな総合研究所(株)は、「協議の場(KU産学官協働高度人材養成会議)」の構成員として、泉州電業(株)は、「プログラム開発委員会」の構成員として当プログラムに参加する。

## 1-6 継続性

委託期間終了後、当該プログラムを継続して実施する。

- ① 社会人対象の教育：本学では、社会人教育を目的として、大阪の中心地である梅田にキャンパスを開校した。本プログラムも、その一環と位置づけている。
- ② 資金計画：平成29年度以降は、1年間に必要な費用(学内外講師・専門スタッフ人件費(7,100千円)、その他経費(1,600千円)等)に対して、受講者を30人として、受講料収入9,000千円(=30人×300千円)を見込み、収支均衡型の事業をめざす。なお、大学の社会貢献の一環として、委託期間終了後、最低5年間は資金的な補助を行う。

## 2

# プログラムの開発・実証活動

### 2-1 プログラム開発にかかるPDCAサイクル

「プログラム開発にかかるPDCAサイクル」は、プログラム構成や教員構成の改善を目的としている。実務家を中心メンバーとするプログラム評価部会が受講生や派遣元企業さらに海外派遣されたプログラム修了者に、講義・演習の内容が社会人の学びたい内容と合致しているか、授業が実務に役立っているか等についてアンケート調査を実施し、その問題点を把握する。これらの結果を基にした改善案は、プログラム開発委員会でまとめられ、協議の場において議論されるとともに、産業界のニーズ・評価等が付加され、プログラム構成の見直しや教員の発掘・登用に反映される。

#### 2-1-1 協議の場（KU産学官協働高度人材養成会議）

産業界のニーズと教育プログラムのすり合わせを大所高所から協議する場であるとともに、当教育プログラムをより良いものにするべく各種のバックアップをお願いする場である。

これらの企業・団体は、その活動や事業を通して、高い見識を有するとともに、海外進出している企業等のニーズを把握しており、また、実践的・実務的な経営者教育等の実績がある。そのため、産業界のニーズを基にした、期待される人材像と能力を議論し、見直しを行う役割がある。さらに、当プログラムが、当該人材像の育成にあってはどうか、内容に偏りが無いか、期待される能力に適合したものであるか、日本の発展に貢献できるものであるか等を大所高所から議論していただき、より良い教育プログラムの構築・改善に寄与する役割がある。さらに、これらの企業・団体から提供されるノウハウを組み合わせることで教育プログラムを作ることに役立て、公的機関や民間企業等が提供する実践的な教育プログラムとの補完性を意識しながら、本プログラムの教育内容の改善を勧告する役割がある。

#### 協議の場構成員一覧表

連携機関(企業・団体・機関等)の名称	構成員の所属・職名
1 関西大学	プログラム責任者 関西大学副学長 林宏昭(平成28年9月30日まで) 関西大学副学長 良永康平(平成28年10月1日から)
2 関西大学	チーフプログラムコーディネーター 関西大学大学院会計研究科教授 柴健次
3 公益社団法人関西経済連合会	国際委員会副委員長 廣富靖以
4 大阪商工会議所	専務理事 宮城勉
5 大阪府	大阪府商工労働部次長 三枝泉
6 株式会社日刊工業新聞社	取締役西日本担当・大阪支社長 竹本祐介
7 優成監査法人	会長 代表社員 加藤善孝
8 株式会社りそな銀行	代表取締役副社長 池田博之
9 りそな総合研究所株式会社	代表取締役社長 松井浩一
10 元パナソニック株式会社	元顧問 宮田賀生
11 関西大学	関西大学名誉教授 宮本勝浩
12 関西大学	関西大学経済学部教授 林宏昭(平成28年10月1日から)



連携機関(企業・団体・機関等)の名称		構成員の所属・職名
13	関西大学	プログラムコーディネーター 関西大学大学院会計研究科教授 三島徹也
14	関西大学	プログラムコーディネーター 関西大学教育推進部特別任命助教 西尾三津子

## 協議の場スケジュール

日付	内容
6月17日(金) 14:00~15:15	1. 平成26~28年度春学期実施状況及びこれまでのご意見反映状況 2. 平成28年度秋学期カリキュラム及び募集要項(案) 3. 平成29年度に向けての協働のあり方について 4. 産業界等における経営者養成についての意見交換
2月17日(金) 16:00~17:00	1. 3年間のプログラム実施状況 2. 2017年度プログラムについて 3. 文部科学省からの受託事業に係る3年間の総括について 4. 産業界等における経営者養成についての意見交換

## 2-1-2 プログラム開発委員会

本委員会は、教育効果の高いプログラムを開発する場である。教育プログラムの体系と教育内容を決めるとともに、講師の人選を行い、講師の作成した教材の内容確認を行う。実際に行われた授業が企図したものと一致しているか、企業のニーズに合致した内容となっているかをアンケート等から把握し、「授業実施にかかるPDCAサイクル」と、「プログラム開発にかかるPDCAサイクル」の二つのサイクルを回すことにより、教育プログラムや教員の体系と教育内容の改善を図る役割である。

## プログラム開発委員会構成員一覧表

名前	所属・職名	役割等
柴 健次	関西大学大学院会計研究科教授	委員長兼プログラム運営部長
安部 善博	学校法人関西大学常務理事	副委員長兼プログラム評価部長
北波 道子	関西大学経済学部教授	FD部会長、東アジアの経済分野を中心に教育内容を決め、講師の人選、教材の内容確認
西村 元秀	泉州電業(株) 代表取締役社長 国際本部長	企業経営者として、また豊富な海外経験に基づいた、カリキュラムの企画・プログラムに対する専門的な意見及び受講生の派遣
高橋 伸光	大阪大学名誉教授	ビジネスにかかる語学分野を中心に教育内容を決め、講師の人選、教材の内容確認
牧 勇	りそな総合研究所株式会社	グローバル人材育成分野のコンサルタントとしての豊富な経験に基づくカリキュラムの企画・プログラムの評価
仲本 利明	元東プラ・アパディジャヤ 元代表取締役社長	企業経営者として、また、海外経験に基づく授業科目の企画・プログラムの運営・評価
野間 晴雄	関西大学文学部教授	ASEANの地理・歴史学分野を中心に教育内容を決め、講師の人選、教材の内容確認
寺嶋 繁典	関西大学大学院心理学研究科教授	ビジネスにおける心理学分野を中心に教育内容を決め、講師の人選、教材の内容確認

名 前	所属・職名	役 割 等
後藤 健太	関西大学経済学部教授	ASEANの経済分野を中心に教育内容を決め、講師の人選、教材の内容確認、FD活動
西澤希久男	関西大学政策創造学部教授	ASEANの法律分野を中心に教育内容を決め、講師の人選、教材の内容確認、FD活動
岩崎 千晶	関西大学教育推進部准教授	FD活動
三島 徹也	関西大学大学院会計研究科教授	会計分野を中心に教育内容を決め、講師の人選、教材の内容確認及びカリキュラムの企画・プログラムの評価
西尾三津子	関西大学教育推進部特別任命助教	授業設計、FD活動、リフレクション

### 2-1-3 プログラム評価部会

プログラム評価部会は、プログラム構成や教員配置等を検討するため、講義・演習の内容が社会人の学びたい内容と合致しているか、授業が実務に役立っているか等について受講生と派遣元企業等にアンケート調査を実施して問題点を把握し、プログラム開発委員会に改善を提案する役割と、年次計画及び成果目標の達成状況を点検・評価する役割を持つ。

#### プログラム評価部会構成員一覧表

名 前	所属・職名	役割等
柴 健次	関西大学大学院会計研究科教授	委員長兼プログラム運営部会長
安部 善博	学校法人関西大学常務理事	副委員長兼プログラム評価部会長
西村 元秀	泉州電業(株)代表取締役社長 国際本部長	企業経営者として、また豊富な海外経験に基づいた、カリキュラムの企画・プログラムに対する専門的な意見及び受講生の派遣
高橋 伸光	大阪大学名誉教授	ビジネスにかかる語学分野を中心に教育内容を決め、講師の人選、教材の内容確認
牧 勇	りそな総合研究所株式会社	グローバル人材育成分野のコンサルタントとしての豊富な経験に基づくカリキュラムの企画・プログラムの評価
仲本 利明	元東プラ・アパディジャヤ 元代表取締役社長	企業経営者として、また豊富な海外経験に基づいた、カリキュラムの企画・プログラムに対する専門的な意見
三島 徹也	関西大学大学院会計研究科教授	会計分野の豊富な経験に基づくカリキュラムの企画・プログラムの評価
西尾三津子	関西大学教育推進部特別任命助教	授業設計、FD活動、リフレクション

#### プログラム開発委員会・プログラム評価部会スケジュール

日 付	内 容
6月3日(金) 10:00~11:30	1. 平成26、27年度開発プログラムに関する自己点検・評価 2. 平成28年度春学期プログラム実施状況 3. 平成28年度秋学期プログラムについて 4. プログラム評価について意見交換
2月14日(火) 10:30~12:00	1. 3年間のプログラム実施状況 2. 2017年度プログラムについて 3. 文部科学省からの受託事業に係る3年間の総括について意見交換

## 2-2 開発プログラム

## 2-2-1 科目一覧と能力指標

本年度は、春学期7科目、秋学期25科目の計32科目の授業を実施した。そのうち、実践基礎教育プログラムは6科目、実践応用教育プログラムは11科目、専門教育プログラムは15科目であった。

## 〈平成28年度 科目一覧〉

番号	科目カテゴリ	科目名	担当講師
春1	専門	ASEANの華人ビジネス	吉野 文雄
春2	専門	日本的経営思想	田中 一弘
春3	専門	海外派遣者のストレスマネジメント	川端 康雄
春4	実践応用	海外子会社における人事労務政策	仲本 利明
春5	実践応用	海外子会社の経営者として必要な能力	永吉 賢吾
春6	実践応用	海外事業体(子会社)におけるコンプライアンス体制	野本 隆
春7	実践応用	プレゼンテーション・スキルとその活用	西尾 三津子
秋1	実践基礎	経営者のためのシンキングチャートの活用	西尾 三津子
秋2	実践基礎	異文化コミュニケーション	久保田 真弓
秋3	実践基礎	経営戦略	吉田 史朗
秋4	実践基礎	マーケティング戦略	嶋 えりか
秋5	実践基礎	組織・運営戦略	屋代 徳文
秋6	実践基礎	子会社経営で直面する課題(ケーススタディ)	仲本 利明
秋7	専門	ASEAN経済	後藤 健太
秋8	専門	日本的経営思想	田中 一弘
秋9	専門	ASEAN法律制度	西澤 希久男
秋10	専門	管理会計入門	大西 靖
秋11	専門	ASEAN発展論	北波 道子
秋12	専門	企業会計入門	富田 知嗣
秋13	専門	ASEANの華人ビジネス	吉野 文雄
秋14	専門	会計情報の利用	宗岡 徹
秋15	専門	グローバル経済	宮本 勝浩
秋16	専門	ASEANの地理・歴史	野間 晴雄
秋17	専門	ASEANの宗教・文化	小田 淑子、宮本 要太郎、 酒井 真道
秋18	専門	国際租税法入門	中村 繁隆
秋19	実践応用	プレゼンテーション・スキルとその活用	西尾 三津子
秋20	実践応用	海外派遣者のストレスマネジメント	池見 陽、川端 康雄
秋21	実践応用	海外事業体(子会社)における経営者の役割・コンプライアンス体制	野本 隆
秋22	実践応用	子会社経営で直面する課題-人事労務政策-	仲本 利明
秋23	実践応用	グローバル企業の人材育成	牧 勇
秋24	実践応用	海外子会社の経営者として必要な能力	宮本 昭洋
秋25	実践応用	経営者の戦略的役割	吉田 史朗

## 修得すべき能力の指標

本プログラムで養成すべき人材を「海外子会社の経営を担う『考動力』あふれる高度な人材」とし、修得すべき能力を以下の通り定義する。

- I ASEANに関する幅広い知識と教養を有し
  - ①知識理解力（ASEANに関する情報を収集・理解し、説明をする力）
  - ②異文化適応力（ASEANの異なる文化や言葉、価値観を有する他者を理解し尊重する力）
- II 現地の人々と対等でウィン・ウィンな関係を築き
  - ③人間関係力（他者の立場を尊重・理解し、互いの考えを伝え合う力）
  - ④経営交渉力（他者との信頼関係を構築し、合意形成を目指した双方向のコミュニケーション力）
- III 問題点をいち早く認知するとともに
  - ⑤問題認知力（海外子会社の現状把握を通して問題を判断し、危機に適切に対処しようとする力）
  - ⑥批判的思考力（海外子会社の課題について批判的な思考を働かせて分析する力）
- IV その問題点に対し自らの頭で自主的によく考えて判断し
  - ⑦主体的判断力（海外子会社の課題について自らの責任で物事を正しく認識し評価する力）
  - ⑧自己調整力（状況に適応し、自らの課題を見極め必要な努力を持続させる力）
- V 自らの責任で自律的かつ積極的に行動し解決していくことで
  - ⑨問題解決力（会社経営に関する問題を正確に把握し、根拠の明確な解決策を考え実行する力）
  - ⑩積極的行動力（会社経営に必要と判断した事柄について目的意識をもって行動する力）
- VI 会社を発展させていく能力
  - ⑪リーダーシップ力（会社経営に関する知識や経験を統合させ、活用する力）
  - ⑫革新的創造力（会社の組織や習慣を改めて、新しいものを作り出す力）

### 〈能力指標マトリクス〉

◎はコアの能力、○はサブの能力

学期	カテゴリ	科目名	能力												
			①知識理解力	②異文化適応力	③人間関係力	④経営交渉力	⑤問題認知力	⑥批判的思考力	⑦主体的判断力	⑧自己調整力	⑨問題解決力	⑩積極的行動力	⑪リーダーシップ力	⑫革新的創造力	
春	専門	ASEANの華人ビジネス				◎	◎					○			
春	専門	日本的経営思想			◎					◎		○	○	◎	
春	専門	海外派遣者のストレスマネジメント										◎			
春	実践応用	海外子会社における人事労務政策				◎						◎		○	
春	実践応用	海外子会社の経営者として必要な能力			○		◎					◎			
春	実践応用	海外事業体（子会社）におけるコンプライアンス体制		◎			◎			○		○		◎	
春	実践応用	プレゼンテーション・スキルとその活用			◎	◎								○	

学期	カテゴリ	能力 科目名	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
			知識理解力	異文化適応力	人間関係力	経営交渉力	問題認知力	批判的思考力	主体的判断力	自己調整力	問題解決力	積極的行動力	リーダーシップ力	革新的創造力
秋	実践基礎	経営者のためのシンキングチャートの活用					○	◎						
秋	実践基礎	異文化コミュニケーション	◎		○			◎	○					
秋	実践基礎	経営戦略					○	○			◎			◎
秋	実践基礎	マーケティング戦略			○		○		◎			◎		◎
秋	実践基礎	組織・運営戦略			◎		○						◎	○
秋	実践基礎	子会社経営で直面する課題 (ケーススタディ)			○		◎				◎			
秋	専門	ASEAN 経済	◎				◎							○
秋	専門	日本的経営思想			◎				◎		○	○	◎	
秋	専門	ASEAN 法律制度		○			◎				◎			
秋	専門	管理会計入門					◎	○	◎					
秋	専門	ASEAN 発展論	◎				◎	○			○			
秋	専門	企業会計入門					◎				○			
秋	専門	ASEAN の華人ビジネス				◎	◎				○			
秋	専門	会計情報の利用					◎		◎		○			
秋	専門	グローバル経済	◎						○					
秋	専門	ASEAN の地理・歴史	◎	○										
秋	専門	ASEAN の宗教・文化		◎	○									
秋	専門	国際租税法入門					◎		◎		○			
秋	実践応用	プレゼンテーション・スキルとその活用			◎	◎							○	
秋	実践応用	海外派遣者のストレスマネジメント								◎				
秋	実践応用	海外事業体（子会社）における経営者の役割・コンプライアンス体制		◎			◎		○		○		◎	
秋	実践応用	子会社経営で直面する課題 ー人事労務政策ー				◎					◎		○	
秋	実践応用	グローバル企業の人材育成					◎		○		◎	○		
秋	実践応用	海外子会社の経営者として必要な能力			○		◎				◎			
秋	実践応用	経営者の戦略的役割				◎			○			○	◎	

## 2-2-2 シラバス作成 (例)

氏名	所属 (研究科・専攻等)	学位	専門	
西尾三津子	教育推進部	博士 (情報学)	教師教育、授業設計	
科目名	プレゼンテーション・スキルとその活用		時間数	90分×4
授業概要・到達目標				
<p>■授業概要</p> <p>現代のグローバル社会において、プレゼンテーション・スキルは必須の能力として求められている。ある課題についての自己の新たな考えは、他者に分かりやすく表現し実行することで、さらなる価値を生み出す。本授業では、まず、プレゼンテーションをするためのスキル (手順や情報収集の仕方、内容構成の仕方、効果的な表現の仕方 等) を理解し習得する。その後、習得したスキルを活用して学習者自身が設定した課題について、目的意識を明確にしたプレゼンテーションを行う。</p> <p>本授業のゴールは、学習者が「プレゼンテーション・スキルを習得するとともに、課題について他者と共有しながら、自己の意見を論理的に表現し、実務へ活用可能なものとして実感する」ことである。教員は、学習者のプレゼンテーション・スキルの習得と活用意欲の向上のために、学習者同士の双方向の学び合いを重視し、的確なアドバイスを行うように配慮する。併せて、プレゼンテーションのルーブリックの活用法についても理解を促すようにする。</p> <p>■修得すべき能力</p> <p>◎経営交渉力、人間関係力      ○リーダーシップ力</p> <p>■到達目標</p> <p>①課題に関する情報収集の仕方や論理的な構成の仕方を主とするプレゼンテーション・スキルを習得することができる。</p> <p>②プレゼンテーション・スキルを活用して、課題について他者と共有しながら自分の意見を論理的に主張することができる。</p>				
授業計画				
<p>0) 事前学習：社会人に求められるプレゼンテーションの意義や活用法について考える。</p> <p>1) プレゼンテーションの手順や構成の仕方、効果的な資料作成の方法について考える。 (座学0.3、ディスカッション0.7)</p> <p>2) ~4) 学習の総括としてのプレゼンテーションを行う。(プレゼンテーション0.6、ディスカッション0.4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーション・スキルを活用して、課題について論理的に主張する。</li> <li>・プレゼンテーションについて意見交流を行う。</li> <li>・プレゼンテーションのルーブリックを活用して、自己評価や相互評価を行う。</li> </ul>				
成績評価の方法・基準				
<p>プレゼンテーション (90%) と評価カード (10%) をもって評価する。</p> <p>&lt;プレゼンテーションの評価基準&gt;</p> <p>秀・課題について根拠を明確にして自分の考えを論理的に主張し、特に優れているもの。</p> <p>優・課題について根拠を明確にして自分の考えを論理的に主張している。</p> <p>良・課題について自分の考えを論理的に主張している。</p> <p>可・課題について自分の考えを主張しているが論拠が不十分である。</p>				
担当授業科目や産学連携に関する業績・経歴				
<p>経歴：教師経験をもとに、国際協力機構 (JICA) の専門家として、8年間ボリビア多民族国への教育技術支援に携わってきた。プロジェクトの終了後も、NGO活動として、現在も定期的にフォローアップを継続している。また、大学においては、複数の学部において教職課程科目 (教育方法技術及びカリキュラム開発論) を担当している。</p>				
授業時間外学習				
<p>日常業務におけるプレゼンテーションを想起し、社会で求められているプレゼンテーション・スキルとその活用について関心をもつ。</p>				
備考 (教科書等の教材や課題内容等)				
<p>レジュメやプレゼンテーションのルーブリック、参考資料は必要に応じて配布する。</p>				



## 2-2-3 春学期開講科目

番 号	春1	科目名	ASEANの華人ビジネス
担当者	吉野文雄		
反転授業	5月18日（水）～配信開始		
対面授業	6月11日（土）：千里山キャンパス（TV会議）、東京センター 90分×2コマ 7月2日（土）：千里山キャンパス（TV会議）、東京センター 90分×2コマ 計90分×4コマ		
主たる能力指標	④経営交渉力 ⑤問題認知力		
授業内容	ASEAN地域のビジネスは華人の存在を抜きにしては語れない。日本でビジネスを展開するにあたって、たとえばいくつかの財閥についての知識があるかないかでは成果は全く変わってくるであろう。それと同様に、ASEAN地域では、どの企業がどこ出身の華人によって所有されているか、そのネットワークはどのように構築されているか、中国との関係はどうなっているのかを知らないままに成果を上げることはむずかしい。この講義では、ASEAN地域の華人とはどのような存在かを知ったうえで、産業における華人ビジネスを位置づける。さらに、中国や台湾といった彼らの母国の経済との関係を論じ、最後にASEAN地域で活動する日本企業にとっての含意を得る。		
担当講師の リフレクション	<p>華人ビジネスという概念を初めて聞いた人と、実務の中で経験している人との温度差があったと思われる。また、受講者の業務のフィールドが違うので、満足度に差が出たのだろう。本科目と実務とをどのようにリンクさせていくかが今後の課題である。そのために、知識伝達も必要だが、グループワークなどの参加型学習形態を入れるという点も考えていきたい。</p> <p>また、反転授業を視聴している人としていない人の割合は17：5であり、両者の意識の差が大きいと思われる。視聴していない人が授業の中で理解が深まったかどうか疑問である。反転授業を視聴していない人のために、対面授業の前段に反転ビデオを流すという点も考えてみてはどうかと思う。</p>		



東京にいる講師の話を聴く大阪会場の受講者



意見を模造紙にまとめながらディスカッション

番号	春2	科目名	日本的経営思想
担当者	田中一弘		
反転授業	5月18日（水）～配信開始		
対面授業	6月11日（土）：千里山キャンパス、東京センター（TV会議） 90分×2コマ 6月18日（土）：千里山キャンパス（TV会議）、東京センター 90分×2コマ 計90分×4コマ		
主たる能力指標	③人間関係力 ⑦主体的判断力 ⑩リーダーシップ力		
授業内容	<p>日本的経営思想と題するこの科目では、「知識としての日本的経営思想について広く学ぶ」よりもむしろ「実践の指針としての日本的経営思想を深く学ぶ」というスタンスで授業を行う。言い換えれば日本的経営を頭にいれるのではなく、肚に落とし込む、ということを目指す。</p> <p>日本的な経営思想のエッセンスとして、この授業では(1)「道徳と経済の両立」と(2)「良心による経営」という2本の柱を立てる。(1)では、一見矛盾すると思われがちな道徳と経済が「本質的に一致する」と強く主張するとともに、それを実践して近代日本産業の礎を築いた実業家・渋沢栄一の思想に注目する（ただし、こうした考え方は渋沢に限らず東洋において伝統的に見られるものといえる）。(2)では、とかく人の損得勘定やアメとムチに訴えがちな現代の経営（理論）にあつて、我々日本のビジネスが、それとは異なる価値観（例えば責任感や互いの慮り）に基づく実践をしてきたことに皆さんが「明示的に」気づいてそれを言語化するのを促すのが狙いである。</p>		
担当講師の リフレクション	<p>反転授業の効果は高いと思うが、その際の事前課題が多すぎたかもしれない。質の高い授業を担保するにはあの量は必要であるが、社会人受講生という点を考慮することも必要である。</p> <p>受講者の層の幅が広いので、すべての受講者のニーズにマッチしたとは言えないかもしれないが、受講者との双方向のやり取りを取り入れながら、できれば意識の高い層に焦点を当てたい。また、日本的な経営思想とアジア地域の経営思想を統合・融合していく方法については、現在、研究しているので、次年度ではそういう要素を入れた授業を考えてみたい。</p> <p>今後の課題としては、本プログラムで活用しているテレビ会議システムについては限界があり、遠隔授業を受けている受講者と講師が双方向のやり取りをするには、時間的にも授業の流れからも改善が望ましい。</p>		



講師のアドバイスを取り入れたディスカッション



ディスカッションの結論をカメラの前で発表

番号	春3	科目名	海外派遣者のストレスマネジメント
担当者	川端康雄		
反転授業	6月9日（木）～配信開始		
対面授業	7月9日（土）：千里山キャンパス、東京センター（TV会議） 90分×2コマ		
主たる能力指標	⑧自己調整力		
授業内容	<p>近年、心理学の分野では、個人の強みや長所を研究するポジティブ心理学が注目されるようになり、こころの回復力（レジリエンス）がストレス・マネジメントにおいて重要な役割を果たすことが報告されるようになった。ストレス・マネジメントには、問題に向き合う方法とメンタル不調を遠ざける生活習慣作りの方法があるが、海外生活では、赴任前のような人的サポートや社会的資源が得られにくいことがあり、上述のような生活習慣作りを意識的に行うことが特に重要である。</p> <p>授業では、ストレスに関して心身両面からの理解を図り、「避けず、息まず、考え込まず」というキーワードを用い、こころの回復力が発揮されやすい対処法や生活習慣について学ぶ機会とする。また、適宜、リラクゼーション技法を紹介し、授業の中で体験学習も行う。</p>		
担当講師の リフレクション	<p>様々な背景を持つすべての受講者のニーズにマッチしたとは言えないかもしれないが、専門用語もあるので、できるだけ分かりやすく説明するようにした。ほとんどの受講者が満足してくれたようだが、内容の深まりにやや物足りなさを感じた受講者もいたようである。また、授業で学んだことを、すぐに職場で実践してくれているのは嬉しいことである。受講者の吸収力が高いと思われる。</p> <p>40代後半から50代の受講者は、部下の育成に携わる立場で、今回の授業は、自身のためであると同時に、部下への育成にも活用できるように配慮した。受講者からも、即座に実務で実践しているという声を聴き、このような形で学びが浸透していくのは望ましいことである。</p>		



講師と受講生との双方向の学び合い



価値観についての活発なアクティビティ



番号	春4	科目名	海外子会社における人事労務政策
担当者	仲本利明		
反転授業	なし		
対面授業	5月21日（土）：千里山キャンパス、東京センター（TV会議）90分×2コマ 5月28日（土）：千里山キャンパス、東京センター（TV会議）90分×2コマ 計90分×4コマ		
主たる能力指標	④経営交渉力 ⑨問題解決力		
授業内容	<p>海外では、日本の常識は当てはまらない。日本人的な価値観や感覚で企業運営を行っている、思わぬ落とし穴に遭遇することがある。本授業では、ASEANの子会社におけるケーススタディの中から、人事労務問題に関するトラブルに視点をあて、受講者が当事者意識をもって問題への対処の仕方を考える。その際、トラブルの背景にある要素を整理しながら、その解決法について互いの考えや経験を基に、グループで議論を深めていくように支援する。授業のゴールは「海外子会社の経営者として人事労務問題に対処する際のポイントを提案すること」である。教員は、受講者から提案された問題解決のための具体的な方法に関して的確なアドバイスを行うようにする。</p>		
担当講師のリフレクション	<p>人事労務というテーマに関しては、深く掘り下げた授業ではなく、ケーススタディとして取り上げて、実践的な内容として提供した。人事労務に関してキーとなるような事柄が得られたかどうかについては、勉強した人（意識の高い人）は、ニーズに合っていないと言うかもしれない。今後、専門的な内容も含めて検討したい。自分はインドネシアで経営者を経験し、人事労務問題にも関わってきたが、経験としては限られているかもしれない。人事労務政策に関してより専門的な内容が求められるなら、授業内容の検討が必要であろう。</p> <p>また、授業内での双方向学習に留まらず、授業後に受講者と懇談会などをして、そこでざっくばらんな話を本音でするような場があってもいいだろう。また、受講者からの意見については、授業という制約の中ではコメントは予想できるもので、今後は、個々の疑問に答える場を検討してはどうか。これは、授業のもつ限界なので、授業設計上の工夫が期待される。</p>		



ワークシートを元にディスカッションを展開



結論を書いたホワイトボードを見せながら発表

番号	春5	科目名	海外子会社の経営者として必要な能力
担当者	永吉賢吾		
反転授業	5月25日（水）～配信開始		
対面授業	6月25日（土）：千里山キャンパス、東京センター（TV会議）90分×2コマ 7月2日（土）：千里山キャンパス（TV会議）、東京センター 90分×2コマ 計90分×4コマ		
主たる能力指標	⑤問題認知力 ⑨問題解決力		
授業内容	<p>海外であれ国内であれ、経営者に求められる使命は継続的な利益を獲得し、株主、従業員に報いることであり、そのための戦略性とリーダーシップが最も重要な能力である。それをしっかり肝に銘じた上で、主としてASEANでの子会社経営で特に求められる能力を学びたい。本授業では、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 子会社の経営戦略構築</li> <li>2) 資金調達、税務リスク対応</li> <li>3) 労務問題対応</li> <li>4) 親会社との付き合い方</li> </ol> <p>をテーマとして、学習者が当事者意識をもって経営者としての能力を身につける道筋を考える。その際、各種の課題を抽出、整理しながら、課題への対応について互いの考えや経験を基にグループで議論を深めていくように支援する。</p>		
担当講師のリフレクション	<p>授業評価アンケートの集計結果から、受講者にとって学習効果があったことが読み取れた。どの受講者も意欲的に取り組み、自分も不慣れではあったが楽しめた。受講者のレポート（質問）に関する回答などをまとめたので、一覧表にして今後の参考にしてほしい。今後、グループワークの時間を確保することや、受講者の意見交流を活発にするための場の設定を工夫する必要がある。また、授業内容については、広く浅く学ぶことを期待する受講者と一つのことを掘り下げて学びたいと考える受講者がいる。それらのニーズを把握しながらも、学習目標や内容を明確にすることで検討していきたい。</p> <p>本授業は、インドネシアに特化した内容であったが、他国（タイやベトナム）も事例に取り上げてほしいという意見があった。しかし、自分はインドネシアでの会社経営の経験を基に授業を構成している。一つの事例を受講者が自分の状況に当てはめて応用できるような方向付けを示唆したい。</p>		



講師の経験知を共有する受講生



グループの代表によるプレゼンテーション

番号	春6	科目名	海外事業体（子会社）におけるコンプライアンス体制
担当者	野本隆		
反転授業	なし		
対面授業	6月25日（土）：千里山キャンパス、東京センター（TV会議） 90分×4コマ		
主たる能力指標	②異文化適応力 ⑤問題認知力 ⑩リーダーシップ力		
授業内容	<p>本授業は、現在 海外事業体の社長をはじめ、全ての日本人出向員、及び 近々、海外に赴任される方を対象としている。</p> <p>海外事業体（子会社）で直面するコンプライアンスに係わる課題において、経営者としてどのように考え、行動すべきかを事例・ディスカッションを通じて考え、理解する。</p> <p>本授業では、①海外事業体に於ける「コンプライアンス」とは何かを理解する。②「今、コンプライアンスが重視される理由」を理解する。③海外事業体に於ける「コンプライアンス遵守の難しさ」を日本と海外のいろいろな相違点から学ぶ。④海外に於ける「コンプライアンス違反の具体例」を学ぶ。⑤「コンプライアンス違反防止に向けた体制の整備と行動指針」を考える。</p>		
担当講師の リフレクション	<p>授業で取り上げた事例について、各受講者が自社の状況に当てはめて、主体的に考えていたのは授業の成果としてよかったと思う。ただ、今回の受講者の層の幅（年齢や役職）が広がった。本科目は、一定の経験を持った管理職レベルの者が受講するのがふさわしい。部下を持ち、一つの会社または部署を組織という視点で運営していく意識は、実務経験の浅い受講者には、知識としてわかっても実感は難しいと思われる。</p> <p>また、会社の理念や組織形成については、頭の中でイメージしても実際の実務の中で役立てないといけない。本科目の評価はレポートで測れるものではなく、科目を履修した受講者が、その後実務の中でどのように実践しているか、点検する必要がある。また、実践を促すには、ただ教えるだけではなく、実践の過程でのサポートが必要である。（プロセスの評価、励まし、承認など）例えば、受講後、現地に行きその成果を見届ける等、実行できて初めて真の評価といえるだろう。</p>		



講義に聴き入る大阪・東京の受講者たち



TV会議を通して東京の発表を聞く講師・大阪の受講者



番号	春7	科目名	プレゼンテーション・スキルとその活用
担当者	西尾三津子		
反転授業	なし		
対面授業	5月28日（土）：千里山キャンパス、東京センター（TV会議）90分×1コマ 7月16日（土）：千里山キャンパス、東京センター（TV会議）90分×3コマ 計90分×4コマ		
主たる能力指標	③人間関係力 ④経営交渉力		
授業内容	<p>現代のグローバル社会において、プレゼンテーション・スキルは必須の能力として求められている。ある課題についての自己の新たな考えは、他者に分かりやすく表現し実行することで、さらなる価値を生み出す。本授業では、まず、プレゼンテーションをするためのスキル（手順や情報収集の仕方、内容構成の仕方、効果的な表現の仕方等）を理解し習得する。その後、習得したスキルを活用して学習者自身が設定した課題について、目的意識を明確にしたプレゼンテーションを行う。</p> <p>本授業のゴールは、学習者が「プレゼンテーション・スキルを習得するとともに、課題について他者と共有しながら、自己の意見を論理的に表現し、実務へ活用可能なものとして実感する」ことである。教員は、学習者のプレゼンテーション・スキルの習得と活用意欲の向上のために、学習者同士の双方向の学び合いを重視し、的確なアドバイスを行うように配慮する。併せて、プレゼンテーションのルーブリックの活用法についても理解を促すようにする。</p>		
担当講師のリフレクション	<p>社会人であれば日々の実務の中でプレゼンテーションと関わる機会を持っている。プレゼン能力は社会人のキャリアアップに欠かすことのできないスキルである。ただ、効果的なプレゼンの要件やスキル獲得のポイントについて学ぶことが少なかった受講者が、その基本的スキル、及び作成手順や表現方法が習得できたことは授業の成果であったと思われる。また、他者のプレゼンを聞いて自己に活かすという相互評価や、第三者による評価を取り入れたことで、受講者は新たな視点を獲得することができたと思われる。ただ、授業の時期が7月と企業にとっては繁忙期にかかったため、参加受講者が少なかったのが残念であった。今後は全体のカリキュラム・マネジメントに関しても検討をしていく。</p>		



プレゼンテーションの要素や構成についての講義



プログラム受講の成果についてのプレゼンテーション

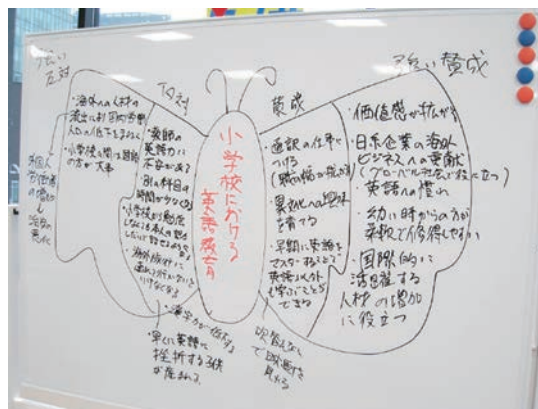
## 2-2-4 秋学期開講科目

※秋学期の授業は全て梅田キャンパスにて実施

番号	秋1	科目名	経営者のためのシンキングチャートの活用
担当者	西尾三津子		
反転授業	9月24日～配信開始		
主たる能力指標	⑥批判的思考力		
対面授業	10月8日（土）：90分×2コマ 10月22日（土）：90分×2コマ		計90分×4コマ
授業内容	<p>シンキングチャートは、思考プロセスを視覚化するための枠組み図であり、個々の思考活動を支援するためのツールである。具体的には、①自己の考えや問題を明確にする ②情報や考えを選択・整理する ③他者と意見を共有する ④新たな知識や考えを構築する ⑤考えや意見を評価する という目的をもつ。本来、ブラックボックスとされる「考える」という言語活動は、視覚化することでより明確になり、個々の考えを表出し合うことで新たな視点を生み出すことができる。</p> <p>とりわけ、経営者は、様々な場面において経営判断を迫られることが多いが、その際、多面的な視点から批判的に問題を認識し分析する力が求められる。本授業では、シンキングチャートの理解を図るために、実務と関わる具体的なテーマを取り上げ、グループワークの中で実務へ活用可能なものとして実感させる。本授業のゴールは「経営者として問題を認知し、問題解決に向けて効果的なシンキングチャートを選択し活用する」である。教員は、受講者の思考スキル向上のために、受講者同士の双方向の学び合いを重視し、的確なアドバイスを行うように配慮する。</p>		
リフレクション	<p>梅田キャンパスの教室は、設備的、空間的にも活動しやすく、アクティブラーニングに適した優れた学習環境である。受講生は、他者と関わり合いながら能動的に課題に取り組むことができたと思われる。</p> <p>本科目において、日常的に思考活動をしている社会人が、改めて「考える」ことを焦点化し、自己の思考プロセスを視覚化することができた。そのような意味で、受講生に新たな視点を提供するものであったと思われる。また、経営上の課題を事例にグループで議論し、新たな視点を導きながら課題を多面的にとらえることができた。</p> <p>反転授業で、事前にシンキングチャートの意義や活用方法を理解していたので、対面授業では、その学習を前提としてグループでの議論を行い、理解を深めることができたのはよかった。また、バックグラウンドの異なる受講者が、問題解決の場面で習得したシンキングチャートを、独自に組み合わせたりカスタマイズしたりして活用している姿があった。今後、他の科目を学習していく中で、自己の思考活動を視覚化し学習効率をあげるための一つのツールとして活用していくことを期待している。</p>		



テーマに関するイメージの視覚化と共有化



議論の結論をまとめたバタフライチャート

番号	秋2	科目名	異文化コミュニケーション
担当者	久保田真弓		
反転授業	10月2日（日）～配信開始		
主たる能力指標	①知識理解力 ⑥批判的思考力		
対面授業	10月16日（日）：90分×2コマ 11月5日（土）：90分×2コマ 12月10日（土）：90分×2コマ 12月17日（土）：90分×2コマ 計90分×4コマ		
授業内容	海外でビジネスを成功裏に展開するうえでは、異文化接触時における「文化」と「コミュニケーション」の捉え方が重要になってくる。特に、文化習慣、価値観、態度、時間感覚、宗教、コミュニケーション・パターンなどの相違を理解して、状況に応じて意味交渉ができることが要である。そこで、本授業では、異文化コミュニケーション分野の理論について言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション、価値観、宗教観、企業文化、倫理観の視点から学習し、異文化コミュニケーションの現象を多角的に理解・分析する視点を身に付けることを目指す。その際に、講義の他、討論、シミュレーション・ゲームを活用する。		
リフレクション	<p>集中合宿授業で異文化コミュニケーションを実感するワークショップを設定した。授業展開として、＜反転授業⇒課題⇒レポート⇒ワークショップ＞の間隔が調整できず、ワークショップの結果をふまえてのつながりが作りにくかった。次回は、学習内容の関連をふまえて、授業日時の調整をする必要があると思われる。</p> <p>本科目では文化の島をキーワードにし、それを軸として据えたのは、受講者の分かりやすいという評価につながっている。授業の後半で最後に企業文化につなげるのは意味があると考え。一方、異文化コミュニケーションに関わる専門用語の定着を確認するためにイメージマップにまとめさせる方法もある。日々の生活の中でも、異文化コミュニケーションで学んだ「やったことは見えるし、見えるような目を作る」必要がある。今後の改善点として、資料としての読み物が長く時間を取られるので、予め冊子の形にして、事前に読める人へ提供しておきたいと考える。</p> <p>社会人受講者は意欲的で、若い人でも率先してグループワークで意見を述べる。社長の立場の人は保守的で考えが固いように思われるが、グループ編成の工夫により様々な意見が出し合えて興味深かった。受講生がASEAN現地の実務に照らし、異文化コミュニケーションの理論を理解しようと意欲的に活動していたのがよかった。</p>		



六甲山荘で行なわれた初回授業



全面ホワイトボードを活用した意見交流



番号	秋3	科目名	経営戦略
担当者	吉田史朗		
反転授業	11月11日（金）～配信開始		
対面授業	11月25日（金）：90分×2コマ 12月2日（金）：90分×2コマ		計90分×4コマ
主たる能力指標	⑨問題解決力 ⑫革新的創造力		
授業内容	<p>近年グローバル化の進展は目を見張るものがある。しかし、その大半は国内市場の閉塞感から来る一種の風潮として、海外とりわけ成長著しいASEANにまず進出するといった傾向が見られる。その結果、大きな投資を無駄にする事例も多く見られる。本授業では、そもそも海外進出の意味するところは何かを二つの経営戦略、すなわち企業戦略（成長戦略）的視点から、もう一つは競争戦略的視点から、今注目をされている代表的な経営戦略論によるアプローチを通して、又、様々な企業事例を通して、受講者間のグループ討議や教員とのディスカッションによって明確にしていきたい。授業のゴールは「海外進出を経営戦略の戦略オプションとして位置づけられること、更に実現に向けて具体的で的確な進出エントリーモードを描けること」である。</p>		
リフレクション	<p>一般的に経営戦略は難解である。日々の業務においてもなじみが無い。企業も戦略を作っているところが少ないため、経営計画と戦略を混同させていることが多く、内容を理解した上で作っていくことは難しい。特に、海外に進出する企業に関するテーマの戦略についてはもっと難しい。本科目を受講した受講生の最終課題の提出内容をみると、学習内容の概要は理解しても、体系的に理解できた方はそれほど多くはないだろう。しかし、経営戦略の理解の入口に立つという意味で価値のある授業になったと思う。</p> <p>今後の課題としては、事例的、ケース的なものを扱う中でディスカッションの時間を充実させ、実践的に重要なところはじっくり議論する必要がある。経営はケース毎に異なり、ワンパターンなものではないので、自らの経験や知見をぶつけ合わせて過去、現在、未来とみていけるとよい。社会人受講者への配慮として、実務的な内容を焦点化して提供した。学んだことを活かすかどうかは会社の様々な立場と事情による。</p> <p>反転授業については、効果的であるがゆえに今後も検討をしていく必要がある。受講者の立場に立ったとき、文字言語から理解するのか音声言語で理解するのか、効果効率の視点で、今後、検討していきたいと考える。</p>		



議論中はホワイトボードで情報共有

	×/リット	デ×/リット
間接貿易	回収しなし 為替の影響小...	利幅少ない
直接貿易	利幅大きい	回収し大... 為替の影響大...
間接投資	身軽 効率的(アパズ)	事業不透明... 利益比較的小...
直接投資	事業拡大 利益大 (速い伸ば)	身重(撤退遅い...) 初期投資大...

分析の結果をマトリクスに整理

番号	秋4	科目名	マーケティング戦略
担当者	嶋えりか		
反転授業	11月25日（金）～配信開始		
対面授業	12月9日（金）：90分×2コマ 12月16日（金）：90分×2コマ		計90分×4コマ
主たる能力指標	⑦主体的判断力 ⑩積極的行動力 ⑫革新的創造力		
授業内容	<p>P.F.ドラッカーは、企業の目的は「顧客の創造」であり、これに必要なのは「マーケティング」と「イノベーション」であると言っている。（「マネジメント[エッセシャル版] -基本と原則」より）</p> <p>マーケティングとは「売れる必然」、イノベーションとは「物事の新しい捉え方、切り口、活用法」のことである。海外子会社において「顧客の創造」を実現するためには、現地の人々（消費者・生活者・ユーザー）を起点とした発想で、売れる必然を追求していくことが肝要である。授業では、現在世界中で注目が高まっている、イノベーションのための問題解決プロセス技法「デザイン思考」をベースに、マーケティング戦略を学んでいく。</p>		
リフレクション	<p>マーケティングはまだ日本には浸透していない概念で、売れる必然の流れを見出すために学ぶことが必要である。売れる仕組みの概念はないため、授業では受講生に気づきを与えられるといいと考えた。今回の受講生はBtoBの人が多いのでは分かっていたが、あえてBtoCのマーケティングにチャレンジした。結果として、授業内容が役に立ったという受講生の回答が得られて良かったと思う。</p> <p>本科目では、BtoBを応用したいという受講生のニーズを受け、そのためにはBtoCの観点が必要であるということをお伝えしたつもりである。また、デザイン思考について反転授業でお伝えしたが、それをマーケティングのベースに据えつつ同一線上としてとらえ、対面授業を実施した。</p> <p>昨年度実施した授業のリフレクションを基に、さらに授業改善をして今回の授業を実施したので、受講生からの反応が良かったのはありがたい。今後の改善点として、もう少し受講生の反応をとらえた上でワークの事例について検討したい。</p> <p>社会人は全体的に意欲的だが、受講生の層が広いので、反応はやや二極化しているように思える。社会人に対する配慮として、相手を尊重するということが授業の中で心がけ、意見を引き出すようにした。マーケティングを理解している人も不慣れな人も、積極的に議論し合い実務に活用してもらえれば考える。</p>		



用語や概念についての学術的な講義

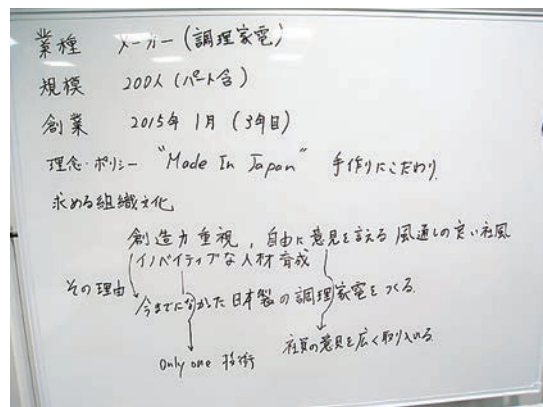


会計職大学院の学生とも一緒に議論

番号	秋5	科目名	組織・運営戦略
担当者	屋代徳文		
反転授業	12月23日（金）～配信開始		
対面授業	1月6日（金）：90分×2コマ 1月13日（金）：90分×2コマ		計90分×4コマ
主たる能力指標	③人間関係力 ⑪リーダーシップ力		
授業内容	<p>グローバル視点で立案した経営戦略を実行していく上で、どう組織を編成し動かしていくのか。どう人財を配置、育成しパフォーマンスを上げていくのか、そしてどう評価し報酬に結び付けていくのかを考えていく。授業の中では、具体的な事象と抽象的な理論を何度か行き来することで、実践と理論を結合させ高めていくことを目指す。グループ討議も多く取り入れ、ASEAN、中国やインドなどでリパース・イノベーションを実現していくことについても討議していく。</p>		
リフレクション	<p>本科目は、難解なテーマではあるが、受講生の授業に対する姿勢もよく、熱心に取り組んでいた。しかし、受講生間において、職位、経歴、実務経験や海外の経験の有無によりレベル間の違いがあり、全ての人のニーズにマッチするのは困難な部分もあった。一方、受講生の自由記述の中に、今後の実務への活用が具体的に記述されているのは、授業の成果であると思われる。</p> <p>今後の検討事項としては、現場での人事制度、海外子会社での人事制度についての扱いである。海外での人事の問題は、日本のものをそのまま持っていくと使えないしどのようにアレンジするかが重要である。本科目は、組織運営なので、あまり人事に特化すると焦点がぼやけるおそれもあり授業設計に苦慮した。</p> <p>受講生は、多くの具体例を求めるが、授業で取り扱った具体的なものをどう抽象化するのか、その見方、思考のプロセスが大事である。今後、具体的な話について、受講生自身が要約するような場面を設定し考えを深めるという習慣も必要であろう。</p> <p>社会人受講生への配慮としては、ゴールを意識しながら展開し、メリハリをつけいろいろなトピックスを取り扱った点である。授業終了後には目標に到達したかどうか受講者自身が意識できるようにした。評価の物差しは、レポートが中心だが、ディスカッションの場면을期間巡視し観察することが重要である。</p>		



講義中の活発なミニディスカッション



仮想の企業を設定して企画の立案



番号	秋6	科目名	子会社経営で直面する課題（ケーススタディ）
担当者	仲本利明		
反転授業	1月6日（金）～配信開始		
対面授業	1月20日（金）：90分×2コマ 1月27日（金）：90分×2コマ		計90分×4コマ
主たる能力指標	⑤問題認知力 ⑨問題解決力		
授業内容	<p>海外では、日本の常識は当てはまらない。日本人的な価値観や感覚で企業運営を行っている、思わぬ落とし穴に遭遇することがある。本授業では、ASEANの子会社におけるトラブル事例の中から、1) 人間関係構築におけるトラブル 2) 子会社と親会社の関係におけるトラブル 3) 人事労務問題に関するトラブル の3点に視点をあて、学習者が当事者意識をもって問題の対処法を考える。その際、トラブルの背景にある要素を整理しながら、その解決法について互いの考えや経験を基にグループで議論を深めていくように支援する。授業のゴールは「海外子会社の経営者としてトラブルに対処する際のポイントを提案すること」である。教員は、受講者から提案された問題解決のための具体的な方法に関して的確なアドバイスを行うようにする。</p>		
リフレクション	<p>受講生の最終課題レポートから、経営者としての心構えを意識しているのが伝わった。授業で提供した「気の10か条」は、人間として当たり前のことであり、経営者はより人間として磨かれるべきものである。多くの事例の提供を望む受講生がいるが、事例はあくまでいくつかのことを事例として考えるものであり、事例からより普遍的なこと、大事なことを学ぶことが重要である。事例は100しても十分ではない。そこから何を学ぶのかについては自分で考えるべきである。つまり、「人間とは何か」ということであり、それは授業で扱った「気の話」につながる。</p> <p>今回の授業では受講生が16人と少なく、グループワークで深く掘り下げた議論ができなかった。異業種の受講生からより活発な意見が多く出せるようなグループの編成のあり方、及び、ケーススタディのテーマを工夫する必要がある。</p> <p>授業外の時間で、受講生同士、または受講生と授業担当者が自由に情報交換をする場を設定することは価値がある。今回、実施したような学習時間外のテーマを決めた勉強会も効果的であった。</p>		



先生とも意見を交わしながらのディスカッション



アレンジしたシンキングチャートでの議論

番号	秋7	科目名	ASEAN経済
担当者	後藤健太		
反転授業	9月28日（水）～配信開始		
対面授業	10月12日（水）：90分×2コマ 10月19日（水）：90分×2コマ		計90分×4コマ
主たる能力指標	①知識理解力 ⑤問題認知力		
授業内容	<p>本講義では、東南アジアで広がる国際的な生産・流通ネットワークのダイナミックな展開の実態と、産業高度化の課題と可能性を、近年注目されるようになったグローバル・バリュー・チェーン（GVC）の分析枠組みを用い、日系企業の視点から明らかにし、その国際化戦略の策定に必要な能力を養うことを目的とする。そのため本講義では、①ASEANを含むアジア経済の地域統合の実態をレビューし、②GVC分析枠組みを習得し、③それを用いて各自の企業の高度化戦略を考察する予定である。</p>		
リフレクション	<p>受講生には色々な業種の人がいると同時に、同じ業種でも海外派遣の経験がバラバラなので、ターゲットの当て方が絞りにくいため、受講生のニーズに合致しにくい場合もある。しかし、総じて授業としてやりにくかったところは特に無い。梅田キャンパスの教室の学習環境も使いやすい。夜間の時間帯での授業は社会人への配慮の一つだが、受講生が疲れている感じが見えるため、休憩時にリフレッシュタイムがいるかもしれない。研修期間を今よりも延ばすのも一つだが、学んだことを忘れてしまったりするので、今後検討は必要である。</p> <p>社会人の学びの場合、年齢もバックグラウンドはバラバラで、学生のようにある程度、粒が揃ってはいない。従って、本科目では、今、このような問題があり、これは重要であることに気づける程度でいいのではないか。更に勉強したい人にはリソース（参考文献やジェトロなど）を提示する。その後、自分の組織に併せて応用するべきである。受講生各自がそれぞれ持ち帰って適応することが社会人と学生の違いである。</p> <p>反転授業の効果は受講生が感じている通りである。20分の長さはちょうどいい。接続も反転授業を見て、事前課題をした人は対面でもうまくいっていた。反転授業に問題は無いが、設計や作成には時間が取られる。反転授業で使ったスライドを対面で出して接続性を高める。視聴率も高く事前課題への取組も高いのはありがたい。</p>		



GVC 分析についての講義

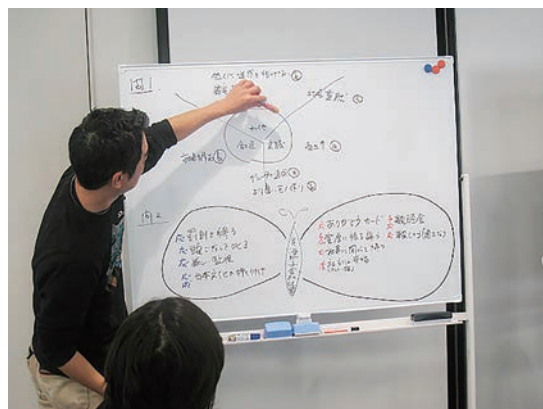


各自分析を行った結果を小グループで共有

番号	秋8	科目名	日本的経営思想
担当者	田中一弘		
反転授業	10月8日（土）～配信開始		
対面授業	10月22日（水）：90分×2コマ 11月26日（水）：90分×2コマ		計90分×4コマ
主たる能力指標	③人間関係力 ⑦主体的判断力 ⑩リーダーシップ力		
授業内容	<p>日本の経営思想と題するこの科目では、「知識としての日本の経営思想について広く学ぶ」よりもむしろ「実践の指針としての日本の経営思想を深く学ぶ」というスタンスで授業を行う。言い換えれば日本の経営を頭にいれるのではなく、肚に落とし込む、ということを目指す。</p> <p>日本的な経営思想のエッセンスとして、この授業では(1)「道徳と経済の両立」と(2)「良心による経営」という2本の柱を立てる。(1)では、一見矛盾すると思われがちな道徳と経済が「本質的に一致する」と強く主張するとともに、それを実践して近代日本産業の礎を築いた実業家・渋沢栄一思想に注目する（ただし、こうした考え方は渋沢に限らず東洋において伝統的に見られるものといえる）。(2)では、とかく人の損得勘定やアメとムチに訴えがちな現代の経営（理論）にあつて、我々日本のビジネスが、それとは異なる価値観（例えば責任感や互いの慮り）に基づく実践をしてきたことに皆さんが「明示的に」気づいてそれを言語化するのを促すのがねらいである。</p>		
リフレクション	<p>受講生の学習への熱意とレベルは高く、限られた時間で積極的に多くのことを学んでいた。授業担当者としても全体的に手ごたえを感じながら、授業を進めることができ、受講生から得るものもあつた。授業では、できるだけ受講生の経験や悩み、実務で直面していることを取り上げ、クラスでの議論の場にするように配慮した。</p> <p>今後の課題としては、受講生の反応を確かめながら授業を深く掘り下げ、そのプロセスで、受講生が内容を飲み込み納得する時間を設定することである。その点について工夫をしていきたい。</p> <p>反転授業は、事前に知識を得る意味でも効果が高い。また、事前課題の提出により、当日の議論を受講生のニーズに沿ったテーマに変えることができるので、必要な活動である。課題の提出しやすい状況を作ることは今後も必要である。受講生が本科目の受講により、従来の自分の座標軸に新たな座標軸を見出せたのは良かったと思う。</p>		



議論の途中で先生からのアドバイス



Yチャート、バラフライチャートの活用



番号	秋9	科目名	ASEAN法律制度
担当者	西澤希久男		
反転授業	10月12日（水）～配信開始		
対面授業	10月26日（水）：90分×2コマ 11月12日（水）：90分×2コマ		計90分×4コマ
主たる能力指標	⑤問題認知力 ⑨問題解決力		
授業内容	<p>2015年末に創設を目指すASEAN経済共同体により、人口約6億人を擁する巨大な地域が、単一の市場と生産地となる。これに伴い、競争法、知的財産法などの一部分野において、加盟国は法改正を要求されており、いわば域内での統一法の生成の道を歩んでいる。他方で、その他分野においては、加盟国は独自の法制度を構築しており、進出企業は各国の特徴と日本法との差異を認識して対応することが求められている。授業のゴールは、ASEAN経済共同体設立に伴う、法の統一化の動きを把握するとともに、ビジネス遂行に纏わる人権侵害の危険性、さらに法的問題の発生を予防し、または発生した場合の対応に際しての心構えについて考えていく。</p>		
リフレクション	<p>受講生がCSRの問題については重要性を認識し、実務に有益である学習内容であったと感想を述べているのはありがたいことである。今後、紛争を未然に防ぐ手段についての情報や、タイ以外の事例としてベトナムやインドネシア、中国も視野に入れた事例を取り扱うなど、受講者のニーズに沿う方向で検討したい。</p> <p>受講生の層が広い社会人に対して、レポート提出等への配慮とともに授業内容の工夫をしてきた。受講生間の理解力の差や学習意欲の差は否めないが、担当教員が事前に志望理由書や実務経験、海外赴任期間等の受講生の基礎情報を入手した上で、授業を設計することが望ましいと考える。そうすることで、より質の高い授業を展開する事ができるだろう。</p> <p>通常の大学の講義では反転授業を行っていないので、撮影等に多少の負担感もあるが、事前学習としての効果は高いと思われる。今後、反転授業ビデオのチャプターの見直しや対面授業との接続面での工夫等、加筆修正を行うことで、学習の効率と効果を高めていきたいと考える。</p>		



グループワークでの活発なディスカッション



モデルと照合させたグループの考えの構築

番号	秋10	科目名	管理会計入門
担当者	大西 靖		
反転授業	10月18日（火）～配信開始		
対面授業	11月1日（火）：90分×2コマ 11月8日（火）：90分×2コマ		計90分×4コマ
主たる能力指標	⑤問題認知力 ⑦主体的判断力		
授業内容	<p>企業組織の経営管理を行う際には、会計数値を活用することが重要である。ただし、会計数値を活用するためには、これらの数値がどのようにして計算されているかという、計算構造を理解する必要がある。そこで、本授業では、管理会計に関連する計算問題の演習を通じて、原価計算および管理会計に関連する基礎的な知識と計算技術を修得することを目的とする。具体的には、短期利益計画の策定に関するCVP分析、予算編成、および予算統制に関する理論と計算技術について、講義および計算問題演習を中心とした授業を行う。</p>		
リフレクション	<p>授業を通して管理会計の重要性を実感したとともに、日常業務では学べないことが学べてよかったという受講生の応答があった。一方、実務との関連があまりないため、内容が難しく理解しにくい部分があったという感想もあった。授業担当者としても、受講生の意欲や経験の温度差を実感しながら授業を工夫したが、管理会計について予備知識のある受講生と皆無の受講生へのレベル設定が難しいと思われる。</p> <p>今回の授業では、内容がやや盛りだくさんで、ディスカッションの時間が十分ではなかった。学習内容と分量、学習形態については今後検討していきたい。</p> <p>また、受講生の方から、「なぜ管理会計が必要なのか、管理会計でどのような事ができるのか」という要望があったが、今後の授業で検討していきたいと思う。</p> <p>反転授業については、ここだけは分かってほしいという基本的な内容を提供した。受講生が複数回視聴してくれたのはありがたい。反転授業で習得・整理された知識が対面授業で接続されていたので、授業の理解もより深まったと思われる。</p>		



具体的な数字を用いて解説



各自練習問題に取り組む受講生

番号	秋11	科目名	ASEAN発展論
担当者	北波道子		
反転授業	10月22日（土）～配信開始		
対面授業	11月5日（土）：90分×2コマ 11月12日（土）：90分×2コマ		計90分×4コマ
主たる能力指標	①知識理解力 ⑤問題認知力		
授業内容	<p>どのような経済理論やモデルにも、その元となる現象があった。社会科学の場合は、実験室での試行錯誤は不可能であるため、それらの現象とは実際に起こった歴史過程から抽出され、分析されてきた事例がもとになっているといえよう。この授業では、20世紀のアジアにおける経済発展の事例から、その特殊性と普遍性を峻別し、理解する。具体的には日本、アジアNIES、ASEAN、中国と工業化による経済発展が伝播していく過程の連続性やそこから見つかる法則などについて説明する。</p>		
リフレクション	<p>受講生の多くは、自身の体験をふまえて業務や社会人経験と結びつけながら熱心に授業に取り組んでいた。しかし、具体的な業務に踏み込んだ内容や具体的事象を期待していた受講生には、若干の物足りなさを与えたかもしれない。</p> <p>本プログラムは大学が提供するプログラムであり、基本的なあり方として、ASEAN発展論に関する大きな流れを掴んでほしいというねらいがあり、それが大学の役割であると考えている。今回の授業では、具体的な話から入って法則性を述べたり、学問世界では現実世界をどのように見てどのように分析したか、という話し方をしたりして授業を展開するようにした。</p> <p>今後、企業のリーダーになる人には、先の流れを読む能力が求められる。そのため、自分たちが今、どこにいて物事がどのように動いていくのかという視点で情報をとらえるように授業を工夫した。日本企業が国内においても国際化する意識で学び直しを考えるという姿勢をもつ事が重要であり、そのための支援をしていきたいと考える。</p> <p>社会人にとって授業時間外の交流の場も重要であり、受講生のもつ不安やニーズを把握することで、授業の改善に努める必要がある。</p>		



講義を聴く視点となる「問い」の提示



欠席者・復習希望者のために講義を収録



番号	秋12	科目名	企業会計入門
担当者	富田知嗣		
反転授業	11月1日（火）～配信開始		
対面授業	11月15日（火）：90分×2コマ 11月22日（火）：90分×2コマ		計90分×4コマ
主たる能力指標	⑤問題認知力		
授業内容	<p>企業会計は、企業の状態を言語と貨幣額で表現するシステムです。このシステムによって作り出される情報は、一般に、財務諸表、決算書、会計情報などと言われます。大きな部分では、企業会計は、全世界で同じ仕組みですが、国ごとの社会的、経済的及び法的な状況の相違や情報利用者のニーズの設定によって、差異が生じています。本授業では、まず、財務諸表を見ることに慣れ親しみ、次に、財務諸表から企業のおおまかな特徴を把握することを学び、最後に、財務諸表がどのようなルールに従って作成されるかの一部を学びます。その上で、本授業のゴールは、「会計的なセンスを修得するための契機を獲得すること」とします。</p>		
リフレクション	<p>本科目に対する受講生の意欲は高く、企業会計は難しいが楽しいという受講生の反応はありがたいと思う。受講生のニーズをふまえて授業設計をしたつもりが、最終目標が高く、受講生にもやや無理を強いた場面があったかもしれない。今後、基礎的な話をベースに広がりをもって説明し、子会社の経営者の視点を意識しながら受講生に考えてもらえるように授業設計を工夫したい。</p> <p>反転授業の時間が長いという一部の声があったが、業務経験の異なる受講生に対して、情報を詳細に提供した。学生への授業と異なり、4回のタームではリカバーできる時間がなく、その上、忙しい社会人には無理な課題を出す事が難しい。そのため、簡潔な内容を吟味し、対面授業との接続を活かした反転授業を設計する必要がある。社会人受講生への配慮として、一方的に否定的なことは言わないようにしている。背景が違うので、そこが一番苦慮した点である。プライドの高い受講生に対して、どこまで教員という立ち位置を維持しながら、迎合しないで学習を深めていくのかは難しい。</p> <p>本プログラムは、教員の力量が問われる授業である。社会人受講生からはどんな答えが返ってくるか分からない。従って、彼らの身近なテーマ、素材を設定しながら議論をさせ、問題解決に取り組んでいけるような授業を設計することが重要である。</p>		



「自社ではどうか」という問いに答える受講生



隣の受講生とペアになってミニディスカッション

番号	秋13	科目名	ASEANの華人ビジネス
担当者	吉野文雄		
反転授業	11月5日（土）～配信開始		
対面授業	11月19日（土）：90分×2コマ 12月3日（土）：90分×2コマ		計90分×4コマ
主たる能力指標	④経営交渉力 ⑤問題認知力		
授業内容	<p>ASEAN地域のビジネスは華人の存在を抜きにしては語れない。日本でビジネスを展開するにあたって、たとえばいくつかの財閥についての知識があるかないかでは成果は全く変わってくるであろう。それと同様に、ASEAN地域では、どの企業がどこ出身の華人によって所有されているか、そのネットワークはどのように構築されているか、中国との関係はどうなっているのかを知らないままに成果を上げることはむずかしい。この講義では、ASEAN地域の華人とはどのような存在かを知ったうえで、産業における華人ビジネスを位置づける。さらに、中国や台湾といった彼らの母国の経済との関係を論じ、最後にASEAN地域で活動する日本企業にとっての含意を得る。</p>		
リフレクション	<p>本科目を受講した受講生が、学んだことをどのようにビジネスの場で役立てるのかを考えた時、今後の検討課題として以下の点が挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・華人ならではの企業経営のあり方を検討する。</li> <li>・華人との付き合い上での留意点をケーススタディ等で取り上げる。</li> <li>・華人のビジネスとそれ以外のビジネスとのすみわけや共存の視点で議論する。</li> <li>・ASEAN中心のアジアで、中国や台湾、香港も視野に入れて考える。</li> <li>・華人のビジネスについて情報収集の仕方を提示する（華人商工会議所等）。</li> <li>・反転授業については、対面授業との接続をいっそう意識して、事前課題の取り扱いにも留意する。</li> </ul> <p>今回の受講生は、意欲的で反応もよいため授業担当者とのコミュニケーションが取りやすかった。教室内にいる授業のコーディネータが適切に対応してくれたので、クラス全体の雰囲気がよく、受講生が自由に、また積極的に活動できていたと思う。</p>		



事前課題での取り組みを発表



たくさんの写真で実際の様子を紹介

番号	秋14	科目名	会計情報の利用
担当者	宗岡徹		
反転授業	12月24日（土）～配信開始		
対面授業	1月7日（土）：90分×2コマ 1月14日（土）：90分×2コマ		計90分×4コマ
主たる能力指標	⑤問題認知力 ⑦主体的判断力		
授業内容	<p>会計情報は企業の活動を反映するように作成されている。その結果、企業の強みや弱み、優れた点や問題点は、会計情報に反映しているので、その分析を通してかなりの部分を把握することが可能である。ただし、原因と結果は1対1に対応するのではなく、財務諸表の現れた結果から複数の原因を想定し、その調査によって真の原因を特定し、その対策を行う必要がある。これは、医師が様々な容態や検査結果を基に病気を特定していく過程に類似しているといえる。そのような「会計情報の利用」のやり方を設例に基づいて学習する。</p>		
リフレクション	<p>事前に予想していたことであるが、基礎知識のある受講生とそうでない方との差が大きかったため、4回の授業で難しかったと感じた受講生がいたと思われる。しかし、経営者になれば今回の授業で提供した視点は必須の力であり、それを体系的に考えるということを理解してもらえただけでも価値があった。</p> <p>経営者自らは、企業経営に関わる全ての業務事項を理解する必要はないが、部下の行った分析に対して、間違っているかどうか解釈する力が求められる。本科目のように会計情報を読み解くためには、会計に関する基礎的知識に加えて一定のセンスが必要であり、センスを磨くためには、企業に対する興味をもつことが重要である。自分が経営者だったらどうするのか、今の会社でいいのかどうか、そういうことに接するような場に自らを置き、その会社の強み・弱み等の事実を見ながら膨らませる習慣を身に付けるとよいと考える。</p> <p>今後、受講生の理解度の差を緩和するために、グループ編成や資料の与え方を工夫し、受講生同士が互いに教え合い、学び合える場を意図的に設定していきたい。</p> <p>対面授業において、山のような情報を取り出し様々な視点で議論する活動を充実させるためにも、反転授業による事前学習は必須であると考えている。</p>		



課題に頭を悩ませる受講生たち



財務諸表の活用についてのレクチャー



番号	秋15	科目名	グローバル経済
担当者	宮本勝浩		
反転授業	12月31日（土）～配信開始		
対面授業	1月14日（土）：90分×2コマ 2月4日（土）：90分×2コマ 計90分×4コマ		
主たる能力指標	①知識理解力		
授業内容	<p>最近の世界経済は、グローバル化するとともに、その変化の激しさは速度を増してきている。3年前の情報、資料はあまり役に立たない状況になって来ている。外国や国内で外国企業の幹部と会って、ビジネスの話をする際に、世界経済の現状についての話が出た時に、上手に受け答えできなければ、経済や経営についての相手の信用を失うことがある。また、世界経済、特にアジア経済の動向をしっかりと把握していなければ、海外でのビジネスで成功することは難しい。本授業では、まず世界経済の現状を正確に把握し、今後の世界経済の動向を展望し、それらの勉学成果を受講者のビジネスに活かしていくことを目的としている。最初は、最新の世界経済の情報について分析を行い、今後の動向について全員で議論をしていくことにする。</p>		
リフレクション	<p>本科目では、米国の大統領就任に伴う具体的なトピックを中心に、アメリカの経済政策が日本やアジアの経済にどのように影響するのかについて考える場を提供した。受講生は、自らの立ち位置で考え、今後、どのようなことを学びたいのか具体的な方向性を見出すことができた。また、自分の次の課題を明確にする事ができ、レポートも的確に書きまとめることができた。本授業では、好奇心や探究心が強い受講生の姿を通して、社会人の意識変容に働きかけることができたと思われる。</p> <p>多忙な受講生は、反転授業は視聴することができても、事前課題について取り組む余裕が少なかったようである。事前に受講生の関心ごとを授業担当者が把握することで、インタラクティブな対面授業の展開に役に立つだろう。アメリカ経済による日本とアジアの経済への影響については、今後も最新情報も収集しながら、受講生の活発な議論を促すように働きかけていきたい。</p> <p>日本人の学習者は、一般的に、自ら質問をしたり意見を述べたりすることは少ない。授業担当者としては、受講生の理解や関心をどのように掘り起こすのか、また、彼らの考え方や問題意識を引き出し、自らが自分の中で消化していけるように、効果的な授業を心がけたいと考える。</p>		



全員の前で考えを発表する受講生



授業担当者と受講生のインタラクティブな授業



番号	秋16	科目名	ASEANの地理・歴史
担当者	野間晴雄		
反転授業	1月7日（土）～配信開始		
対面授業	1月21日（土）：90分×2コマ 1月28日（土）：90分×2コマ		計90分×4コマ
主たる能力指標	①知識理解力		
授業内容	高等学校の「世界史」・「地理」の専門知識を前提に、東南アジアの地理と歴史の基本事項を学ぶことで、東南アジアの国々に現地赴任し、海外子会社を経営したり海外で直面する課題を解決したりする上で必要となる、実践的な生活の知恵と現地の人と接するときに必要な知識を含めて解説する。		
リフレクション	<p>本科目は、基礎的・専門的な学習内容を提供するものであり、有益であったという受講生の声や、今の仕事にどのように直結させるのか理解しにくいとの声もあった。</p> <p>今後の改善としては、全4コマの授業の中で、島嶼部、フィリピンやマレーシアを事例として取り扱うことを検討していきたい。その中で、フィリピンのことをどこかで関連付けながら触れるようにしたい。世界の位置付けでは、現在、フィリピンのみ東南アジアからは仲間はずれである。フィリピンは先住民がいて、マレー系の商人は多くないが、スペインが入ってきていることで他の国とは違う。フィリピンはカトリックが多く文化的背景も異なる。そういうことも次回の授業では含めたい。</p> <p>本科目の目標として知識を提供するねらいがあったので、学習活動の中にもう少し受講生同士の討論を入れても良かったと思われる。今後、シラバスの修正も含めて、授業設計の精査を図りたい。</p> <p>社会人受講生は意欲も高く、熱心である。今回の授業ではパワーポイントを用いたが、もう少し画像風景等を入れてイメージ化を図るのも良かったと思う。反転授業の効果は受講生から好評である。授業者としても反転授業でやりにくいことは特に無い。事前課題としてもあえて本を読む指示は出さずに、地図で場所を確認したりして楽しく学習に取り組むようなきっかけを提供したい。</p>		



全面的ホワイトボードを活かした、板書の工夫



白地図と教材提示装置を使った解説

番号	秋17	科目名	ASEANの宗教・文化
担当者	小田淑子・宮本要太郎・酒井真道		
反転授業	1月7日（土）～配信開始		
対面授業	1月21日（土）：90分×2コマ 1月28日（土）：90分×2コマ		計90分×4コマ
主たる能力指標	②異文化適応力		
授業内容	<p>日本人は宗教を話題にすることを嫌うが、海外では社会生活に宗教が関わっていることが多く、当該国の文化や価値観について理解を深める上で、宗教についての知識は不可欠である。たとえば、インドネシアやマレーシアには相当数のイスラーム教徒がおり、タイやミャンマーには仏教、特に上座部仏教が根付いている。その他、儒教とヒンドゥー教もある程度の人口を占めている。教員は、現地の宗教文化についての基本的な知識を提供するとともに、日本の宗教についても簡単に説明できるような能力を受講者が養えるように努める。</p>		
リフレクション	<p>宗教について日本国内だと話題になりにくく、ビジネス上も触れることは少ない。しかし、宗教上の信念がベースになり、異文化理解で現地の人の信仰を客観的に知ることが大事である。例えば、礼拝を優先するかしないか、休日や祝日などの習慣、それが現地の人にとってどのような意味がありうるのか理解しておくことは、他者を尊重する上でも大切である。</p> <p>受講生は、聞く姿勢も確立しており、授業への意欲も高く積極的に質問も出ていた。授業の時間数が少なかったため、質疑応答の時間が十分に取れなかったのは今後の課題である。授業の評価としてレポートを課したが、提出された課題にも温度差があり、社会人への個別の配慮も必要かと思われる。</p> <p>また、今回の科目は、3人の教員によるリレー講義であったが、それぞれ重点的なことは異なるため一貫性は足りなかったようにも思われる。今後、科目の特性に沿わせてターゲットを絞った方が有益なのかと思われる。それぞれの専門性もあるため調整する際に配慮していきたい。</p> <p>宗教・文化の知識は年間カリキュラムのどのあたりに配列すると教育効果が上がるのか、他の授業との関連の中で検討することが必要である。</p>		



宗教・文化に関する参考文献の紹介



視点の違う先生方によるリレー講義

番号	秋18	科目名	国際租税法入門
担当者	中村繁隆		
反転授業	2月11日（土）～配信開始		
対面授業	2月25日（土）：90分×2コマ 3月4日（土）：90分×2コマ		計90分×4コマ
主たる能力指標	⑤問題認知力、⑦主体的判断力		
授業内容	<p>経済はグローバルであるのに対し、各国の税制はローカルといわれる。このため、同一の経済活動に対して、複数の国が重複して課税を行う現象（国際的三重課税）や、どの国も課税しない現象（国際的三重非課税）が生じる。これらの現象に対応する法分野が、国際租税法である。本授業では、ASEANの子会社経営にとって避けることができない国際的な租税問題に対応するために必須の国際租税法の基礎理論を学ぶ。さらに、受講生はASEAN子会社の租税負担というローカルな視点だけでなく、日本親会社の租税負担も含めたグローバルな視点を獲得するため、日本親会社との税法上の特別ルールについても学習する。また、授業では、受講者を複数のグループに分け、取引例について議論や発表をしてもらう予定である。授業のゴールは「海外子会社の経営者として、国際租税法の知識を前提にグローバルベースでの租税負担という視点を獲得すること」にある。</p>		
リフレクション	<p>受講生の実務経験の差異により、国際租税のテクニカルな部分の税法に精通している方と予備知識の無い受講生に温度差があった。後者の受講生にとってはややハードルの高い内容もあったが、どの受講生も意欲的にしっかりと取り組んでいた。</p> <p>授業では、国際租税法の全体像をつかみそれを読み解く枠組みを提示したが、4コマの時間制限の中で多くの内容を入れすぎたかもしれない。実務に取り組む受講生にとって、移転価格が一番の関心事になっているので、今回はその部分を中心に、授業展開をしていくとよいだろう。移転価格の扱い方については様々な方法があるので、他の内容とのバランスの中で検討していきたい。また、受講生の学習意欲を高め、入口のハードルを下げるために、授業の導入部分で国内法についての理解、国内企業に係る法人税や所得税をとり扱う方法も考えられる。外国法人に対する課税のルールを学んだ後、条例等の国際租税に入っていく方が効果的であると考えます。</p> <p>受講生は、実務における悩みや問題を解消したいという意識をもって本授業にのぞんでいる。社会人は、経験から習得した多くの断片的な知識を持っているが、授業を通してそれらを体系化させ、関連性に気付くように支援していきたいと考える。</p>		



3つのグループに分かれての課題追究



ディスカッションの状況に応じて先生からアドバイス

番号	秋19	科目名	プレゼンテーション・スキルとその活用
担当者	西尾三津子		
反転授業	10月1日（土）～配信開始		
対面授業	11月19日（土）：90分×1コマ 3月11日（土）：90分×3コマ 計90分×4コマ		
主たる能力指標	④経営交渉力 ③人間関係力		
授業内容	<p>現代のグローバル社会において、プレゼンテーション・スキルは必須の能力として求められている。ある課題についての自己の新たな考えは、他者に分かりやすく表現し実行することで、さらなる価値を生み出す。本授業では、まず、プレゼンテーションをするためのスキル（手順や情報収集の仕方、内容構成の仕方、効果的な表現の仕方）を理解し習得する。その後、習得したスキルを活用して学習者自身が設定した課題について、目的意識を明確にしたプレゼンテーションを行う。</p> <p>本授業のゴールは、学習者が「プレゼンテーション・スキルを習得するとともに、課題について他者と共有しながら、自己の意見を論理的に表現し、実務へ活用可能なものとして実感する」ことである。教員は、学習者のプレゼンテーション・スキルの習得と活用意欲の向上のために、学習者同士の双方向の学び合いを重視し、的確なアドバイスを行うように配慮する。併せて、プレゼンテーションのルーブリックの活用法についても理解を促すようにする。</p>		
リフレクション	<p>受講者にとって半年間の学びを振り返り、科目間のつながりを紡いでいく作業を、プレゼンテーションという手法で発信できたことは価値があったと思う。日々の実務の中でプレゼンテーションと関わる機会を持つ社会人受講者が、本科目で習得したプレゼンの技法を自分のスキルとして取り込み、自分らしさを表出することで、他者の意識や行動の変容を促すプレゼンテーションになったと考える。また、クラスメートのプレゼンテーションを聞くことで、双方向の伝え合いの場面における新たな視点を獲得し、受講者自身の業務場面での活用の可能性を広げることができたと思われる。</p> <p>今後の課題としては、受講者のニーズにあったように、個々の受講者に応じたプレゼンスキルの改善方策や高度なスライドの活用法、ストーリーテリングに関する情報の提供を授業展開の中に組み入れていきたいと考える。</p>		



受講生のプレゼンテーションスライド



3つの視点（Plus、Minus、Interesting）での振り返り



番号	秋20	科目名	海外派遣者のストレスマネジメント
担当者	池見陽、川端康雄		
反転授業	9月24日（土）～配信開始		
対面授業	10月8日（土）：90分×2コマ 10月15日（土）：90分×2コマ		計90分×4コマ
主たる能力指標	⑧自己調整力		
授業内容	<p>近年、心理学の分野では、個人の強みや長所を研究するポジティブ心理学が注目されるようになり、こころの回復力（レジリエンス）がストレスマネジメントにおいて重要な役割を果たすことが報告されるようになった。ストレスマネジメントには、問題に向き合う方法とメンタル不調を遠ざける生活習慣作りの方法があるが、海外生活では、赴任前のような人的サポートや社会的資源が得られにくいことがあり、上述のような生活習慣作りを意識的に行うことが特に重要である。</p> <p>前半は、ストレスに関して心身両面からの理解を図り、「避けず、息まず、考え込まず」というキーワードを用い、こころの回復力が発揮されやすい対処法や生活習慣について学ぶ機会とする。後半では、ストレス反応について概説したうえで、海外における仏教のあり方について紹介する。日本仏教とは違い、東南アジア、北米、欧州の仏教では瞑想が実践されている。様々な瞑想法があるなか、ここでは基本的なAnapanasatiを全員で体験する。加えてsati（英訳 mindfulness; 漢訳 正念; 邦訳 気づき、正念、マインドフルネス）がもたらすストレス軽減作用について話し合う。</p>		
リフレクション	<p>本科目に関して、経験はあっても科目内容に関して予備知識は持っていない受講生が多い。しかし、反転授業を効果的に視聴し非常に有益な学びであったという受講生の応答が目立っていた。それらの中で印象的なことはストレスの緩和法を学んだけれど、そこからどのように気持ちを切り替えて前向きにしていくのか聞きたかったという受講生の声がある。今回は、対処というよりバランスを整えるのに重点をおいて授業が展開されていた。受講生のニーズとしてはもう少し踏み込んだところまでという声もあるので、次年度はさらにアレンジしていきたいと考える。</p> <p>社会人受講生は、目的意識も高く、自身の経験を想起しながら意欲的に授業に取り組んでいた。本科目は、知識伝達を主とするものではなく、本を読んで理解できるというものではない。彼らが、体験を通して知識を身に付け、習得したスキルを実務に役に立てるためには、適度なスペースとゆったりとした空間が必要である。</p> <p>今後、プログラムにおけるカリキュラムの配列として、受講期間内に25の科目間で有機的なつながりがもてる位置付けが必要であると思われる。</p>		



ユーストレスについての経験の交流



全員で円になったのアクティビティ

番号	秋21	科目名	海外事業体(子会社)における経営者の役割・コンプライアンス体制
担当者	野本隆		
反転授業	10月15日(土)～配信開始		
対面授業	10月29日(土): 90分×4コマ 2月18日(土): 90分×4コマ 計90分×8コマ		
主たる能力指標	②異文化適応力 ⑤問題認知力 ⑩リーダーシップ力		
授業内容	<p>本授業は、現在、海外生産事業体の社長、工場長、上級管理者の方、及び、近々海外に赴任しその職位に付かれる方を対象としている。海外事業体の創成期は日本人出向員が主要ポストを占め、ローカル人材は専門知識・経験に乏しいため、出向員に尊敬の念を持って接してくれ、上下関係が明確で、比較的円滑に会社・工場運営することができる。しかし、時の経過と共に、各国政府、及びローカル従業員は現地化(自立化)を期待する。その際の課題は、経営者と管理者のローカル人材の不足である。特に海外事業体の社長、工場長となると、出向する日本人さえ人材不足が深刻な問題となっている。その理由は日本の部長クラスの人材が海外事業体の社長、工場長に任命され、経営経験がないまま現地に赴任するためである。また、海外事業体で直面するコンプライアンスに関わる課題において、経営者として、コンプライアンス違反防止の体制と行動指針を立案し、実践する必要がある。</p> <p>本授業では、①海外で活躍できる人材の要件をふまえながら、経営者・管理者の心得、責任と役割を明確にする。②海外事業体の経営者・管理者としての「行動指針」をD社の例を参考に学び、各自の行動・改善計画を立案し実践する。③コンプライアンス違反防止に向けた体制の整備と行動指針を考え実践する。④各自が立案した行動・改善計画に基づき実践した成果をまとめ発信する。という流れで授業を展開する。授業担当者は、各受講者が立案した行動指針やその実践状況に対して、的確なアドバイスを行うようにする。</p>		
リフレクション	<p>受講生が授業を通して、「海外事業体のトップ、管理者としての心得、責任と役割」について、ある程度、理解することができたのは良かったと思われる。ただ、最終のプレゼンテーションを通して、授業の成果を自分の業務に積極的に取り入れるという部分が難しいということが分かった。その理由として、「現在の自分は組織の長ではなく、組織をどうするのか考える職位にない」「日常業務に追われ自分の仕事や職場をじっくりと振り返る時間が取れない」「常に1ランク、2ランク高い立場で物事や業務を考える訓練ができていない」という受講生の意識がある。これらはやむを得ないことだが、授業で学んだことを業務に応用するためには、授業内容はもちろんのこと、授業後のフォローとして受講生との継続的な対話が必要であると考えている。</p>		



課題の成果についてのプレゼンテーション



受講生が好んで使用するバタフライチャート

番号	秋22	科目名	子会社経営で直面する課題 一人人事労務政策一
担当者	仲本利明		
反転授業	11月19日（土）～配信開始		
対面授業	12月3日（土）：90分×2コマ 12月10日（土）：90分×2コマ		計90分×4コマ
主たる能力指標	④経営交渉力、⑨問題解決力		
授業内容	<p>海外では、日本の常識は当てはまらない。日本人的な価値観や感覚で企業運営を行っている、思わぬ落とし穴に遭遇することがある。本授業では、ASEANの子会社におけるケーススタディの中から、人事労務管理に関するトラブルに視点をあて、受講者が当事者意識をもって問題への対処の仕方を考える。その際、トラブルの背景にある要素を整理しながら、その解決法について互いの考えや経験を基に、グループで議論を深めていくように支援する。</p> <p>授業のゴールは「海外子会社の経営者として人事労務管理に対処する際のポイントを提案すること」である。教員は、受講者から提案された問題解決のための具体的な方法に関して的確なアドバイスを行うようにする。</p>		
リフレクション	<p>社会人受講生の層が異なるため、人事労務政策に関して教育を受けた人とそうでない人の温度差がある。既に研修済の受講生にとっては、もう少し深い内容を期待したのかもしれない。本プログラムは会社での教育を受けていない人を対象としており、経営全般の人事労務政策についての理解を得ることを目的としたため、経営者の立場やその経営能力の一環としての人事労務政策について認識できたことは価値があった。社会人受講生はみな大人で、前向きであり、このプログラムを受けるとい意味では熱意を持っている。そのため、授業は非常にやりやすく、社会人ということで特に意識することなく自然な形で授業をすることができた。</p> <p>反転授業の意義には、＜時間を節約する、授業に対する心構えや予備知識を持ってもらう＞というものだが、事前に受講生が自身の経験を想起し学習への構えをもったことは、対面授業での活発な議論につながったと思われる。</p> <p>以前（春学期）と今回の人事労務の授業を比較すると、今回の方が授業の効果は上がったという結果が出ているのは、授業設計の成果であろう。インストラクショナルデザイナーのアドバイスの基で授業担当者自身の理解度も以前と大きく変わった。授業への自信と理解度が高まることで、授業像がいっそうクリアになった。</p>		



マトリクスと付箋を活用した成果発表



講師も参加したディスカッション



番号	秋23	科目名	グローバル企業の人材育成
担当者	牧 勇		
反転授業	12月24日（土）～配信開始		
対面授業	1月7日（土）：90分×2コマ 2月4日（土）：90分×2コマ		計90分×4コマ
主たる能力指標	⑤問題認知力 ⑨問題解決力		
授業内容	<p>企業において、グローバル展開を行う際に常に課題となっている「グローバル人材の育成」に関して検討を行う。本授業では、「海外子会社の経営を担う人材の育成」を特に意識しつつ、必要となる人材の確保・育成に関する諸問題について検討し、学習者が当事者意識をもって自社における問題の対処法を考える。その際、様々な視点や要素を整理しながら、その解決法について受講者同士の考えや経験を基に議論を深めていくことにも配慮する。教員は、受講者が自社において問題解決のための具体的な対応ができるよう、的確なアドバイスを行うようにする。</p>		
リフレクション	<p>グローバル人材育成のテーマは複数である。今回のテーマは、共有部分話して、現地法人との関わりの度合いに関わらず、自社のできている部分と足りない部分に気付いてほしいという意図をもって授業を実施した。受講者の層は広範囲であったが、それぞれに目的意識が高く、何かを習得して自社に持ち帰ろうとする意欲が高いのが伝わった。授業で習得した知見や新たな気づきを自社に持ち帰り、議論の中心になって提案してほしいと切望する。</p> <p>今後、受講生の潜在的、顕在的な能力を予め考え、無駄なくフィットさせて授業を設計していく必要がある。そのためには、シラバスを組む前に、マーケティングデータ（前学期の授業評価アンケートの自由記述）をふまえて、シラバスや教材を組み立てていく事が肝要である。年々、レベルが上がるので、それに併せて、来年はこの要求レベル以上のもので受講者のニーズ、要望に沿ったものにしていく必要がある。</p> <p>反転授業と対面との関連性を高めることで授業効果はいっそう上がるだろうし、反転授業でもっと考えさせる必要があったかと思われる。宿題を課することは好ましくないが、情報収集に関しては事前に反転でするのが良かった。そうすることで自分なりに研究して情報を集めてくる事が可能になり、対面授業での思考も深まると考える。授業担当者として、企業の社長や大学の職員相手に話したことは何度もあるが、今回の受講生は業種、業界、立場が異なり、すべての層を満たす授業はむずかしいと感じた。そこで、最初の一コマで受講者の反応をみて、授業に活かしながら緊張感をもって授業を展開していくようにした。</p>		



学習目標を明確にした授業展開



思考力育成のためのノートテイキングの活用



番号	秋24	科目名	海外子会社の経営者として必要な能力
担当者	宮本昭洋		
反転授業	1月31日（火）～配信開始		
対面授業	2月24日（火）：90分×2コマ 2月16日（木）：90分×2コマ		計90分×4コマ
主たる能力指標	⑤問題認知力 ⑨問題解決力		
授業内容	<p>通常、ASEANの海外子会社に於いては国内営業畑や技術畑出身の邦人が少人数で現地経営に責任を持つことが多い。このため子会社の現地金融機関からの資金調達方法、不祥事発生時の対応や税務当局とのトラブル発生に戸惑う事例がある。本授業では、インドネシアの子会社における事例の中から、1) 子会社での資金調達手段 2) 子会社での不祥事発生と対処法 3) 多発する税務トラブルと対処法 の3点にフォーカスして、受講生が当事者意識をもって問題の対処法を考えるようにしたい。その際、事例の背景にある要素を整理しながら、その解決法について互いの考えや経験を基にグループで議論を深めていくように支援したい。授業の目的は「海外子会社の経営者として現地で遭遇しやすい事例に対処する際のポイントを解説すること」である。講師は、受講者から提案された問題解決のための具体的な方法に関して的確なアドバイスを行うようにする。</p>		
リフレクション	<p>総じて受講生からは相応の評価が得られたと思う。授業テーマについては自らの体験や経験に沿って、特に経営者としてあるべき姿勢や心構えに関しては力説したつもりだが、受講生が比較的若い世代であり、経営者の視点での受け取り方や感じ方において現実的実感を伴わない点もあったかもしれない。グローバル化が急速に進む中で若い世代だから出番は先の話として、彼らが他人事のように受け止めていたとすればその点を議論する必要がある。</p> <p>平日授業について、受講生の勤務後3時間程度の授業を行う日程であったが、全般的に緊張感や、授業から何かを学び取ろうという気力がやや欠けていたように思えた。平日業務後の授業だったため、疲労感から授業への緊張感や集中力を維持しにくい社会人受講生への配慮から、授業担当者から説明をするという形を中心に授業を進めた。今後は、社会人への授業は週末の方に設定する方が効果的かもしれない。また、授業については、双方向で議論するようなビジネススクール方式の方が適切であると思われるため、授業のあり方について考えていく必要がある。</p> <p>反転授業については受講生が是非受けてみたいという意欲を湧かせるビデオ内容にすることが重要である。今後、受講生に事前課題を少し多めに与えて、自ら事前課題に取り組ませて授業に臨ませる工夫について検討していきたい。</p>		



データに基づいて事例を分析



経験の想起による活発な意見交換

番号	秋25	科目名	経営者の戦略的役割
担当者	吉田史朗		
反転授業	2月11日（土）～配信開始		
対面授業	2月25日（土）：90分×2コマ 3月4日（土）：90分×2コマ		計90分×4コマ
主たる能力指標	①リーダーシップ力 ④経営交渉力		
授業内容	<p>実践基礎教育プログラムの「経営戦略」で海外進出は経営戦略の戦略オプションと位置づけた。では、経営戦略とは何か、何故企業にとって必要なのか。</p> <p>本授業では、経営戦略の必要性を外部環境の変化と自社のイノベーション（変革）からグループ討議を踏まえ鮮明にしたい。更にイノベーションを実現するためには「五つのカベ」があり、そのカベをブレイクスルーするためには、強烈なトップのリーダーシップが必要であることを様々な事例を基に、教員と受講者のディスカッションにより検証する。</p> <p>授業のゴールは「変革リーダーとしての経営者の役割とは何か」を、環境認識から変革実現までの「五つのカベ」をブレイクスルーする能力として具体的に描き出せることである。</p>		
リフレクション	<p>受講生的前提条件に個人差があるため、事前のレクチャーを通してある程度知識合わせが必要である。その中で、個々の受講生のレベルを知ることが必要である。経営は広範囲にわたるので、どの範囲のどの程度のレクチャーが適切なのか、事前に吟味することが重要であり、そのための基準あわせが難しい。</p> <p>受講生同士は仲間意識が高く、個々の個性を發揮しながらのコミュニケーションがよかった。そのため、授業担当者の問いかけに対するレスポンスがよく、議論が深まった。特に、授業後半の自由討論は大変価値があり有意義であった。次年度の授業計画にも自由討論の場を設定し、受講生のニーズを満たしていきたい。</p> <p>今後の課題としては、授業担当者が伝えるべき内容と受講生が考えるべき事柄のバランスを工夫していくことで、受講生の積極的な学習姿勢を支援し、モチベーションを高めていきたいと考える。また、経営者を目指すという受講生の方向付けを明確にしながらか、環境の変化に応じて会社を変えていく「イノベーション」を生み出すリーダーシップ論についても追求していきたいと考える。</p>		



リーダーシップとマネジメントの違いについてのレクチャー



マトリクスに考えを整理して発表する受講生

# 3

## 開発プログラムに関する自己点検・評価活動

### 3-1 授業実施にかかるPDCAサイクル

「授業実施にかかるPDCAサイクル」は、教員の授業内容の改善を目的としている。FD部会が受講生に授業評価アンケートを行い、授業の実施にかかる改良点を把握し、各教員へのフィードバックを行い、プログラムの改善を行う。

#### 3-1-1 FD部会

FD部会は、授業評価アンケートを単年度ごとに実施し、受講者からの意見を聴取して、各授業内容の改善を行う役割を持つ。また、教員の教育にかかる資質・教授法を高めるためにFD研修会を実施する。

#### FD部会構成員一覧表

名前	所属・職名	役割等
岩崎 千晶	関西大学教育推進部准教授	FD部会長、FD活動
柴 健次	関西大学大学院会計研究科教授	委員長兼プログラム運営部会長
後藤 健太	関西大学経済学部教授	ASEANの経済分野を中心に教育内容を決め、教材の内容確認、FD活動
西澤希久男	関西大学政策創造学部教授	ASEANの法律分野を中心に教育内容を決め、教材の内容確認、FD活動
三島 徹也	関西大学大学院会計研究科教授	会計分野を中心に教育内容を決め、教材の内容確認、FD活動
西尾三津子	関西大学教育推進部特別任命助教	授業設計、FD活動、リフレクション

#### FD部会スケジュール

日付	内容
3月2日(木) 15:00~16:00	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成績評価について</li> <li>2. シラバス・能力指標について</li> <li>3. インタビュー調査結果について</li> <li>4. 次年度への課題について</li> <li>5. 科目名称に関して</li> </ol>

#### 3-1-2 講座担当者説明会

講座担当者説明会は、本プログラムの講義を担当する教員に対して、本プログラムの事業コンセプトや能力指標等について、意識統一する役割を持っている。

#### 講座担当者説明会スケジュール

日付	内容
4月27日(水) 11:00~12:00	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 履修証明プログラムの概要及び平成28年度秋学期開講科目について</li> <li>2. 授業設計、能力指標、シラバス及び成績評価について</li> <li>3. 秋学期スケジュール、出講調査及び反転授業撮影について</li> <li>4. 平成28年度春学期受講申込状況について</li> </ol>
9月24日(土) 12:50~13:50	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成28年度秋学期授業実施について</li> <li>2. 梅田キャンパスへの出講について</li> </ol>

### 3-2 プレ・ポストアンケート調査

学び直しプログラムの実施による能力への影響を明らかにするために、本プログラムの実施前及び実施後において、プログラムが目指す<経営管理能力>に関するアンケートを実施した。対象者は、プレアンケート・ポストアンケートの両方に回答した春学期の受講者27名、秋学期の受講者16名である。全て4件法(4.強く思う 3.そう思う 2.そう思わない 1.全くそう思わない)で、回答を求めた。

#### 3-2-1 アンケートの設問と形式

能力指標：大カテゴリー(I～VI)、中カテゴリー(①～⑫)

設問	対応する能力指標
1. ASEANに関する情報を収集することができる。	I - ① 知識理解力
2. 海外勤務で生活に困らない程度の英語を話すことができる。	II - ④ 経営交渉力
3. 継続的に外国語運用を向上させるための努力をしている。	II - ④ 経営交渉力
4. 異なる文化を有する人々と働くことを楽しむことができる。	I - ② 異文化適応力
5. 異なる言葉や文化・社会背景をもつ人々を尊重し、適切にふるまうことができる。	I - ② 異文化適応力
6. ASEANの状況について30分程度、社内のメンバーに話ができる。	I - ① 知識理解力
7. 異なる意見を持つ人々の立場に立って考えることができる。	I - ② 異文化適応力
8. 日本の親会社とASEANの会社との差異に気づき、比較説明することができる。	I - ① 知識理解力
9. 海外の人とのビジネスのやり取りを、英語文書やメールで行うことができる。	II - ④ 経営交渉力
10. 英語で10分程度のスピーチやプレゼンができる。	II - ④ 経営交渉力
11. 現地の従業員と会社の理念を共有し、働きがいのある環境設定に努めることができる。	II - ③ 人間関係力
12. 海外拠点長としてふさわしいリーダーシップをとることができる。	II - ③ 人間関係力
13. これまで学んだことを活用することで、ある現象の因果関係を推測できる。	IV - ⑦ 主体的判断力
14. 自ら発見した課題を解決することができる。	III - ⑥ 批判的思考力
15. 現地の人々とコミュニケーションをとりながら共に行動ができる。	II - ③ 人間関係力
16. 関心のある事柄をより深く理解するための方法を知っている。	IV - ⑧ 自己調整力
17. 課題解決に向けて、計画や取り組むべき事柄について積極的に考えることができる。	III - ⑥ 批判的思考力
18. 既存の概念にとらわれず、新しい価値を生み出すためにチャレンジをしている。	V - ⑩ 積極的行動力
19. 自分に足りない部分を改善するために、必要な努力をすることができる。	IV - ⑧ 自己調整力
20. 自ら進んで新しいことを学びたいと思う。	IV - ⑧ 自己調整力
21. 与えられた情報を鵜呑みにせず、多面的に物事をとらえることができる。	IV - ⑦ 主体的判断力
22. あらゆる可能性や手段を検討し、目標を達成するための方法を探そうとしている。	V - ⑩ 積極的行動力
23. ASEANの海外子会社の課題を自ら発見することができる。	III - ⑤ 問題認知力
24. 様々な情報から特性を見出し、具体的な問題解決の場面に適応させることができる。	IV - ⑦ 主体的判断力
25. 自分の知っている知識を活用して、課題に対する新しい解決方法を考えることができる。	V - ⑨ 問題解決力
26. 学習した事柄と自身の会社やASEAN地域の問題を、主体的に関連付けることができる。	V - ⑨ 問題解決力
27. 自分が会社にどのような貢献ができるかを柔軟に考え、対応することができる。	VI - ⑪ リーダーシップ力



28. ASEANでの自社の成長と現地の発展を促進させるために、会社ができることを創造する。	VI-⑫ 革新的創造力
29. 自らの行動や態度を振り返り、その結果をもとに改善していくことができる。	V-⑩ 積極的行動力
30. 会社経営全般にわたる知識や経験を活用して、現地の子会社やコミュニティに貢献できる。	VI-⑪ リーダーシップ力
31. 会社が抱えている課題を把握し、解決に向けて努力することができる。	VI-⑪ リーダーシップ力
32. 子会社が置かれている状況や現地の環境を理解することができる。	VI-⑫ 革新的創造力
33. 自律的な学びを積極的かつ継続的に実施することができる。	V-⑩ 積極的行動力
34. 会社がASEAN地域の人々に幸せを提供するための方法を提案できる。	VI-⑫ 革新的創造力

### 3-2-2 春学期の分析結果と考察

春学期の実施科目は、「海外子会社における人事労務政策」「プレゼンテーション・スキルとその活用」「ASEANの華人ビジネス」「日本の経営思想」「海外子会社の経営者として必要な能力」「海外子会社におけるコンプライアンス体制」「海外派遣者のストレスマネジメント」の7科目であった。

そのうち、「ASEANの華人ビジネス」「日本の経営思想」「海外子会社の経営者として必要な能力」の3科目については、東京会場で対面授業を行い、大阪会場ではテレビ会議システムを用いた遠隔授業であった。また、他の4科目は大阪会場にて対面授業を行い、東京会場では遠隔授業を実施した。従って、春学期の対面授業と遠隔授業の教育効果の比較について分析は行っていない。

#### 1) 大カテゴリーにおける比較の結果

カテゴリー名		平均	SD	p
I ASEANに関する幅広い知識と教養	Pre	1.605	0.455	0.000 **
	Post	1.957	0.249	
II 現地の人々と対等でウィン・ウィンな関係	Pre	1.296	0.651	0.009 **
	Post	1.492	0.426	
III 問題点をいち早く認知する	Pre	1.593	0.268	0.001 **
	Post	1.975	0.239	
IV 問題点に対し自らの頭で自主的に良く考えて判断	Pre	1.883	0.196	0.032 *
	Post	2.043	0.157	
V 自らの責任で自律的かつ積極的に行動し解決	Pre	1.796	0.191	0.009 **
	Post	2.012	0.175	
VI 会社を発展させていく能力	Pre	1.481	0.334	0.003 **
	Post	1.784	0.181	

※表中のp値について \*\* :  $p < .01$ , \* :  $p < .05$

数値は、各選択肢を「強くそう思う：3点、そう思う：2点、そう思わない：1点、全くそう思わない：0点」として得点化したものである。

対応のある検定を行った結果、全てのカテゴリーにおいて有意な差が見られた。なお、( )内は平均値の変化である。

- ・1%水準で有意差あり・・・
  - I ASEANに関する幅広い知識と教養(+0.35)
  - II 現地の人々と対等でウィン・ウィンな関係(+0.20)
  - III 問題をいち早く認知する(+0.38)
  - V 自らの責任で自律的かつ積極的に行動し解決(+0.22)
  - VI 会社を発展させていく能力(+0.30)
- ・5%水準で有意差あり・・・
  - IV 問題点に対し自らの頭で自主的に良く考えて判断(+0.16)

以上のことから、大カテゴリー I、II、V、VI において、受講生の能力向上が顕著であったといえる。

また、大カテゴリⅣ においても、科目の受講による能力の向上が認められる。ただし、春学期の実施科目が7科目と限られていたこともあり、今後の実施過程の中で継続的に分析を行い検証する必要がある。

## 2) 中カテゴリにおける比較の結果

カテゴリー名		平均	SD	p
①知識理解力	Pre	1.160	0.926	0.000 **
	Post	1.765	0.486	
②異文化適応力	Pre	2.049	0.314	0.187 **
	Post	2.148	0.182	
③経営交渉力	Pre	1.102	1.227	0.007 **
	Post	1.306	0.992	
④人間関係力	Pre	1.556	0.359	0.174 *
	Post	1.741	0.379	
⑤問題認知力	Pre	0.963	0.883	0.000 **
	Post	1.704	0.524	
⑥批判的思考力	Pre	1.907	0.251	0.078 *
	Post	2.111	0.237	
⑦主体的判断力	Pre	1.716	0.262	0.036
	Post	1.914	0.142	
⑧自己調整力	Pre	2.049	0.271	0.152
	Post	2.173	0.302	
⑨積極的行動力	Pre	1.898	0.208	0.016 **
	Post	2.102	0.170	
⑩問題解決力	Pre	1.593	0.366	0.021 *
	Post	1.833	0.288	
⑪リーダーシップ力	Pre	1.654	0.243	0.007 **
	Post	1.877	0.147	
⑫革新的創造力	Pre	1.309	1.691	0.006 *
	Post	0.555	0.256	

※表中のp値について \*\* : p < .01, \* : p < .05

対応のある検定を行った結果、以下のカテゴリにおいて有意な差が見られた。( )内は平均値の変化である。

- ・1%水準で有意差あり・・・
  - ①知識理解力(+0.60)
  - ⑤問題認知力(+0.74)
  - ⑫革新的創造力(+0.38)
- ・5%水準で有意差あり・・・
  - ③経営交渉力(+0.20)
  - ⑥批判的思考力(+0.20)
  - ⑦主体的判断力(+0.20)
  - ⑨積極的行動力(+0.20)
  - ⑩問題解決力(+0.24)
- ・有意差なし・・・
  - ②異文化適応力(+0.10)
  - ④人間関係力(+0.19)
  - ⑧自己調整力(+0.12)
  - ⑪リーダーシップ力(+0.22)

以上のことから、本科目の受講により、①知識理解力 ③経営交渉力 ⑤問題認知力 ⑥批判的思考力 ⑦主体的判断力 ⑨積極的行動力 ⑩問題解決力 ⑪リーダーシップ力 ⑫革新的創造力 において能力の向上が見られたといえる。

## 3-2-3 秋学期の分析結果と考察

秋学期の実施科目は、専門教育プログラム12科目、実践基礎教育プログラム6科目、実践応用教育プログラム7科目の計25科目であった。これらは、施行期間での成果と課題をふまえ、体系的に編成されたカリキュラムに基づいて提供されている。以下は、秋学期開始前に実施したプレテストと、終了後のポストテストの比較の結果を示したものである。

## 1) 大カテゴリーにおける比較の結果

カテゴリ名	平均	SD	p
I ASEANに関する幅広い知識と教養	Pre	1.583	0.017 *
	Post	2.260	
II 現地の人々と対等でウィン・ウィンな関係	Pre	1.170	0.000 **
	Post	1.563	
III 問題点をいち早く認知する	Pre	1.625	0.049 *
	Post	2.104	
IV 問題点に対し自らの頭で自主的に良く考えて判断	Pre	1.896	0.122
	Post	2.229	
V 自らの責任で自律的かつ積極的に行動し解決	Pre	1.750	0.223
	Post	2.292	
VI 会社を発展させていく能力	Pre	1.479	0.001 **
	Post	2.063	

※表中のp値について \*\* :  $p < .01$ , \* :  $p < .05$

対応のある検定を行った結果、以下のカテゴリにおいて有意な差が見られた。( )内は平均値の変化である。

- ・1%水準で有意差あり・・・
  - II 現地の人々と対等でウィン・ウィンな関係(+0.39)
  - III 問題点をいち早く認知する(+0.48)
  - VI 会社を発展させていく能力(+0.58)
- ・5%水準で有意差あり・・・
  - I ASEANに関する幅広い知識と教養(+0.68)
- ・有意差なし・・・・・・・・・・
  - IV 問題点に対し自らの頭で自主的に良く考えて判断(+0.33)
  - V 自らの責任で自律的かつ積極的に行動し解決(+0.54)

以上のことから、大カテゴリーII、III、VIにおいて、受講生の能力向上が顕著であったといえる。また、大カテゴリーIにおいても、科目の受講による能力の向上が認められる。

今回の比較調査で有意差が認められなかった大カテゴリーIVとVの能力に関して、受講生自らが、主体的に考え判断する場面を科目の特性に応じて意図的に設定し、協働的な学習を通して経営者としての判断力や行動力を培っていけるように努めていきたいと考える。

## 2) 中カテゴリにおける比較の結果

カテゴリ名		平均	SD	p
①知識理解力	Pre	1.083	0.775	0.078 *
	Post	2.167	0.632	
②異文化適応力	Pre	2.083	0.463	0.001 **
	Post	2.354	0.537	
③経営交渉力	Pre	1.000	0.996	0.032 *
	Post	1.203	0.980	
④人間関係力	Pre	1.396	0.791	0.000 **
	Post	2.042	0.500	
⑤問題認知力	Pre	1.063	1.063	0.003 **
	Post	1.813	0.655	
⑥批判的思考力	Pre	1.906	0.455	0.321 *
	Post	2.250	0.483	
⑦主体的判断力	Pre	1.688	0.430	0.469
	Post	2.063	0.425	
⑧自己調整力	Pre	2.104	0.540	0.105
	Post	2.396	0.425	
⑨積極的行動力	Pre	1.875	0.516	0.205 **
	Post	2.422	0.373	
⑩問題解決力	Pre	1.500	0.633	0.115 *
	Post	2.031	0.386	
⑪リーダーシップ力	Pre	1.729	0.599	0.010 *
	Post	2.167	0.544	
⑫革新的創造力	Pre	1.229	0.948	0.001 **
	Post	1.958	0.515	

※表中のp値について \*\* : p < .01、\* : p < .05

対応のある検定を行った結果、以下のカテゴリにおいて有意な差が見られた。なお、( )内は平均値の変化である。

- ・1%水準で有意差あり・・・
  - ②異文化適応力(+0.27)
  - ④人間関係力(+0.65)
  - ⑤問題認知力(+0.75)
  - ⑫革新的創造力(+0.73)
- ・5%水準で有意差あり・・・
  - ①知識理解力(+1.08)
  - ③経営交渉力(+0.20)
  - ⑪リーダーシップ力(+0.44)
- ・有意差なし・・・
  - ⑥批判的思考力(+0.34)
  - ⑦主体的判断力(+0.38)
  - ⑧自己調整力(+0.29)
  - ⑨積極的行動力(+0.55)
  - ⑩問題解決力(+0.53)

以上のことから、本科目の受講により、①知識理解力 ②異文化適応力 ③経営交渉力 ④人間関係力 ⑤問題認知力 ⑪リーダーシップ力 ⑫革新的創造力 において能力の向上が見られたといえる。



### 3-3 授業評価アンケート調査

学習者自身が「自己を客観視して変容に気付く」という視点で、科目ごとに授業評価アンケートを実施した。第1回目の授業実施の際に、アンケート実施の目的や方法に関して趣旨説明を行った。その中で、関大LMSを活用したオンラインアンケート調査回答の方法及び、回答期日等についても説明を加えた。集計結果は授業担当者にフィードバックされ、リフレクションの場で話し合うための情報とした。アンケートの実施(内容・集計・分析方法等)に関しては、FD部会にて共通理解を図った。また、集計結果や考察に関して意見交流を行い、次年度に活かすための改善点を整理した。

#### 3-3-1 春学期のアンケート結果

春学期のアンケート項目は、選択式が13項目、自由記述式は3項目であり、学習者(前提条件・意欲・変容)及び授業(内容や方法・難易度・効用性や進度)に関するキーワードを基に、質問項目を作成した。

##### 〈春学期授業評価アンケート 質問項目〉

[学習者について] 選択式		
前提条件	1	授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。
	2	授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。
意欲	4	授業によく出席していた。
	5	授業で学んだことについて、書籍や情報を調べるなどして復習に取り組んだ。
変容	6	授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。
	7	授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。
	8	授業の中で、他の授業者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。
可能性	9	今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。
[授業について] 選択式		
内容や方法	3-1	e-learningによる反転授業：事前配信したビデオ映像(以下、反転授業)を視聴した。
	3-2	反転授業の事前課題(レポート等)に取り組んだ。
	3-3	反転授業は学習を深めるのに役立った。
	10	授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。
難易度や進度	11	授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。
自由記述		
反転授業の成果	12	反転授業を受けて、成果や問題点だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。
授業の成果	13	この授業科目で学んだことは、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。
授業への期待、要望	14	今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。

授業科目名		海外子会社における人事労務政策						
担当教員名		仲本利明						
受講者数		28名	出席率	93.3%	回答者数	28名		
設問項目				強く 思う	思う	どちらとも いえない	そう 思わない	全く 思わない
学習者について	前提条件	1	授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	1	9	6	10	2
		2	授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	0	7	3	11	7
	意欲	4	授業によく出席していた。	18	8	1	0	1
		5	授業で学んだことについて、書籍や情報を調べるなどして復習に取り組んだ。	0	10	7	10	1
	変容	6	授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	7	15	5	1	0
		7	授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	5	17	2	4	0
		8	授業の中で、他の授業者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	7	18	2	0	1
	可能性	9	今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	7	14	6	0	1
	授業について	授業内容や方法	3-1	e-learningによる反転授業：事前配信したビデオ映像（以下、反転授業）を視聴した。				
3-2			反転授業の事前課題（レポート等）に取り組んだ。	13				
3-3			反転授業は学習を深めるのに役立った。	3	11	11	2	1
10			授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	6	11	6	4	1
難易度や進度		11	授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	4	16	5	1	2

**12 反転授業を受けて、成果や問題点だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。**

様々な意見が聞けたことはよかったですと思います。ただほとんどの時間がグループワークに費やされ人事労務問題に関する知識、情報が少なかったのでは？と感じます。グループワークに時間を費やすなら代わりに知識、情報等をまとめた資料の配布が欲しかったです。（受講者7）

事前課題に取り組むうえで、自身で出来る範囲の調査をする促しになる点が良いと感じた。社会人として参加する身として、なかなか自身の気持ちだけでは時間を割いて取り組みづらい点をフォローできる。（受講者12）

成果は自分自身の考えだけではなく、周りの受講者さんの言葉や考えを受けてとてもいい刺激を得られたことです。反省点は、やはり経験されている方には及ばないと思ってしまったことです。もう少し柔軟な意見を今後出していきたいです。（受講者21）

**13 この授業科目で学んだことは、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。**

現在の仕事にすぐ役立つ可能性は低いですが、将来的に海外で駐在員として仕事をするようになった際、ローカルスタッフの考え方を理解することに役立つと思います。日本人として、ローカルスタッフと上手く付き合っていく為の考え方を学ぶことができました。（受講者2）

直接現在の仕事と海外子会社の人事労務問題とは関係は薄いですが、労働組合とうまく付き合っていく交渉の仕方や、今回のケーススタディのように問題を想定して解決へのアプローチや今後の対応を考えることは仕事に生かせると感じました。（受講者11）

近い将来の海外赴任において、昇給、賞与交渉があるため、今回のケーススタディは参考になった。（受講者19）

**14 今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。**

ケーススタディはディスカッションにはよいが、個別の状況が違いすぎるため、知識として活用するには最終的に実際のケースの対応と結果を資料へ入れておいてもらえば、具体的な事例として参考にできる。（受講者5）

自分の選考が会計・税務であるので、日本人出向者の給与にかかる移転価格対応（負担割合の取り決め）について、各国の状況を学びたいです。

また、各国の国民性や労働における文化等も日本とは大きく異なる面があることをご教示いただきましたので、その点についてももっと深く学びたいと思いました。（受講者9）

ケーススタディの例は、他にもあり、自分なりにシミュレーションできることがある。自分だったらどう動き、どういう結論を出すかを考えたい。（受講者19）

**\*自由記述から読み取った、受講生からのニーズ**

- ① ASEAN各国の人事労務管理の特徴と対策 ② 人事労務問題のケーススタディをめぐる日本国内外の比較  
③ 講師の区大敵経験に基づいた事例の検証と対策 ④ 海外子会社での人事労務の取り決めと問題点

授業科目名		日本的経営思想									
担当教員名		田中一弘									
受講者数		30名	出席率		100%	回答者数		26名			
設問項目						強く思う	そう思う	いえない	どちらとも	そう思わない	全くそう思わない
学習者について	前提条件	1	授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。			0	5	5	14	2	
		2	授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。			4	18	2	2	0	
	意欲	4	授業によく出席していた。			13	9	2	2	0	
		5	授業で学んだことについて、書籍や情報を調べるなどして復習に取り組んだ。			2	13	5	5	1	
	変容	6	授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。			7	17	1	1	0	
		7	授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。			4	16	5	0	1	
		8	授業の中で、他の授業者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。			5	16	4	1	0	
	可能性	9	今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。			6	17	3	0	0	
	授業について	授業内容や方法	3-1	e-learningによる反転授業：事前配信したビデオ映像（以下、反転授業）を視聴した。			4	14	4	3	1
3-2			反転授業の事前課題（レポート等）に取り組んだ。			9	13	2	2	0	
3-3			反転授業は学習を深めるのに役立った。			10	12	2	2	0	
10			授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。			2	20	3	1	0	
難易度や進度		11	授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。			1	18	6	1	0	
<b>12 反転授業を受けて、成果や問題点だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。</b>											
事前に学ぶことで、読んだ書物、資料も含め効率的に理解することができた(受講者12)											
本授業内容はアカデミックな感覚であり、これまでビジネス＝競争としか考えていなかったため、ビジネスと道徳の繋がりについてよく納得できました。(受講者24)											
日本的な経営思想の良さなどを詳細に分析されていることで、海外との違いが明確に分かった。事前課題に取り組むことを前提とした授業内容で非常にレベルが高く、高度な理解力が必要だと感じた。(受講者28)											
<b>13 この授業科目で学んだことは、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。</b>											
経営者ではなくても、管理者の立場でも十分に役立つ知見や拠り所を与えて頂けたと感じています。											
「腹中に書をもつ」大切さ、これまで興味があったが読まなかった論語は今後必要だと痛感しましたので、時間をかけて取り入れ且つ表現できる自分でありたい。それらが、信頼できる人に繋がる近道であると考えております。(受講者4)											
改めて日本的な思想とビジネスにおける強みのイメージがついた。その国になじむ事も大事だが、その国で日系企業として事業を推進していく体制作り、しいては現地社員への思想の考え方でイメージできる事があった。(受講者13)											
会社のベクトル合わせや、部のベクトル合わせに、引用出来そうです。後は、上司の考えの理解等に応用してみたいです。(受講者20)											
日本的な経営思想が良心に基づいており、その素晴らしさや内容が良く分かった。授業や書籍の中にも有ったが、それを押し付けるのではなく、日本的な経営思想はこの様なモノだと説明する事が出来る事が役に立つと思う。(受講者28)											
<b>14 今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。</b>											
生きる姿勢に関する書物を取り入れていきたい。論語は必読すべき書であると感じました。(受講者4)											
より具体的に、関係者と対話する上でのテクニックなどを学びたい(受講者12)											
一般的なコーポレートガバナンスの考え方を理解する必要がある。(受講者18)											
渋沢の道徳、経済説は漠然としている箇所が多々あった。再度テキストや購入した本を読み、機会があれば再受講したいと思った。(受講者26)											
実際に日本的な経営思想で経営している会社の事例(こういうときにこういう部分で日本的な経営思想が働いている)というのを自分でも考えながら、各企業のことやニュースなどを見ていこうと思います。(受講者30)											
<b>*自由記述から読み取った、受講生からのニーズ</b>											
①日本的経営思想と世界諸国の経営思想との比較 ②日本的経営思想とアジア地域の経営思想の融合の方法 ③海外における日本的経営思想の具体化 ④企業経営の思想を現地の人に伝えるテクニック											

授業科目名		海外事業体(子会社)におけるコンプライアンス体制						
担当教員名		野本隆						
設問項目		29名	出席率	96.6%	回答者数	24名		
		設問項目		強く思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない
学習者について	前提条件	1	授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	1	14	2	7	0
		2	授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	3	8	11	2	0
	意欲	4	授業によく出席していた。	13	10	1	0	0
		5	授業で学んだことについて、書籍や情報を調べるなどして復習に取り組んだ。	3	10	8	3	0
	変容	6	授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	11	12	1	0	0
		7	授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	3	17	2	2	0
		8	授業の中で、他の授業者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	7	15	1	1	0
	可能性	9	今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	11	12	1	0	0
	授業について	授業内容や方法	3-1	e-learningによる反転授業：事前配信したビデオ映像(以下、反転授業)を視聴した。	3	12	4	5
3-2			反転授業の事前課題(レポート等)に取り組んだ。	11	11	0	2	0
3-3			反転授業は学習を深めるのに役立った。	6	13	4	1	0
10			授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	10	12	2	0	0

12 反転授業を受けて、成果や問題点だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。
今回の反転授業は、他の科目とは異なって、PPTのような資料の閲覧であったため、要点がまとめられており短時間で理解することができました。ただ、やはり動画により解説いただきながら資料を閲覧していく方が、本番授業に向けてモチベーションが向上したり、より先生を身近に感じられたりする印象を持ちました。個人的な印象ですが、反転授業動画を多少簡略化し、その分を今回の要旨資料を熟読する時間に充てるなどことなども、効率的ではないかと感じました。ただし各科目や先生の手法により効率的な事前学習の形は変わりますので、定型的なBESTというものはないようにも思えます。(受講者9)
事前に調べることができ、授業に取り組めた。問題点ではないですが、推薦図書などがあればお教えいただけたらと思った。(受講者22)
13 この授業科目で学んだことは、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。
企業人としての振る舞いを考え直す良い機会であった。個人の満足ではなく、企業全体で役立つ風土を作り上げるのに不可欠であると思う。(受講者4)
様々な具体例の中からパワハラの例があり、指導・育成が自分自身の課題点と感じているので「怒る」ではなく「叱る」を実践してみたいと感じた。(受講者21)
当社の海外子会社ではコンプライアンス体制が整っておらず、今後整備していくにあたり役に立つことが多く感じました。(受講者27)
14 今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。
今後体制を作っていくにあたって疑問点や対応の難しいことなどは出てくるので、今何をというよりも行動する中で見えてくるものが多いと思う。ただ、実際コンプライアンス違反があった場合にどういった対応をとればよいのか、授業にあったような具体的な例での説明はまた聞きたい。(受講者5)
日本にいれば授業で出てきた事例の善悪は判断できるが、実際現地にいれば、善悪の判断自体がつかない事例も多いため、そうしたときの対処法を学びたい(個人的に授業後質問したが、カラオケ店に入り浸る日本人スタッフの問題など)。また、上述の答えの一つである行動指針について、作成法などをもう少し詳しく勉強したい。(受講者29)
*自由記述から読み取った、受講生からのニーズ
①現地管理者の優秀な人材の見極め方と採用活動 ②コンプライアンス違反に対する対応と事例 ③コンプライアンス意識を共有するための具体的な手法 ④日系企業のコンプライアンスへのリスク管理体制とその事例



授業科目名		ASEANの華人ビジネス								
担当教員名		吉野文雄								
受講者数		28名	出席率		93.3%	回答者数		22名		
設問項目						強く 思う	そう 思う	どちらとも いえない	そう 思わない	全く 思わない
学習者について	前提条件	1	授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。			1	5	3	7	6
		2	授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。			1	7	10	4	0
	意欲	4	授業によく出席していた。			8	13	1	0	0
		5	授業で学んだことについて、書籍や情報を調べるなどして復習に取り組んだ。			3	12	6	1	0
	変容	6	授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。			4	13	3	1	1
		7	授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。			3	9	6	4	0
		8	授業の中で、他の授業者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。			1	9	11	1	0
	可能性	9	今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。			4	7	8	2	1
	授業について	授業内容や方法	3-1	e-learningによる反転授業：事前配信したビデオ映像（以下、反転授業）を視聴した。			3	14	3	2
3-2			反転授業の事前課題（レポート等）に取り組んだ。			3	12	7	0	0
3-3			反転授業は学習を深めるのに役立った。			4	12	6	0	0
10			授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。			1	9	10	1	1
難易度や進度		11	授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。			3	7	10	1	1

#### 12 反転授業を受けて、成果や問題点だと思ふことは何ですか。具体的に記入してください。

この授業に関しては学習の目的が自分の中でイマイチまとめることができなかつた印象。反転授業でどんな内容であるかは理解したが、なぜこれを学ぶのか理解できていなかった。（受講者5）

反転授業を受けたからこそ本授業にすんなりと入れました。（受講者24）

自社にはASEAN圏ではシンガポールにしか子会社がなく、中華圏中心に展開しているため、私自身はASEANに関する知識があまりありませんでした。そのような中で書籍などにより事前に学習することは、どれを選べばいいのか、どの範囲を学べばいいのか、などの判断が難しいと思われませんが、動画による反転授業では先生の口頭でのご説明に加え、多くの写真を使用されており、視聴覚でも頭に入りやすく構成されていると思いました。また同時に興味をそそるといふ点では非常にわかりやすく、未知の分野であっても壁を作らず、授業に入ることができたと思います。（受講者9）

#### 13 この授業科目で学んだことは、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。

東南アジアでは華人が大きな影響力を持っていることが分かりました。今後海外へ行った際、中国人との接し方は特に意識しなければならないと思いました。（受講者2）

華人への抵抗がなくなったことは良い点である。これまでは、「華人＝中国」の人という印象が強かったが、独立した考えを持っている人が多いとのことであった。但し、タイにおけるCPグループは異質で中国寄りという情報は頭の中に入れておくべき情報であると感じた。（受講者4）

華人というものの存在を知らなかつたので、知識として役に立った（受講者25）

#### 14 今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。

ASEANにおいて華人は無視できない存在であるので、今後も情報は収集していきたいと考えている。

CPグループは大学もタイで創設しているので、そこを卒業した人たちの動向も今後は無視できないかもしれない（どのレベルまで軍や政府に入り込んでいくのか要注意であると思う）。（受講者4）

意外なことはASEANの華人の実態について深く研究されていないということであった。機会があれば是非、国ごとの華人の詳細について学んでみたい。（受講者24）

別の授業で、日本人独特の経営思想はどのようなものかを学びました。華人企業にも華人企業特有の経営思想のようなものがあると思います。今後は、華人経営の企業がどのような理念を持っているのか、また実態はどのようなのか、現地の人たちとのつながり方はどのようなものかを勉強していきたいと思ふます。（受講者31）

#### \*自由記述から読み取った、受講生からのニーズ

- ① ASEAN地域以外の国と華人ビジネスとの関係性 ② 華人と現地人の融合の可能性  
③ ASEAN地域におけるビジネスと民族性や宗教観の関連 ④ 華人企業特有の経営思想

授業科目名		海外子会社の経営者として必要な能力						
担当教員名		永吉賢吾						
受講者数		29名	出席率	96.6%	回答者数	23名		
設問項目			強く 思う	そう 思う	どちら とも いえない	そう 思わ ない	全く そう 思わ ない	
学習者 について	前提 条件	1	授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	0	11	3	7	2
		2	授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	1	9	8	4	1
	意欲	4	授業によく出席していた。	8	15	0	0	0
		5	授業で学んだことについて、書籍や情報を調べるなどして復習に取り組んだ。	2	8	6	6	1
	変容	6	授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	4	17	2	0	0
		7	授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	6	12	3	2	0
		8	授業の中で、他の授業者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	6	13	2	2	0
	可能性	9	今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	6	15	1	1	0
	授業 について	授 業 内容や 方 法	3-1	e-learningによる反転授業：事前配信したビデオ映像（以下、反転授業）を視聴した。	3	13	3	4
3-2			反転授業の事前課題（レポート等）に取り組んだ。	4	16	0	1	2
3-3			反転授業は学習を深めるのに役立った。	1	14	8	0	0
10			授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	5	13	5	0	0
難易度 や進度		11	授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	1	16	3	3	0

<b>12 反転授業を受けて、成果や問題点だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。</b>	
他の科目同様、反転授業を受けることで実際の本授業で取り扱う内容を理解することができるので、能動的に授業に参加することができたと思います。また、これは反転授業に問題がある訳ではありませんが、本授業の際、時間が足りずに全体的に「押し気味」であったので、座学部分を反転授業に更に割振り、本授業の際はグループワークに十分な時間を割けるようにしていただけたらよいと思いました。個人的にはグループワークをし、他の班の意見を聞くことも大変参考になると思います。(受講者9)	
講義の内容については、様々な課題設定があり有益なものと感じた。特にケーススタディにおける、海外子会社の経営状況に応じた投資判断の考え方については参考になった。(受講者16)	
事前にネットで調べたり、上司に相談し教えてもらったりすることができ、良かった。(受講者22)	
<b>13 この授業科目で学んだことは、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。</b>	
為替のリスクヘッジは日ごろから気を使っているが、もう少し具体的に知っておくべきだとは認識した。前半の授業での自分の会社の強み、弱みの分析については、一度海外子会社での分析を再度具体的に検討することが必要と感じた。(受講者5)	
結論として経営者の覚悟のような他の授業と共通する部分もあり、今後海外駐在した際は役立つと思った。(受講者29)	
日本国内の得意先を相手にする場合でもその会社の経営者と面談する際に一営業では思いもよらない分野の会話ができる、ひいてはそのから違う方向性の新たなビジネス展開ができる…かもしれないという展望があります。(受講者31)	
<b>14 今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。</b>	
経営戦略を立案・実行するための考え方、また経営分析を行うための財務・会計の知識を学びたいと思いました。経営戦略の立案をし、実行するための組織体制の構築をどのように行うかということ、また各成果を数値化して、分析し次なるアクションへつなげるための判断をする際、データを読み解く能力が備わっていないと、リスク回避、しいては結果的に企業の発展につながらないと思うからです。また、経営者としての能力はもとより、経営者として魅力ある人物になるための心構えや日々取り組んでいること、実務経験の豊富な先生方のお話を聞いて学びたいと思いました。(受講者1)	
キャッシュフロー、財務諸表、バランスシートの読み解き方 (受講者12)	
海外子会社の経営者としてやるべきことについて実際に自社のケースに当てはめて進めていくことでの課題や問題などについても相談できればと思う。(受講者13)	
<b>*自由記述から読み取った、受講生からのニーズ</b>	
①経営分析を行うための財務・会計の深い知識 ②他の ASEAN 地域や中国の税務財務経営について ③資金調達や税務など現地における経営のやり方 ④海外事業体での人事評価方法、現地の方の登用	

授業科目名		海外派遣者のストレスマネジメント									
担当教員名		川端康雄									
受講者数		22名	出席率		73.3%	回答者数		18名			
設問項目						強く 思う	そう 思う	いえ ない	ど ちら も	思 わ な い	全 く 思 わ な い
学習者について	前提条件	1	授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。			3	3	6	5	1	
		2	授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。			0	3	8	7	0	
	意欲	4	授業によく出席していた。			8	10	0	0	0	
		5	授業で学んだことについて、書籍や情報を調べるなどして復習に取り組んだ。			0	3	10	5	0	
	変容	6	授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。			1	15	2	0	0	
		7	授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。			4	8	4	2	0	
		8	授業の中で、他の授業者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。			7	10	1	0	0	
	可能性	9	今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。			4	11	3	0	0	
	授業について	授 業 内 容 や 方 法	3-1	e-learningによる反転授業：事前配信したビデオ映像（以下、反転授業）を視聴した。			1	13	2	2	0
3-2			反転授業の事前課題（レポート等）に取り組んだ。			5	11	0	2	0	
3-3			反転授業は学習を深めるのに役立った。			2	13	3	0	0	
10			授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。			4	11	3	0	0	
難易度 や 進 度		11	授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。			3	14	1	0	0	
<b>12 反転授業を受けて、成果や問題点だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。</b>											
普段メンタル的な事は、触れてはいけないと考えがちだったので、考えが改められた。（受講者4）											
反転授業で、「ユーストレス」と「ディストレス」というものがあることを恥ずかしながら初めて知りました。本授業を受けるに当たり、必須の知識だと感じたので、反転授業であらかじめご教示いただいたことは非常に有効だと感じました。当日の授業の流れについてもご丁寧に先生がご説明してくださっていたので、反転授業を2回視聴しましたが、当日のイメージを持って、臨むことができました。（受講者9）											
海外赴任におけるストレス・マネジメントの手法を理解した。手法自体は今までに知っている内容もあったが、改めてその意義を理解したように思う。実際にメンタル不全者が発生した際にどのように対応するのが適切かは今後の課題。（受講者18）											
<b>13 この授業科目で学んだことは、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。</b>											
仕事などによるストレスがあっても、逃げず、力まず、考えこまずの考えでストレスに対処したい。また、ストレスに対応するため、リラクゼーションで心に貯金する。ストレスは体にも影響がありますので、考え方や対処の仕方を学べて良かった。（受講者3）											
部下のストレスももちろんの事、自分自身のストレス・マネジメントも実行していきたい。部下に接する上で、自分自身がよいストレス状態でないといけない（受講者12）											
<b>14 今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。</b>											
ストレスを抱えた他者へのアプローチについて。（受講者2）											
体系的なメンタルトレーニングを受けてみたいと思った。（受講者4）											
価値観の違いは面白かった。人によってこのような感じ方、考え方の違いがあるのは興味深い。一方でストレスに関しては良い意味であり考えすぎないようにしたいと思う。（受講者5）											
鬱への対応（受講者6）											
今すぐ「この部分をもっと学びたい」ということは特にないが、時間が経過して本講義の記憶が薄れ、特に自分に余裕がなくなったりしたら、相手と自分は価値観が違うことなどを考えずに行動してしまいがちだと思うので、1年から数年に一度、リマインドの意味をこめて、今回のような講義を受けて、心に余裕を持つようにしたい。（受講者29）											
<b>*自由記述から読み取った、受講生からのニーズ</b>											
①ストレスレベルの判断基準と対処法 ②ストレスを抱えた他者へのアプローチの方法 ③複数のリラクゼーション法の活用 ④ストレス発散を含めたカウンセリング											

授業科目名		プレゼンテーション・スキルとその活用						
担当教員名		西尾三津子						
受講者数		19名	出席率	65.5%	回答者数	17名		
設問項目			強く思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない	
学習者について	前提条件	1	授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	1	7	6	3	0
		2	授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	0	2	5	8	2
	意欲	4	授業によく出席していた。	5	9	2	1	0
		5	授業で学んだことについて、書籍や情報を調べるなどして復習に取り組んだ。	0	7	6	3	1
	変容	6	授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	3	11	2	1	0
		7	授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	3	11	2	1	0
		8	授業の中で、他の授業者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	2	12	3	0	0
	可能性	9	今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	1	12	4	0	0
	授業について	授業内容や方法	3-1	e-learningによる反転授業：事前配信したビデオ映像（以下、反転授業）を視聴した。	※反転授業は行っていない。			
3-2			反転授業の事前課題（レポート等）に取り組んだ。					
3-3			反転授業は学習を深めるのに役立った。					
10		授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	1	12	3	1	0	
難易度や進度		11	授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	1	14	1	1	0

12 反転授業を受けて、成果や問題点だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。	
※反転授業は行っていない。	
13 この授業科目で学んだことは、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。	
<p>これまでは、開発品のレポートや品質に関するレポートなど、背景がわかる特定の人を対象にした打ち合わせ資料の領域での資料作成が主であった。今回のように、所属企業がバラバラで業界の話題ではない課題で資料作成から発表する経験によって、自分に不足している部分をさらけ出せたと認識している。これを踏まえて、資料作成技術や発表能力を向上させるべく取り組みたいと考えている。（受講者4）</p> <p>プレゼンテーションは仕事上でも機会が多いものの、今回の授業では全くといっていいほど記憶に残るプレゼンが出来なかったため、今回のを糧にしたい。（受講者18）</p> <p>昇進試験などや、業務報告会などプレゼン機会はそれなりにあるため、自己のプレゼンをビデオにとるなどして、今後につなげていきたい。（受講者19）</p> <p>パワーポイントを使ってのプレゼンは初めてで、とても意味のある講義でした。3ヶ月間学んだ内容を振り返りましたが、自分の課題が明確になりました。また、他の方のプレゼンを聴くことができ刺激を受け、参考にしたい部分もあります。役員会でプレゼンをする予定がありますのでその時に今回学んだ「相手がいること、聴き手を意識する」を忘れず行いたいと思います。（受講者22）</p> <p>あまりプレゼンをする機会はないですが、日々お客様に説明する機会がたくさんあるので、そういう場面で活かしたいと思います。（受講者30）</p>	
14 今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。	
<p>授業の中で、プレゼンテーションには説明型や説得型等、用途に応じた発表の仕方があるというお話がありました。それぞれの違い、またほかにも今後活用できる〇〇型といったものがあれば、学んでみたいと思います。またプレゼンの話し方（含トーン）、使用する言葉のチョイス、効果的な非言語の部分をもっと掘り下げて学びたいと思いました。（受講者1）</p> <p>非言語コミュニケーションについて（受講者2）</p> <p>プレゼンに必須であるPPTについて、より伝わりやすい構成やイメージなど「資料作成」にも着眼した授業があればよいと思いました。資料によってもプレゼン（話し方）も変化があると考えているので、様々なシチュエーションでのプレゼンテーションを学びたいと思いました。（受講者9）</p> <p>自分の苦手意識をなくすためにどのようにすればいいのか。他の方のプレゼンを見ることで自分の課題や問題点がはっきりわかりました。（受講者22）</p> <p>場慣れの為に今後も同様の講義を受講したい（受講者28）</p>	
*自由記述から読み取った、受講生からのニーズ	
<p>①非言語の要素を取り入れたプレゼンテーション ②業務で使う長いプレゼンテーションの考え方や手法</p> <p>③プロの方からの指摘を取り入れたプレゼンのフィードバック ④プレゼン資料の作成方法</p>	



## 3-3-2 秋学期のアンケート結果

秋学期のアンケート項目は、選択式が19項目、自由記述式は3項目であり、学習者(前提条件・意欲・変容)及び授業(内容や方法・難易度・効用性や進度等)に関するキーワードを基に、以下のような質問項目を作成した。春学期の項目に加えて、反転授業の視聴回数や視聴できなかった理由等、授業改善のための方策を問う設問を付加した。

自由記述の欄には、特徴的な受講生の意見を抜粋してまとめ、自由記述から読み取った受講生のニーズを、それらの下に記述するようにした。

## 〈秋学期授業評価アンケート 質問項目〉

設問内容
1. 授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識を持っていた。
2. 授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。
3. 授業の前にe-Learningによる事前配信ビデオ(以下、反転授業)を視聴した。 ①四回以上視聴した ②二、三回視聴した ③一回視聴した ④部分的に視聴した ⑤全く視聴していない
4. 反転授業を視聴した人は1、視聴していない人はその理由を2~5より選んでください。 ①視聴した ②機器をうまく利用できなかった ③時間がなかった ④必要性を感じなかった ⑤その他
5. 反転授業で出された事前課題に取り組んだ。
6. 反転授業は学習の理解を深めるのに役立った。
7. 授業によく出席していた。
8. 授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。
9. 授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。
10. 授業の中で、他の受講生との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。
11. 毎回の授業のテーマは、明確に示されていた。
12. 教材の使い方は適切であった。
13. 教員の話し方は、明確で理解しやすかった。
14. 教員は受講生の反応を確かめながら授業を進めていた。
15. 授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。
16. 授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。
17. 教室内の学習環境は、適切に保たれていた。
18. 今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。
19. 同僚や部下に推薦できるような授業内容であった。
20. 反転授業を受けて、成果や問題点だと思えることは何ですか。具体的に記入してください。(自由記述)
21. この授業科目で学んだことは、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。(自由記述)
22. 今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。(自由記述)

授業科目名	経営者のためのシンキングチャートの活用				
担当教員名	西尾三津子				
受講者数	16名	回答者数	13名		
設問項目	①強く そう思う	②そう思う	③どちらとも いえない	④そう 思わない	⑤全くそう 思わない
1. 授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	0	7	4	1	1
2. 授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	0	7	4	2	0
3. 授業の前にe-Learningによる事前配信ビデオ(以下、反転授業)を視聴した。 ①四回以上視聴した②二、三回視聴した③一回視聴した④部分的に視聴した⑤全く視聴していない	0	6	5	0	0
4. 反転授業を視聴した人は1、視聴していない人はその理由を2~5より選んでください。 ①視聴した②機器をうまく利用できなかった③時間がなかった④必要性を感じなかった⑤その他	11	0	0	0	0
5. 反転授業で出された事前課題に取り組んだ。	2	9	2	0	0
6. 反転授業は学習の理解を深めるのに役立った。	4	9	0	0	0
7. 授業によく出席していた。	7	5	1	0	0
8. 授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	6	7	0	0	0
9. 授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	5	6	2	0	0
10. 授業の中で、他の受講生との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	5	8	0	0	0
11. 毎回の授業のテーマは、明確に示されていた。	8	5	0	0	0
12. 教材の使い方は適切であった。	4	9	0	0	0
13. 教員の話し方は、明確で理解しやすかった。	8	5	0	0	0
14. 教員は受講生の反応を確かめながら授業を進めていた。	8	5	0	0	0
15. 授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	3	9	1	0	0
16. 授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	3	10	0	0	0
17. 教室内の学習環境は、適切に保たれていた。	6	7	0	0	0
18. 今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	6	6	1	0	0
19. 同僚や部下に推薦できるような授業内容であった。	3	10	0	0	0
20. 反転授業を受けて、成果や問題点だと思ふことは何ですか。具体的に記入してください。	事前学習できた事で、本番授業を受ける時、問題意識を持って参加できました。(受講者7)				
	知識のインプットが反転授業で実施されたことにより、授業ではディスカッション形式のチャート活用が実施され理解の深化に繋がった。(受講者5)				
	事前に必要な知識・予習しておくべき内容が明示されたので、インターネットなどで予備知識を得る事ができた。(受講者9)				
21. この授業科目で学んだ事は、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。	業務上における問題の整理と、問題点を的確に把握し、適切な問題解決へと繋がる。(受講者3)				
	多くの人の意見を集約する際に役立つと思いました。ただし、実運用はかなり難易度が高いと同時に思いました。(受講者5)				
	現状の問題分析など、従来から分析ツールは使ってはいたが、その幅が広がった。似たようなものもあるが切り口が少し違うので、応用してみたいと思う。(受講者12)				
22. 今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。	具体的な事例を基にしたグループによるケーススタディの反復(受講者3)				
	見える化した後の分析方法(受講者4)				
	シンキングチャートを使用する時の主な事例(どういうときに、どういうチャートを使用するのか)。(受講者5)				
	シンキングチャートは奥が深そうなので、自分で調べたり加工したりして今後も使っていきたい。考える事の整理・図式化は重要だと思うので、引き続き勉強したい。(受講者11)				
*自由記述から読み取った、受講生からのニーズ	①見える化した後の分析方法 ②授業で取り上げなかったチャートの活用 ③自分で調べ加工して活用する仕方 ④自己の弱点の補強と物事の分類方法				

授業科目名	異文化コミュニケーション				
担当教員名	久保田真弓				
受講者数	15名	回答者数	11名		
設問項目	①強く そう思う	②そう思う	③どちらとも いえない	④そう 思わない	⑤全くそう 思わない
1. 授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	0	4	3	1	3
2. 授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	0	8	2	1	0
3. 授業の前にe-Learningによる事前配信ビデオ(以下、反転授業)を視聴した。 ①四回以上視聴した②二、三回視聴した③一回視聴した④部分的に視聴した⑤全く視聴していない	0	6	5	0	0
4. 反転授業を視聴した人は1、視聴していない人はその理由を2~5より選んでください。 ①視聴した②機器をうまく利用できなかった③時間がなかった④必要性を感じなかった⑤その他	11	0	0	0	0
5. 反転授業で出された事前課題に取り組んだ。	4	7	0	0	0
6. 反転授業は学習の理解を深めるのに役立った。	2	9	0	0	0
7. 授業によく出席していた。	4	3	3	1	0
8. 授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	4	7	0	0	0
9. 授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	2	8	0	1	0
10. 授業の中で、他の受講生との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	3	8	0	0	0
11. 毎回の授業のテーマは、明確に示されていた。	2	9	0	0	0
12. 教材の使い方は適切であった。	3	7	0	1	0
13. 教員の話し方は、明確で理解しやすかった。	4	6	1	0	0
14. 教員は受講生の反応を確かめながら授業を進めていた。	5	6	0	0	0
15. 授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	3	8	0	0	0
16. 授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	3	8	0	0	0
17. 教室内の学習環境は、適切に保たれていた。	1	10	0	0	0
18. 今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	4	6	1	0	0
19. 同僚や部下に推薦できるような授業内容であった。	3	8	0	0	0
20. 反転授業を受けて、成果や問題点だと思えることは何ですか。具体的に記入してください。	<p>考え方や習慣などを「文化の島」というイメージ図を使用していたので、非常にわかりやすかったです。(受講者2)</p> <p>あまりに前過ぎて内容をあまり覚えていません。事前課題については、日常生活と文化を区分し考えさせられ、授業を受けるにあたり役に立ちました。(受講者12)</p> <p>カリキュラム序盤の授業でしたので、反転授業を受けて心の準備ができたことはとてもよかったです。(受講者15)</p>				
21. この授業科目で学んだ事は、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。	<p>私の勤めている会社は、日本・中国・タイに拠点があります。今までは日本の観点で各拠点のスタッフと仕事をしてきました。その際、時間に対する価値観の相違を特に感じました。今後は相手国の文化・価値観・宗教観にもう少し踏み込んで理解をすれば、仕事の効率アップにつながると感じました。(受講者6)</p> <p>異文化圏の人々と商談を行う機会が多いので、よく復習して、コミュニケーションの重要性を再認識し、丁寧なコミュニケーションを心がけたい。(受講者9)</p>				
22. 今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。	<p>授業で学んだ事が正しいことなのか、実践で試してみたいです。国ごとで文化レベルも違えば、習慣も違うので、アジアだけでなく子会社のあるメキシコに関しても勉強したいと思います。(受講者2)</p> <p>異文化コミュニケーションにおけるサクセス事例(こうやったらうまくいったという事例)(受講者5)</p> <p>企業文化の形成とその変革について学んでみたいと思います。(受講者14)</p>				
*自由記述から読み取った、受講生からのニーズ					
①企業文化の形成とその変革 ②企業文化とマーケティング戦略との連動					
③ビジネスシーンでの失敗談 ④異文化コミュニケーションにおける成功例と失敗例					

授業科目名	経営戦略				
担当教員名	吉田史朗				
受講者数	16名	回答者数	12名		
設問項目	①強く そう思う	②そう思う	③どちらとも いえない	④そう 思わない	⑤全くそう 思わない
1. 授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	0	2	7	3	0
2. 授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	0	6	5	1	0
3. 授業の前にe-Learningによる事前配信ビデオ(以下、反転授業)を視聴した。 ①四回以上視聴した②二、三回視聴した③一回視聴した④部分的に視聴した⑤全く視聴していない	1	2	9	0	0
4. 反転授業を視聴した人は1、視聴していない人はその理由を2~5より選んでください。 ①視聴した②機器をうまく利用できなかった③時間がなかった④必要性を感じなかった⑤その他	12	0	0	0	0
5. 反転授業で出された事前課題に取り組んだ。	2	6	4	0	0
6. 反転授業は学習の理解を深めるのに役立つ。	1	9	2	0	0
7. 授業によく出席していた。	5	2	3	2	0
8. 授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	5	5	1	1	0
9. 授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	3	6	3	0	0
10. 授業の中で、他の受講生との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	3	7	2	0	0
11. 毎回の授業のテーマは、明確に示されていた。	4	7	0	1	0
12. 教材の使い方は適切であった。	3	8	0	1	0
13. 教員の話し方は、明確で理解しやすかった。	4	7	1	0	0
14. 教員は受講生の反応を確かめながら授業を進めていた。	0	10	2	0	0
15. 授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	4	6	2	0	0
16. 授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	3	6	2	1	0
17. 教室内の学習環境は、適切に保たれていた。	2	10	0	0	0
18. 今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	5	6	1	0	0
19. 同僚や部下に推薦できるような授業内容であった。	2	8	1	1	0
<b>20. 反転授業を受けて、成果や問題点だと思ふことは何ですか。具体的に記入してください。</b>					
経営についての基礎知識や考え方など事前に学習できた事。(受講者2)					
ディスカッションテーマを事前にインプットし、多少なりとも考える事が出来たこと(受講者5)					
文字が小さく情報量が多かったので見づらいスライドがあった。(受講者12)					
<b>21. この授業科目で学んだ事は、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。</b>					
戦略を立てて、日々の業務を進めていくことが大切であることを、改めて感じる事ができた。自分たちの世代にて、今回の想いをシェアしておく必要があると感じた。(受講者8)					
経営戦略上、海外に進出すべきかどうかを判断する方法や有意性について考える物差しを得ることができた。(受講者9)					
今自分たちが行っているような分析は戦略として不十分なことが分かった。企業としての強みや付加価値を認識することが成長に繋がることが分かった。ただ、どのようなものが戦略でどう構築していくものが具体例が分かり難かった。(受講者12)					
<b>22. 今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。</b>					
色々な事例を交えて講義して頂いたので、自社はどのようなビジョンがあり、そのための計画を再確認し、目的と目標の設定がどうなっているのかを確認してみたいです。(受講者2)					
具体的に進める上での問題点や失敗事例。(受講者8)					
海外進出で成功している企業の経営戦略において、特に共通している部分などがあれば、その部分について学びたいと思います。(受講者14)					
<b>*自由記述から読み取った、受講生からのニーズ</b>					
①経営戦略を考える際のステップ ②成長戦略と競争戦略の具体的な成功事例と失敗事例					
③戦略を身近なツールとして感じる可能性 ④自社に取り入れ活用する可能性の探求					



授業科目名	マーケティング戦略				
担当教員名	嶋えりか				
受講者数	16名	回答者数	12名		
設問項目	① 強く そう思う	② そう 思う	③ どちらとも いえない	④ そう 思わない	⑤ 全くそう 思わない
1. 授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	0	8	3	1	0
2. 授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	0	6	5	1	0
3. 授業の前にe-Learningによる事前配信ビデオ(以下、反転授業)を視聴した。 ①四回以上視聴した②二、三回視聴した③一回視聴した④部分的に視聴した⑤全く視聴していない	0	3	9	0	0
4. 反転授業を視聴した人は1、視聴していない人はその理由を2~5より選んでください。 ①視聴した②機器をうまく利用できなかった③時間がなかった④必要性を感じなかった⑤その他	12	0	0	0	0
5. 反転授業で出された事前課題に取り組んだ。	1	5	6	0	0
6. 反転授業は学習の理解を深めるのに役立つ。	1	10	1	0	0
7. 授業によく出席していた。	5	3	2	2	0
8. 授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	4	8	0	0	0
9. 授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	1	9	2	0	0
10. 授業の中で、他の受講生との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	5	7	0	0	0
11. 毎回の授業のテーマは、明確に示されていた。	1	11	0	0	0
12. 教材の使い方は適切であった。	2	9	1	0	0
13. 教員の話し方は、明確で理解しやすかった。	2	10	0	0	0
14. 教員は受講生の反応を確かめながら授業を進めていた。	1	9	2	0	0
15. 授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	0	11	1	0	0
16. 授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	0	12	0	0	0
17. 教室内の学習環境は、適切に保たれていた。	1	11	0	0	0
18. 今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	2	9	1	0	0
19. 同僚や部下に推薦できるような授業内容であった。	0	12	0	0	0
20. 反転授業を受けて、成果や問題点だと思ふことは何ですか。具体的に記入してください。	「デザイン思考」という技法を知れてよかったです。反転授業はBtoC ビジネスを基本とした内容で、私の会社はBtoBなので、若干の違和感を感じました。(受講者6)				
	授業に出てくるワードを予習するのに役立つ (受講者10)				
	マーケティングとは何か、戦略とは何かが分かり易く説明されていた。問題点は特になかった。楽しそうな授業だなという印象を持った。(受講者12)				
21. この授業科目で学んだ事は、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。	現在の自分の立場や、会社の状況などを分析したり、今後の方針や考え方について、視野が広がったと思います。実践で利用したいと考えます。(受講者2)				
	海外事業の戦略を立案するにあたり、Who,What などのマーケティング・フレームワークが考えるべき要素になると思う。(受講者5)				
	マーケティング・フレームワークはすごく難しかった。BtoB(弊社)とBtoC(講義)で考え方は違うものの、「WHO」の「インサイトを突くとお客様の感情や意識は大きく動く」という内容や、「WHAT」のポジショニング事例は、今後の考え方に活けると思いました。(受講者6)				
22. 今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。	自社における戦略について、授業で学んだ方法を使い、分析してみたいです。(受講者2)				
	戦略を実行した場合の成功・失敗事例 (受講者8)				
	様々なケーススタディを通じて実戦感覚を積み上げたい。(受講者10)				
	*自由記述から読み取った、受講生からのニーズ				
	①自社における戦略の分析 ②マーケティングにおける他社の成功事例と失敗事例 ③BtoB ビジネスでのマーケティング戦略 ④システム思考についての理解				

授業科目名	組織・運営戦略				
担当教員名	屋代徳文				
受講者数	15名	回答者数	12名		
設問項目	① 強く 思う	② そう 思う	③ どちら とも い えない	④ そう 思 わ な い	⑤ 全 く そ う 思 わ な い
1. 授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	0	4	3	5	0
2. 授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	0	7	3	2	0
3. 授業の前にe-Learningによる事前配信ビデオ(以下、反転授業)を視聴した。 ①四回以上視聴した②二、三回視聴した③一回視聴した④部分的に視聴した⑤全く視聴していない	0	3	8	1	0
4. 反転授業を視聴した人は1、視聴していない人はその理由を2~5より選んでください。 ①視聴した②機器をうまく利用できなかった③時間がなかった④必要性を感じなかった⑤その他	12	0	0	0	0
5. 反転授業で出された事前課題に取り組んだ。	2	9	0	1	0
6. 反転授業は学習の理解を深めるのに役立つ。	1	9	2	0	0
7. 授業によく出席していた。	4	4	4	0	0
8. 授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	2	8	1	1	0
9. 授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	2	6	4	0	0
10. 授業の中で、他の受講生との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	1	8	2	1	0
11. 毎回の授業のテーマは、明確に示されていた。	2	9	1	0	0
12. 教材の使い方は適切であった。	1	10	1	0	0
13. 教員の話し方は、明確で理解しやすかった。	2	10	0	0	0
14. 教員は受講生の反応を確かめながら授業を進めていた。	2	10	0	0	0
15. 授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	3	8	0	1	0
16. 授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	0	11	1	0	0
17. 教室内の学習環境は、適切に保たれていた。	0	11	1	0	0
18. 今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	1	10	1	0	0
19. 同僚や部下に推薦できるような授業内容であった。	1	10	1	0	0
20. 反転授業を受けて、成果や問題点だと思ふことは何ですか。具体的に記入してください。	コンサルティングをされているだけあって、目的や到達目標が非常に明確であった事。(受講者2)				
	組織の基本要素や原則、またそれぞれの組織がもつ特徴やデメリットを教えてもらい、あらかじめ自社がどれに当てはまるのか、どのような仕組みになっているのかを見直したうえで授業に臨めたので良かった。(受講者12)				
21. この授業科目で学んだ事は、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。	組織の原則や構造などを理解することができ、部下との接し方、指示の出し方にも注意を払う気配りをしようと考えています。(受講者2)				
	組織を編成するだけでなく、その組織の機能力を高めることの重要性を学んだと思います。弊社はOJT>Off-JTの傾向が強いこともあり、現在の職場でのマネージャークラスのスタッフには、是非受講して頂きたいと感じました。講義の中で、先生の脱線した話(実際の経験談)は、とても興味が引かれる、面白い話だと思いました。(受講者6)				
	組織を編成する部署には所属していないが、自分自身の会社がどのような意図をもって組織を編成しているのか、考えるようになった。(受講者11)				
22. 今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。	様々な具体的な例をもっと聞きたかったです。(受講者7)				
	実際に様々な組織上の問題に触れながら、一方では今回学んだ内容を反芻し、OJTを重ねたい。(受講者9)				
	ケーススタディを通じて、企業の組織運営を研究したい(受講者10)				
*自由記述から読み取った、受講生からのニーズ	①組織の原則や構造の理解 ②組織の機能やそれに応じた編成の考え方 ③組織運営のケーススタディ ④自社の組織を見直す際に役立つ理論的枠組み				

授業科目名	子会社経営で直面する課題(ケーススタディ)				
担当教員名	仲本利明				
受講者数	14名	回答者数	11名		
設問項目	① 強く そう思う	② そう思う	③ どちらとも いえない	④ そう 思わない	⑤ 全くそう 思わない
1. 授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	0	5	3	2	1
2. 授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	1	4	5	1	0
3. 授業の前にe-Learningによる事前配信ビデオ(以下、反転授業)を視聴した。 ①四回以上視聴した②二、三回視聴した③一回視聴した④部分的に視聴した⑤全く視聴していない	0	1	10	0	0
4. 反転授業を視聴した人は1、視聴していない人はその理由を2~5より選んでください。 ①視聴した②機器をうまく利用できなかった③時間がなかった④必要性を感じなかった⑤その他	11	0	0	0	0
5. 反転授業で出された事前課題に取り組んだ。	1	9	1	0	0
6. 反転授業は学習の理解を深めるのに役立つ。	0	10	1	0	0
7. 授業によく出席していた。	5	4	2	0	0
8. 授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	3	6	2	0	0
9. 授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	0	8	3	0	0
10. 授業の中で、他の受講生との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	3	8	0	0	0
11. 毎回の授業のテーマは、明確に示されていた。	2	9	0	0	0
12. 教材の使い方は適切であった。	1	9	1	0	0
13. 教員の話し方は、明確で理解しやすかった。	3	8	0	0	0
14. 教員は受講生の反応を確かめながら授業を進めていた。	1	10	0	0	0
15. 授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	2	8	1	0	0
16. 授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	1	10	0	0	0
17. 教室内の学習環境は、適切に保たれていた。	1	10	0	0	0
18. 今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	3	8	0	0	0
19. 同僚や部下に推薦できるような授業内容であった。	2	8	1	0	0
20. 反転授業を受けて、成果や問題点だと思ふことは何ですか。具体的に記入してください。	反転授業で、子会社経営で直面する大小の課題や要因を紹介されていて、実際の講義に興味を持って参加出来ました。(受講者6)				
	事前に授業内容を把握できてよかったです。(受講者7)				
	自分の経験を元に事前に海外子会社経営におけるトラブル事例を上げて考える事で、授業の前に海外子会社経営であり得る課題について考えを深める事ができた。(受講者9)				
21. この授業科目で学んだ事は、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。	問題解決においてスピードを意識する必要がある点 (受講者5)				
	日々社会情勢や会社の状況は変わるので、トラブルにあたってはその場その場で出来る限り多くの情報を得、また人の話を聞いて問題対処にあたる事の重要性を認識した。(受講者9)				
	各種リスクへの対応方法について、自身の経験だけでは限界があるが、他の方々の意見を聞くことで視点強化につながった (受講者10)				
22. 今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。	やはり実際に起きた課題に対するケーススタディは、もっと知りたいと思います。課題も10個あれば10通りの解決策があり、決して同じ解決策は無いと思うので、将来直面してしまう課題に対し、多数の解決策が思いつくぐらい、ケーススタディを勉強したいと感じました。(受講者6)				
	もっと多くの事例に触れる事で、自分の発想力や対策立案能力を高めていきたい。(受講者9)				
	実際の企業事例を考察したい (受講者10)				
	*自由記述から読み取った、受講生からのニーズ				
	①事例に基づいた問題解決ケーススタディ ②問題解決における対案発想力向上				
	③問題解決に繋がる新しい視点の獲得 ④他の受講生との意見交流				

授業科目名	ASEAN 経済				
担当教員名	後藤健太				
受講者数	15名	回答者数	11名		
設問項目	① 強く そう思う	② そう思う	③ どちらとも いえない	④ そう 思わない	⑤ 全くそう 思わない
1. 授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	1	1	1	5	3
2. 授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	0	6	2	2	1
3. 授業の前にe-Learningによる事前配信ビデオ(以下、反転授業)を視聴した。 ①四回以上視聴した②二、三回視聴した③一回視聴した④部分的に視聴した⑤全く視聴していない	0	6	5	0	0
4. 反転授業を視聴した人は1、視聴していない人はその理由を2~5より選んでください。 ①視聴した②機器をうまく利用できなかった③時間がなかった④必要性を感じなかった⑤その他	11	0	0	0	0
5. 反転授業で出された事前課題に取り組んだ。	7	4	0	0	0
6. 反転授業は学習の理解を深めるのに役立った。	4	7	0	0	0
7. 授業によく出席していた。	7	3	1	0	0
8. 授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	5	6	0	0	0
9. 授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	2	9	0	0	0
10. 授業の中で、他の受講生との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	6	5	0	0	0
11. 毎回の授業のテーマは、明確に示されていた。	6	4	1	0	0
12. 教材の使い方は適切であった。	1	9	1	0	0
13. 教員の話し方は、明確で理解しやすかった。	7	3	1	0	0
14. 教員は受講生の反応を確かめながら授業を進めていた。	3	8	0	0	0
15. 授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	4	4	3	0	0
16. 授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	2	8	1	0	0
17. 教室内の学習環境は、適切に保たれていた。	4	6	1	0	0
18. 今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	5	6	0	0	0
19. 同僚や部下に推薦できるような授業内容であった。	3	7	1	0	0
20. 反転授業を受けて、成果や問題点だと思ふことは何ですか。具体的に記入してください。	事前に予習が必要な内容や事前課題への取り組み方が提示されているので、授業へも入りやすかったし、事前課題の取り組みにも役立った。(受講者9)				
	反転授業であらかじめ言葉のインプットができたおかげで、授業の内容はある程度理解できた。少々内容が縫製産業に特化した部分もあったが、自社と異なるケースも知ることで有意義だった。(受講者10)				
	これまで経済を学んだことが全くなかったので、授業を受ける前に概略のお話が聞けて心の準備ができたと思います。(受講者15)				
21. この授業科目で学んだ事は、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。	役立つというより、改めて海外に機能を移管する必要性を認識出来た。(受講者5)				
	講義を受けていた各社様がなぜ海外移転をしたのかを聴くことが出来、現在の自社と照らし合わせて考えると、やはり各社様しっかりと各拠点のプロセスを理解しお付き合いされていることが分かりました。日本と海外、各々の強みと弱みを理解し、プロセス・製品・品質面で今の業務で海外移転しているものが本当に適切なのかを、改めて見直す必要があると思いました。(受講者6)				
	経理という立場からどう生かしていけばよいのかはわかりません。それがこれからの課題にはなると思います。しかし今回の授業はASEANで仕事をする上で知っておかなければならない内容だとは感じました。(受講者12)				
22. 今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。	機能移管して発展を遂げた他社事例を学びたい。(受講者5)				
	まずは自社拠点がある国に関する高度化戦略を考えていきたい。(受講者10)				
	現地法人の高度化について、もう少し考えてみたいと思いました。(受講者11)				
*自由記述から読み取った、受講生からのニーズ					
①機能移管して発展を遂げた他社事例 ②自社拠点がある国に関する高度化戦略 ③自社が進出する国の経済動向と特性の比較 ④ASEAN各国それぞれの特徴・優位性・今後の方向性					



授業科目名	日本的経営思想				
担当教員名	田中一弘				
受講者数	11名	回答者数	9名		
設問項目	①強く そう思う	②そう 思う	③どちら も いえない	④そう 思わない	⑤全く 思 わ な い
1. 授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	0	2	4	3	0
2. 授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	4	4	1	0	0
3. 授業の前にe-Learningによる事前配信ビデオ(以下、反転授業)を視聴した。 ①四回以上視聴した②二、三回視聴した③一回視聴した④部分的に視聴した⑤全く視聴していない	1	5	3	0	0
4. 反転授業を視聴した人は1、視聴していない人はその理由を2~5より選んでください。 ①視聴した②機器をうまく利用できなかった③時間がなかった④必要性を感じなかった⑤その他	9	0	0	0	0
5. 反転授業で出された事前課題に取り組んだ。	8	1	0	0	0
6. 反転授業は学習の理解を深めるのに役立った。	5	4	0	0	0
7. 授業によく出席していた。	6	1	1	1	0
8. 授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	4	5	0	0	0
9. 授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	2	5	2	0	0
10. 授業の中で、他の受講生との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	4	4	1	0	0
11. 毎回の授業のテーマは、明確に示されていた。	4	4	1	0	0
12. 教材の使い方は適切であった。	3	6	0	0	0
13. 教員の話し方は、明確で理解しやすかった。	4	5	0	0	0
14. 教員は受講生の反応を確かめながら授業を進めていた。	2	7	0	0	0
15. 授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	4	3	2	0	0
16. 授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	3	5	1	0	0
17. 教室内の学習環境は、適切に保たれていた。	3	6	0	0	0
18. 今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	3	5	1	0	0
19. 同僚や部下に推薦できるような授業内容であった。	4	3	2	0	0
20. 反転授業を受けて、成果や問題点だと思ふことは何ですか。具体的に記入してください。	良心(与える良心・応える良心・求める良心)と哀歎(利他の哀歎・実践の哀歎・創造の哀歎)の関係性を事前に整理でき、グループディスカッション時に混乱しなかった。(受講者5)				
	繰り返し視聴できることで、知識定着につながったと感じる(受講者10)				
	授業を受ける上での予備知識として役にたった。企業統治とコーポレートガバナンスの差を具体的な例を用いて学べた。量は多いが全部読んだ方が理解できたと思う。(受講者12)				
21. この授業科目で学んだ事は、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。	営業なので、売上げや価格を重要視してしまいがちですが、広い心をもって、従業員・家族の幸せや、社会貢献をする事が、いずれは自分自身の成長に繋がると信じ、視野を広げて物事を判断できるようになりたいと考えます。(受講者2)				
	良心による経営という、自分では持っていなかった考え方を得られ、仕事や部下の指導に対するモチベーションを上げることができた。(受講者9)				
	企業の経営者としてだけでなく組織のリーダーとして、自分の価値観の置き方や組織風土の構築に新たな指針となる考え方を学べました。(受講者14)				
22. 今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。	考え方や物事の捉え方など、著名人の書かれた本を読もうと思います。(稲盛和夫等)(受講者2)				
	日本的経営思想を経営者だけでなく、その所属する組織全体の企業風土とする方法の成功事例や具体的な取り組み等について学んでみたいと思います。(受講者14)				
	次のステップとしては、渋谷先生が実際にどのような事業をどのように進めていかれたのかの具体例を知りたいと思います。(受講者15)				
*自由記述から読み取った、受講生からのニーズ	①社員に良心を持ってもらうための効果的なアプローチ ②自社の社員に展開するための方策の検討 ③渋谷氏の事業展開の具体例 ④日本のコーポレートガバナンスの答えの導き方				

授業科目名	ASEAN 法律制度				
担当教員名	西澤希久男				
受講者数	16名	回答者数	12名		
設問項目	① 強く 思う	② そう 思う	③ どちらとも いえない	④ そう 思わない	⑤ 全くそう 思わない
1. 授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	0	2	5	1	4
2. 授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	0	6	5	1	0
3. 授業の前にe-Learningによる事前配信ビデオ(以下、反転授業)を視聴した。 ①四回以上視聴した②二、三回視聴した③一回視聴した④部分的に視聴した⑤全く視聴していない	0	6	6	0	0
4. 反転授業を視聴した人は1、視聴していない人はその理由を2~5より選んでください。 ①視聴した②機器をうまく利用できなかった③時間がなかった④必要性を感じなかった⑤その他	12	0	0	0	0
5. 反転授業で出された事前課題に取り組んだ。	3	9	0	0	0
6. 反転授業は学習の理解を深めるのに役立った。	0	12	0	0	0
7. 授業によく出席していた。	8	3	1	0	0
8. 授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	3	6	3	0	0
9. 授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	1	7	3	1	0
10. 授業の中で、他の受講生との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	4	7	1	0	0
11. 毎回の授業のテーマは、明確に示されていた。	0	11	1	0	0
12. 教材の使い方は適切であった。	0	11	1	0	0
13. 教員の話し方は、明確で理解しやすかった。	3	9	0	0	0
14. 教員は受講生の反応を確かめながら授業を進めていた。	1	10	1	0	0
15. 授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	0	9	3	0	0
16. 授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	0	10	2	0	0
17. 教室内の学習環境は、適切に保たれていた。	1	11	0	0	0
18. 今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	1	9	2	0	0
19. 同僚や部下に推薦できるような授業内容であった。	0	8	4	0	0
20. 反転授業を受けて、成果や問題点だと思ふことは何ですか。具体的に記入してください。	予備知識がない内容だったため、基本的なことについても参考になった。事前課題に取り組む際にも、海外赴任の経験がないため法的紛争の内容を海外の責任者や、海外赴任経験のある人にインタビューを行ったが、自社の様々な事例を知ることができて良かった。(受講者 12)				
	世界的に労働者や消費者の権利保護への関心・対策への取り組みが日本で思っている以上に進んでいることが理解できた。また、ASEAN 諸国でもその流れは同様であり、同地域に進出するにあたっては、軽視できない問題であることも認識できた。(受講者 14)				
21. この授業科目で学んだ事は、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。	現在の仕事で直接的な関わりはまだ見つけられていない。ただし、仲介や訴訟までいなくても、日常業務上、多くの紛争が発生している事に改めて気付けたことはよかったと思う。(受講者 5)				
	お取引先中小企業の海外進出支援にあたって、有益なアドバイスができることにつながると思います。(受講者 14)				
	紛争の解決法についての学びが役に立つと思います。通常の業務の中で、知らず知らずのうちに紛争解決ができていたのだという点が面白く感じました。(受講者 15)				
22. 今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。	紛争を未然に防ぐ手段について効果的な手法。(受講者 5)				
	当社が進出している国の法律制度を知っておかなければ、ビジネスができないと感じた。(受講者 11)				
	授業でも説明のあったように ASEAN 各国の法律制度を理解することは不可能なので、現在日系企業が直面している法律問題や今後問題になるであろう法律の改正等について、その概要だけでも理解できるように情報へのアンテナを高くしたいと思います。(受講者 14)				
	<b>*自由記述から読み取った、受講生からのニーズ</b>				
	①紛争を未然に防ぐ効果的な手法 ②タイ以外の海外の事例 ③進出している国の法律制度とその裏側 ④国により異なる法律的な考え方				

授業科目名	管理会計入門				
担当教員名	大西靖				
受講者数	16名		回答者数	12名	
設問項目	① 強く そう思う	② そう 思う	③ ど ちらとも いえない	④ そう 思わない	⑤ 全く 思わない
1. 授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	3	2	4	0	3
2. 授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	0	3	3	4	2
3. 授業の前にe-Learningによる事前配信ビデオ(以下、反転授業)を視聴した。 ①四回以上視聴した②二、三回視聴した③一回視聴した④部分的に視聴した⑤全く視聴していない	0	5	7	0	0
4. 反転授業を視聴した人は1、視聴していない人はその理由を2~5より選んでください。 ①視聴した②機器をうまく利用できなかった③時間がなかった④必要性を感じなかった⑤その他	12	0	0	0	0
5. 反転授業で出された事前課題に取り組んだ。	6	4	1	1	0
6. 反転授業は学習の理解を深めるのに役立った。	2	8	2	0	0
7. 授業によく出席していた。	7	3	1	1	0
8. 授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	1	6	5	0	0
9. 授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	3	5	3	0	1
10. 授業の中で、他の受講生との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	1	3	6	2	0
11. 毎回の授業のテーマは、明確に示されていた。	1	7	2	2	0
12. 教材の使い方は適切であった。	1	7	4	0	0
13. 教員の話し方は、明確で理解しやすかった。	0	6	3	3	0
14. 教員は受講生の反応を確かめながら授業を進めていた。	1	6	4	1	0
15. 授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	0	7	4	1	0
16. 授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	0	3	5	2	2
17. 教室内の学習環境は、適切に保たれていた。	2	9	1	0	0
18. 今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	1	6	5	0	0
19. 同僚や部下に推薦できるような授業内容であった。	0	4	6	2	0
<b>20. 反転授業を受けて、成果や問題点だと思ふことは何ですか。具体的に記入してください。</b>					
反転授業を受けるまでは「会計＝計算」という認識しかありませんでした。反転授業を受け、「会計＝管理」ということを知り、これまでの浅はかな理解を深めることができてよかったです。(受講者6)					
事前学習でできましたが、会計知識が殆どないので、十分理解できませんでした。できれば、もうちょっと簡単なものから入口にしたほうが良いのではないかと思います。(受講者7)					
大学でやって以来触れていなかった分野だったため、とても戸惑った。(受講者13)					
<b>21. この授業科目で学んだ事は、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。</b>					
利益を創出する為の費用の要素・考え方として、変動費・固定費という分け方がある事は役に立つと思う。(受講者5)					
海外子会社の立ち上げに携わってきましたので、会計知識がないと非常に苦労していました。今回の授業を通して今後の仕事に活かしたい。(受講者7)					
予算と実績の分析について、違う角度でアプローチできそうな気がします(受講者11)					
<b>22. 今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。</b>					
今回の内容を反復学習して、頭の中にしっかり残したいです。(受講者5)					
私は工業簿記を取得しておりません。ですので反転授業では頭が爆発しそうでした。今まではただの会計でした。今後は管理会計の重要性をさらに理解するために、工業簿記を取得してみようかと思いました。(受講者6)					
陥りやすい管理ミスの事例を、より多く聞きたい。(受講者8)					
<b>*自由記述から読み取った、受講生からのニーズ</b>					
①海外で活用する際の実践的ポイント ②管理会計の重要性のさらなる理解 ③原価計算方法や発注予想の仕方 ④会計的な側面から会社を俯瞰する知識					

授業科目名	ASEAN 発展論				
担当教員名	北波道子				
受講者数	15名	回答者数	12名		
設問項目	① 強く そう思う	② そう 思う	③ どちら も いえない	④ そう 思わない	⑤ 全く そう 思わない
1. 授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	0	3	5	3	1
2. 授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	0	8	4	0	0
3. 授業の前にe-Learningによる事前配信ビデオ(以下、反転授業)を視聴した。 ①四回以上視聴した②二、三回視聴した③一回視聴した④部分的に視聴した⑤全く視聴していない	0	6	6	0	0
4. 反転授業を視聴した人は1、視聴していない人はその理由を2~5より選んでください。 ①視聴した②機器をうまく利用できなかった③時間がなかった④必要性を感じなかった⑤その他	12	0	0	0	0
5. 反転授業で出された事前課題に取り組んだ。	3	8	1	0	0
6. 反転授業は学習の理解を深めるのに役立った。	2	9	1	0	0
7. 授業によく出席していた。	6	5	1	0	0
8. 授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	3	7	2	0	0
9. 授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	1	5	5	1	0
10. 授業の中で、他の受講生との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	2	6	4	0	0
11. 毎回の授業のテーマは、明確に示されていた。	0	9	2	1	0
12. 教材の使い方は適切であった。	1	10	1	0	0
13. 教員の話し方は、明確で理解しやすかった。	3	7	2	0	0
14. 教員は受講生の反応を確かめながら授業を進めていた。	2	10	0	0	0
15. 授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	2	8	2	0	0
16. 授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	2	8	2	0	0
17. 教室内の学習環境は、適切に保たれていた。	2	10	0	0	0
18. 今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	2	8	2	0	0
19. 同僚や部下に推薦できるような授業内容であった。	1	7	3	1	0
20. 反転授業を受けて、成果や問題点だと思ふことは何ですか。具体的に記入してください。	事前課題を行う事で、経済発展とはどういう事なのか、という根本的な事項について考える事が出来た。(受講者5)				
	先生の経歴が分かり、どのような視点で説明されているのかを感じることができた。(受講者8)				
	経済発展とは何か等これまで気にして考えたことのない問題を提起され、改めて考えてみるのがとても興味深かったです。(受講者15)				
21. この授業科目で学んだ事は、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。	海外子会社における今後の課題など、答えはでていませんが、考える機会ができた事。(受講者2)				
	ASEANの発展については、現在は世界経済にとって大きな市場にまで成長してきましたが、このままではいずれ衰退の道を歩むのではないかと心配になりました。今後も増々発展する(自社も含めて)には何をすべきかを考える必要性を感じました。先進国として新しいイノベーションを見つけないと未来はないと思います。それらを考えることに役立つと思いました。(受講者6)				
	正直、現在及びこれからの海外赴任に向けた業務への活用につながりにくい印象(受講者10)				
22. 今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。	日本だけに限らず、会社・社内でのイノベーションについて学びたいと思います。(受講者2)				
	アジア以外の地域の経済発展のパターン。(受講者5)				
	進出する国がどういう歴史で今に至っているのかを勉強しようと思う。(受講者13)				
	*自由記述から読み取った、受講生からのニーズ				
	①会社・社内でのイノベーションについて ②ASEAN各国の今後の経済の方向性と日本企業の関わり方 ③海外現場の情報や人脈を知るツール ④進出する国の抱える問題点とその背景				



授業科目名	企業会計入門				
担当教員名	富田知嗣				
受講者数	15名	回答者数	11名		
設問項目	① 強く 思う	② そう 思う	③ どちらとも いえない	④ そう 思わない	⑤ 全く 思わない
1. 授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	3	2	2	2	2
2. 授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	1	6	3	1	0
3. 授業の前にe-Learningによる事前配信ビデオ(以下、反転授業)を視聴した。 ①四回以上視聴した②二、三回視聴した③一回視聴した④部分的に視聴した⑤全く視聴していない	1	3	7	0	0
4. 反転授業を視聴した人は1、視聴していない人はその理由を2~5より選んでください。 ①視聴した②機器をうまく利用できなかった③時間がなかった④必要性を感じなかった⑤その他	11	0	0	0	0
5. 反転授業で出された事前課題に取り組んだ。	3	8	0	0	0
6. 反転授業は学習の理解を深めるのに役立った。	3	7	1	0	0
7. 授業によく出席していた。	6	4	1	0	0
8. 授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	3	8	0	0	0
9. 授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	3	4	3	1	0
10. 授業の中で、他の受講生との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	1	9	1	0	0
11. 毎回の授業のテーマは、明確に示されていた。	3	8	0	0	0
12. 教材の使い方は適切であった。	3	7	1	0	0
13. 教員の話し方は、明確で理解しやすかった。	4	6	1	0	0
14. 教員は受講生の反応を確かめながら授業を進めていた。	4	7	0	0	0
15. 授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	1	6	4	0	0
16. 授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	1	8	1	1	0
17. 教室内の学習環境は、適切に保たれていた。	3	8	0	0	0
18. 今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	3	6	2	0	0
19. 同僚や部下に推薦できるような授業内容であった。	2	7	2	0	0
<b>20. 反転授業を受けて、成果や問題点だと思ふことは何ですか。具体的に記入してください。</b>					
事前に「管理会計入門」を受講していたこともあり、取り組み易かった。初めて聞く単語が多かったのですが、分かりやすいスライドだったので、何とか理解出来た。2つの利益観については反転授業内ではよく分からなかったが、授業で例を挙げて説明して頂いたので、理解出来た。(受講者6)					
事前のインプットとしては少々ボリュームがあり頭に入りきらなかったが、要点を把握することができたため授業には入りやすかった。(受講者10)					
単純な会計入門の話だけでなく、会計とはなぜ必要なのかという視点から話されていた内容などが興味深かった。(受講者12)					
<b>21. この授業科目で学んだ事は、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。</b>					
自社や関連がある他社の決算書を読む際、どの会計基準を採用しているのかにアンテナが向く点は役に立つと思う。(受講者5)					
自社の財務諸表は準備出来ずに授業に参加しましたので、インターネットからダウンロードした他社の財務諸表で授業に臨みました。今後は、自社の財務諸表を見せてもらい、自社の財務諸表から色々な数字を知りたいと思いました。特に回転期間の数字を算出して、日々の業務の中で意識して取り組みたいと思います。あと、競合他社様の財務諸表と比較してみたいと思います。(受講者6)					
経理の仕事に従事しているので、普段は取り扱わない内容だったので、知識の幅が広がった。(受講者11)					
<b>22. 今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。</b>					
会計基準は、日々、移り変わっていると思うので、直近で変更された会計基準の具体的内容を学びたい。(受講者5)					
まだまだ理解が難しい点が多々ありますので、財務諸表の作り方をもう少し勉強したいです。(受講者6)					
IFRSのことを勉強したい。(受講者11)					
<b>*自由記述から読み取った、受講生からのニーズ</b>					
①財務諸表についての読み取り方や作り方 ②直近で変更された会計基準の具体的内容					
③IFRSについての理解 ④国際会計基準の中小企業での効果的な利用					

授業科目名	ASEANの華人ビジネス				
担当教員名	吉野文雄				
受講者数	16名	回答者数	12名		
設問項目	①強く そう思う	②そう 思う	③どちら もない	④そう 思わない	⑤全く 思わない
1. 授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	0	2	7	2	1
2. 授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	1	8	3	0	0
3. 授業の前にe-Learningによる事前配信ビデオ(以下、反転授業)を視聴した。 ①四回以上視聴した②二、三回視聴した③一回視聴した④部分的に視聴した⑤全く視聴していない	0	3	9	0	0
4. 反転授業を視聴した人は1、視聴していない人はその理由を2~5より選んでください。 ①視聴した②機器をうまく利用できなかった③時間がなかった④必要性を感じなかった⑤その他	12	0	0	0	0
5. 反転授業で出された事前課題に取り組んだ。	1	10	1	0	0
6. 反転授業は学習の理解を深めるのに役立つ。	1	10	1	0	0
7. 授業によく出席していた。	5	5	2	0	0
8. 授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	2	8	1	1	0
9. 授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	1	7	3	1	0
10. 授業の中で、他の受講生との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	1	6	5	0	0
11. 毎回の授業のテーマは、明確に示されていた。	0	6	5	1	0
12. 教材の使い方は適切であった。	1	7	4	0	0
13. 教員の話し方は、明確で理解しやすかった。	1	7	4	0	0
14. 教員は受講生の反応を確かめながら授業を進めていた。	0	9	3	0	0
15. 授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	2	7	2	1	0
16. 授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	0	9	2	1	0
17. 教室内の学習環境は、適切に保たれていた。	2	10	0	0	0
18. 今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	1	7	4	0	0
19. 同僚や部下に推薦できるような授業内容であった。	0	5	6	1	0
<b>20. 反転授業を受けて、成果や問題点だと思ふことは何ですか。具体的に記入してください。</b>					
華僑・華人について、身近な人を思い浮かべながら、特徴や性質を整理出来た事はよかったと思う。(受講者5)					
事前のインプットは有効だが、反転授業の内容と授業のつながりがイマイチな感じだった(受講者10)					
何をこれから学ぶのかを事前にイメージできた。(受講者13)					
<b>21. この授業科目で学んだ事は、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。</b>					
海外子会社のマネージャーや、ローカルスタッフとの接し方や、考え方を理解する事により、信頼関係を築くのに役立つと考えています。(受講者2)					
ASEAN 諸国における華人の役割について学べた事で、今後 ASEAN 諸国での人種や国籍などについて意識を持ったり考えたりする良いきっかけになったと思う。(受講者9)					
ASEAN で華人がどう関わり、どうビジネスを展開し、いかなるネットワークを駆使しているかを理解することにより ASEAN 進出の際身近な課題と捉えることができる。(受講者13)					
<b>22. 今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。</b>					
華人の部下を持った時の意識すべき事項を学びたい。(受講者5)					
中国が華人をどのように利用していくか、見聞をひろめていきたい(受講者11)					
華僑華人の人たちは経営者以外にも多くいらっしゃるの、そういう方々のことも学んでみたい。(受講者12)					
<b>*自由記述から読み取った、受講生からのニーズ</b>					
①ビジネスにおける華僑・華人の影響 ②華人の部下を持った時の意識すべき事項 ③華人の成功方法や考え方 ④華人のビジネスモデル					

授業科目名	会計情報の利用				
担当教員名	宗岡徹				
受講者数	15名	回答者数	12名		
設問項目	① 強く そう思う	② そう 思う	③ どちら も いえない	④ そう 思わない	⑤ 全く 思 わない
1. 授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	2	1	3	2	4
2. 授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	0	2	7	2	1
3. 授業の前にe-Learningによる事前配信ビデオ(以下、反転授業)を視聴した。 ①四回以上視聴した②二、三回視聴した③一回視聴した④部分的に視聴した⑤全く視聴していない	0	2	10	0	0
4. 反転授業を視聴した人は1、視聴していない人はその理由を2~5より選んでください。 ①視聴した②機器をうまく利用できなかった③時間がなかった④必要性を感じなかった⑤その他	12	0	0	0	0
5. 反転授業で出された事前課題に取り組んだ。	3	8	1	0	0
6. 反転授業は学習の理解を深めるのに役立った。	0	6	4	1	1
7. 授業によく出席していた。	5	5	2	0	0
8. 授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	1	5	5	1	0
9. 授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	1	7	3	0	1
10. 授業の中で、他の受講生との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	5	5	1	0	1
11. 毎回の授業のテーマは、明確に示されていた。	0	8	2	2	0
12. 教材の使い方は適切であった。	0	5	4	1	2
13. 教員の話し方は、明確で理解しやすかった。	0	6	4	2	0
14. 教員は受講生の反応を確かめながら授業を進めていた。	0	4	7	0	1
15. 授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	2	3	7	0	0
16. 授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	0	3	5	4	0
17. 教室内の学習環境は、適切に保たれていた。	0	12	0	0	0
18. 今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	2	5	4	1	0
19. 同僚や部下に推薦できるような授業内容であった。	1	4	5	1	1
<b>20. 反転授業を受けて、成果や問題点だと思ふことは何ですか。具体的に記入してください。</b>					
私は会計の知識が全然無く、業務でも携わっていないため、反転授業を受けても、事前課題の内容は、とても難しいものでした。もう少しでも難易度を落として頂けたら、理解が深まったかもしれません。(受講者6)					
事前内容について多少把握できたことはよいですが、普段会計について触ってないので難しかったです。(受講者7)					
<b>21. この授業科目で学んだ事は、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。</b>					
すべて理解する必要はありませんが、最低限の知識を持つ必要があると気付かされました。(受講者2)					
変化から数値を読み取る視点 (受講者5)					
今回の授業で学んだことは、会社の健康を読み解くために必要なスキルが身につく授業だと思います。しかし、今の自分の実力では、まずは簿記の基本を身につけることが先決だと感じました。(受講者6)					
<b>22. 今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。</b>					
最低限の知識を習得したい(原価計算、損益分析など)(受講者2)					
実際の会社での業務に応用し、OJTを重ねたい。(受講者9)					
現在の仕事に直結する分野ですので、今後も継続的に学び、財務情報からの読み取りスキルを向上させたいと思います。(受講者14)					
<b>*自由記述から読み取った、受講生からのニーズ</b>					
①会計の基本知識の獲得 ②OJTの実践、反復 ③数値から情報を読み取る能力の獲得・向上 ④会社の状況を考察し、問題解決につなげる力の向上					

授業科目名	グローバル経済				
担当教員名	宮本勝浩				
受講者数	15名	回答者数	10名		
設問項目	①強く そう思う	②そう思う	③どちらとも いえない	④そう 思わない	⑤全くそう 思わない
1. 授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	0	5	3	2	0
2. 授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	2	3	4	1	0
3. 授業の前にe-Learningによる事前配信ビデオ(以下、反転授業)を視聴した。 ①四回以上視聴した②二、三回視聴した③一回視聴した④部分的に視聴した⑤全く視聴していない	1	1	7	0	1
4. 反転授業を視聴した人は1、視聴していない人はその理由を2~5より選んでください。 ①視聴した②機器をうまく利用できなかった③時間がなかった④必要性を感じなかった⑤その他	9	0	1	0	0
5. 反転授業で出された事前課題に取り組んだ。	2	7	1	0	0
6. 反転授業は学習の理解を深めるのに役立つ。	1	7	2	0	0
7. 授業によく出席していた。	3	5	2	0	0
8. 授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	3	7	0	0	0
9. 授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	2	5	3	0	0
10. 授業の中で、他の受講生との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	1	8	1	0	0
11. 毎回の授業のテーマは、明確に示されていた。	2	7	1	0	0
12. 教材の使い方は適切であった。	1	7	2	0	0
13. 教員の話し方は、明確で理解しやすかった。	4	5	1	0	0
14. 教員は受講生の反応を確かめながら授業を進めていた。	2	7	0	1	0
15. 授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	1	7	2	0	0
16. 授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	1	8	1	0	0
17. 教室内の学習環境は、適切に保たれていた。	0	10	0	0	0
18. 今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	2	6	2	0	0
19. 同僚や部下に推薦できるような授業内容であった。	2	6	2	0	0
20. 反転授業を受けて、成果や問題点だと思ふことは何ですか。具体的に記入してください。	事前課題に取り組むことで、日本以外の地域の経済状況とその状態に至る要因について知ることが出来良かった。(受講者5)				
	アメリカ大統領選後の今回の講義、とても中身ある分かりやすい講義で良かったです。経済の変化を色々な側面で見ると重要さを知りました。(受講者6)				
	事前に講師の方がどのような方か、またどのような内容での講義を予定しているか、などが分かってスムーズに授業に入ることができた。(受講者14)				
21. この授業科目で学んだ事は、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。	世界情勢について、情報収集も重要であり、分野にとらわれず、目を、アンテナを張っておく必要性があります。(受講者2)				
	本の情報は古い。世界の経済状況はめまぐるしく変化している。常に新しい情報をフォローするように心がけよう。といわれ、そうしようと思いました。(受講者12)				
	もっと広い目で世界を見るべきだと認識しました。本で読む情報はもう遅いということも納得できました。一国だけでなく世界はいろいろな要因で繋がっているということが学べ、新聞を読む視野が広がった様に感じます。海外メンバーとの話の際も話題が深まると思っています。(受講者15)				
22. 今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。	現在の日本経済の成り立ちや、海外のニーズと戦略、またアメリカの今後についてこぼれ話のようなものも含めとても面白かったです。学びとは離れているかもしれませんが、欧州の選挙後やトランプ政権の動向について定期的に話を聞いてみたいです。(受講者12)				
	授業を受けて、アメリカのトランプ大統領の政策などに興味を持つようになり、新聞記事をスクラップしたり、書籍を読んだりするようになりました。今後も、継続して最新の情報を入手し、学び続けたいと思います。(受講者14)				
	世界の中で日本がどうあるべきかをもっと学びたいと思います。(受講者15)				
*自由記述から読み取った、受講生からのニーズ					
①最新の経済動向情報についての具体的なレクチャー ②自身の赴任先が世界の経済動向から受ける影響					
③経済動向についてのアカデミックな解説 ④定期的に経済動向について語り合う機会					



授業科目名	ASEANの地理・歴史				
担当教員名	野間晴雄				
受講者数	15名	回答者数	10名		
設問項目	① 強く そう思う	② そう思う	③ どちらとも いえない	④ そう 思わない	⑤ 全くそう 思わない
1. 授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	0	2	2	6	0
2. 授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	0	6	2	2	0
3. 授業の前にe-Learningによる事前配信ビデオ(以下、反転授業)を視聴した。 ①四回以上視聴した②二、三回視聴した③一回視聴した④部分的に視聴した⑤全く視聴していない	0	1	9	0	0
4. 反転授業を視聴した人は1、視聴していない人はその理由を2~5より選んでください。 ①視聴した②機器をうまく利用できなかった③時間がなかった④必要性を感じなかった⑤その他	10	0	0	0	0
5. 反転授業で出された事前課題に取り組んだ。	4	6	0	0	0
6. 反転授業は学習の理解を深めるのに役立った。	0	8	1	1	0
7. 授業によく出席していた。	3	4	3	0	0
8. 授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	2	6	2	0	0
9. 授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	0	5	5	0	0
10. 授業の中で、他の受講生との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	0	7	3	0	0
11. 毎回の授業のテーマは、明確に示されていた。	0	8	1	1	0
12. 教材の使い方は適切であった。	0	7	1	2	0
13. 教員の話し方は、明確で理解しやすかった。	0	7	1	2	0
14. 教員は受講生の反応を確かめながら授業を進めていた。	0	6	3	1	0
15. 授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	2	4	3	1	0
16. 授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	1	6	2	1	0
17. 教室内の学習環境は、適切に保たれていた。	0	10	0	0	0
18. 今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	2	5	3	0	0
19. 同僚や部下に推薦できるような授業内容であった。	0	6	2	2	0
<b>20. 反転授業を受けて、成果や問題点だと思ふことは何ですか。具体的に記入してください。</b>					
事前課題に取り組むことで、アジアの主要な河川や海について知ることが出来て、一般知識としてよかった。(受講者5)					
反転授業を受けて事前課題をしましたが、地図が好きな私には面白い課題でした。実際「ASEAN10 各国」と言葉では口にはしていますが、正直なところ、都市・河川・半島名など、知らなかった事ばかりで勉強が出来て良かったです。(受講者6)					
事前課題に取り組んだおかげで事前に基本的な知識を取り入れる事ができたので、授業中に先生が話されていることが理解しやすかった。(受講者9)					
<b>21. この授業科目で学んだ事は、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。</b>					
私の会社は中国とタイに拠点があり、タイの歴史に関しては知っていても損はないと思うので、良かったです。(受講者6)					
地理歴史は海外赴任の際は必須の知識であるということを改めて思い知った。赴任先は未定だが、事前に様々な国の歴史を調べていきたい。(受講者10)					
歴史については興味深い内容でしたが、なかなか仕事に活かすのは難しい内容です。目的であった、カルチャーギャップをなくすような内容などがあれば活かせるとおもいます。(受講者12)					
<b>22. 今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。</b>					
現在の ASEAN 諸国の主要な港と、その貿易商品や貿易相手国なども知れたら良いと感じました。(受講者6)					
授業ではタイ、マレーシア、ベトナムを中心に学んだので、フィリピンを始めとする島嶼地域についても知識を深めたい。(受講者9)					
ASEAN 諸国の地理や歴史が現在の国の経済にも影響を与えていることが分かりましたので、紹介された参考図書等でさらに理解を深めたいと思います。(受講者14)					
<b>*自由記述から読み取った、受講生からのニーズ</b>					
①自身の赴任(予定)地域の地理的情報 ②自身の赴任(予定)地域の歴史的知識 ③現地でカルチャーギャップを無くせるような情報 ④現在の対象国の経済に影響している地理的・歴史的要因					

授業科目名	ASEANの宗教・文化				
担当教員名	小田淑子、宮本要太郎、酒井真道				
受講者数	13名	回答者数	9名		
設問項目	①強く思う	②そう思う	③どちらともいえない	④そう思わない	⑤全く思わない
1. 授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	0	3	4	2	0
2. 授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	0	7	1	1	0
3. 授業の前にe-Learningによる事前配信ビデオ(以下、反転授業)を視聴した。 ①四回以上視聴した②二、三回視聴した③一回視聴した④部分的に視聴した⑤全く視聴していない	0	1	7	0	1
4. 反転授業を視聴した人は1、視聴していない人はその理由を2~5より選んでください。 ①視聴した②機器をうまく利用できなかった③時間がなかった④必要性を感じなかった⑤その他	8	0	1	0	0
5. 反転授業で出された事前課題に取り組んだ。	3	5	0	0	1
6. 反転授業は学習の理解を深めるのに役立った。	2	6	0	0	1
7. 授業によく出席していた。	4	4	1	0	0
8. 授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	4	5	0	0	0
9. 授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	1	5	3	0	0
10. 授業の中で、他の受講生との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	0	8	1	0	0
11. 毎回の授業のテーマは、明確に示されていた。	2	7	0	0	0
12. 教材の使い方は適切であった。	0	9	0	0	0
13. 教員の話し方は、明確で理解しやすかった。	3	6	0	0	0
14. 教員は受講生の反応を確かめながら授業を進めていた。	1	6	2	0	0
15. 授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	3	5	1	0	0
16. 授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	3	5	1	0	0
17. 教室内の学習環境は、適切に保たれていた。	0	9	0	0	0
18. 今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	3	5	1	0	0
19. 同僚や部下に推薦できるような授業内容であった。	1	7	1	0	0
<b>20. 反転授業を受けて、成果や問題点だと思ふことは何ですか。具体的に記入してください。</b>					
事前課題に取り組む事で、日本の仏教とタイの仏教とで差異がある事を認識出来、知識としてよかった。(受講者5)					
日本人の宗教に対する価値観などを客観的に説明してもらい、普段の行動を疑問につなげられたことがよかった。また事前課題は量は多かったが、どれも大変興味深く面白い内容でした。(受講者12)					
事前課題が提供された資料も含めて、事前に授業のテーマについて考えを深めることに役立った。(受講者14)					
<b>21. この授業科目で学んだ事は、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。</b>					
将来的に海外駐在した時のローカル社員との話題で役に立つと思います。(受講者5)					
異文化コミュニケーションにおける初歩的な気遣いや技術を学べたので、すぐに実践に活かしていきたい。(受講者9)					
宗教との向き合い方や、グローバルな人材、企業というものはどういうものかということが、宗教という観点から説明され、わかりやすかった。特に小田先生のイスラムについては、価値観が全く変わりました。基本的な内容を時間軸的に話された内容でしたが、とても引き込まれ面白かったです。(受講者12)					
<b>22. 今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。</b>					
ASEANを知る前に、日本の宗教について、もう少し深く知れていたらと思った。(受講者8)					
イスラムについて重要な導入部分の知識を示していただくことができたので、折に触れ、知識・経験を深めていきたい。(受講者9)					
ヒンズー教についても少し知識を増やしたいと感じた(受講者10)					
<b>*自由記述から読み取った、受講生からのニーズ</b>					
①現地の人との異文化コミュニケーションに役立つ文化的知識 ②イスラムについての宗教的・文化的知識 ③ヒンズー教についての知識 ④現地の人との話題					

授業科目名	国際租税法入門				
担当教員名	中村繁隆				
受講者数	13名		回答者数	12名	
設問項目	① 強く そう思う	② そう 思う	③ どちら も いえない	④ そう 思わない	⑤ 全く 思わない
1. 授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	0	4	1	3	4
2. 授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	0	2	8	2	0
3. 授業の前にe-Learningによる事前配信ビデオ(以下、反転授業)を視聴した。 ①四回以上視聴した②二、三回視聴した③一回視聴した④部分的に視聴した⑤全く視聴していない	0	3	9	0	0
4. 反転授業を視聴した人は1、視聴していない人はその理由を2~5より選んでください。 ①視聴した②機器をうまく利用できなかった③時間がなかった④必要性を感じなかった⑤その他	11	0	0	0	0
5. 反転授業で出された事前課題に取り組んだ。	2	6	4	0	0
6. 反転授業は学習の理解を深めるのに役立つ。	2	6	4	0	0
7. 授業によく出席していた。	6	5	1	0	0
8. 授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	5	6	1	0	0
9. 授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	2	5	4	1	0
10. 授業の中で、他の受講生との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	0	9	3	0	0
11. 毎回の授業のテーマは、明確に示されていた。	2	10	0	0	0
12. 教材の使い方は適切であった。	2	8	1	1	0
13. 教員の話し方は、明確で理解しやすかった。	4	6	2	0	0
14. 教員は受講生の反応を確かめながら授業を進めていた。	6	4	2	0	0
15. 授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	3	8	1	0	0
16. 授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	2	5	3	2	0
17. 教室内の学習環境は、適切に保たれていた。	2	10	0	0	0
18. 今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	3	9	0	0	0
19. 同僚や部下に推薦できるような授業内容であった。	3	7	2	0	0
20. 反転授業を受けて、成果や問題点だと思えることは何ですか。具体的に記入してください。	全く新しい領域に対して、多少なりとも引っかかるポイントを作れたこと。(受講者5)				
	知識力アドバイザーがいたので前向きに取り組めたが、分からない人にはサッパリわからないだろうと思いました。(受講者12)				
	租税に関する事前知識が0であったので、途中からついていけなくなりました。ただ、全く分からない授業に臨むぞという心構えはできたと思います。(受講者15)				
21. この授業科目で学んだ事は、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。	もし紛争になった場合の対処方法を再確認できた。(受講者1)				
	租税対策は、グローバルビジネスにおいて、収益確保のためには、切り離せない重要取組課題であり、今後の自身の海外子会社経営において、取り組んでいくモチベーションにつながった。(受講者3)				
	現在すでに海外との取引をしています。これまでは税金については特に対策をせず言われたまま支払うという方法しかとっていませんでしたが、今後はリスク回避の為に、準備をしておく必要が有ると認識しました。(受講者15)				
22. 今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。	日本視点ではなく、ASEAN、中国 etc の国の租税問題(移転価格)などを学びたい。(事例 etc) (受講者3)				
	実際の判例事例をもっとたくさん学びたいと思いました。(受講者6)				
	富裕層の国際的な税制等についても学びたいと思います。(受講者14)				
	*自由記述から読み取った、受講生からのニーズ				
	①租税に関する基礎知識 ②ASEANなど諸外国の租税問題				
	③実際にあった租税問題の判例 ④租税に関するリスク回避の方略				

授業科目名	プレゼンテーション・スキルとその活用				
担当教員名	西尾三津子				
受講者数	14名	回答者数	14名		
設問項目	① 強く そう思う	② そう思う	③ どちらとも いえない	④ そう 思わない	⑤ 全くそう 思わない
1. 授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	0	2	9	3	0
2. 授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	0	10	2	2	0
3. 授業の前にe-Learningによる事前配信ビデオ(以下、反転授業)を視聴した。 ①四回以上視聴した②二、三回視聴した③一回視聴した④部分的に視聴した⑤全く視聴していない	0	4	10	0	0
4. 反転授業を視聴した人は1、視聴していない人はその理由を2~5より選んでください。 ①視聴した②機器をうまく利用できなかった③時間がなかった④必要性を感じなかった⑤その他	14	0	0	0	0
5. 反転授業で出された事前課題に取り組んだ。	4	9	0	1	0
6. 反転授業は学習の理解を深めるのに役立った。	2	12	0	0	0
7. 授業によく出席していた。	8	6	0	0	0
8. 授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	9	5	0	0	0
9. 授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	4	9	1	0	0
10. 授業の中で、他の受講生との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	6	7	1	0	0
11. 毎回の授業のテーマは、明確に示されていた。	7	7	0	0	0
12. 教材の使い方は適切であった。	8	6	0	0	0
13. 教員の話し方は、明確で理解しやすかった。	9	5	0	0	0
14. 教員は受講生の反応を確かめながら授業を進めていた。	10	4	0	0	0
15. 授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	7	7	0	0	0
16. 授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	6	8	0	0	0
17. 教室内の学習環境は、適切に保たれていた。	7	7	0	0	0
18. 今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	6	8	0	0	0
19. 同僚や部下に推薦できるような授業内容であった。	7	7	0	0	0
<b>20. 反転授業を受けて、成果や問題点だと思ふことは何ですか。具体的に記入してください。</b>	到達目標が事前に示されたので、学ぶ方向が大きくずれなかった。(受講者9)				
	プレゼンスキルのインプットには役立った。(受講者10)				
	自分の考えや学んだことをアウトプットすることで整理できた。(受講者12)				
<b>21. この授業科目で学んだ事は、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。</b>	社内で話をする時など、応用して利用できると思う。つま先を向ける・・・とか。(受講者1)				
	社員の前で説明する機会が多いが、「説明する」事に必死で、相手の行動変容につながるプレゼンにはなっていない。最後の学びを今後活かしていきたい。(受講者10)				
	会社において、上司に提案書を作るとき、他部署の人に経理事項を説明する時に、プレゼン能力が高いと、説得力が高まる。(受講者11)				
<b>22. 今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。</b>	プレゼンスキルの学習方法(ダイレクトマーケティング等にも波及)(受講者4)				
	プレゼン前は緊張するタイプであるため、緊張しないようにするためのスキルを学びたい。(受講者5)				
	パワーポイントのスキルや聞き手を飽きさせないストーリーテリングを学びたいと思います。(受講者14)				
<b>*自由記述から読み取った、受講生からのニーズ</b>					
	①総合的なプレゼンテーション・スキルの向上 ②プレゼンテーションにおけるコツ、テクニックの修得				
	③他者のプレゼンテーションを見たり、分析したりする機会 ④プレゼンテーション・スキルについての学習方法				



授業科目名	海外派遣者のストレスマネジメント				
担当教員名	池見陽、川端康雄				
受講者数	16名	回答者数	13名		
設問項目	① 強く そう思う	② そう思う	③ どちらとも いえない	④ そう 思わない	⑤ 全くそう 思わない
1. 授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	0	4	5	4	0
2. 授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	0	7	5	1	0
3. 授業の前にe-Learningによる事前配信ビデオ(以下、反転授業)を視聴した。 ①四回以上視聴した②二、三回視聴した③一回視聴した④部分的に視聴した⑤全く視聴していない	0	8	5	0	0
4. 反転授業を視聴した人は1、視聴していない人はその理由を2~5より選んでください。 ①視聴した②機器をうまく利用できなかった③時間がなかった④必要性を感じなかった⑤その他	13	0	0	0	0
5. 反転授業で出された事前課題に取り組んだ。	5	6	2	0	0
6. 反転授業は学習の理解を深めるのに役立つ。	5	8	0	0	0
7. 授業によく出席していた。	9	3	1	0	0
8. 授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	7	5	1	0	0
9. 授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	5	5	3	0	0
10. 授業の中で、他の受講生との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	9	4	0	0	0
11. 毎回の授業のテーマは、明確に示されていた。	3	10	0	0	0
12. 教材の使い方は適切であった。	1	12	0	0	0
13. 教員の話し方は、明確で理解しやすかった。	6	7	0	0	0
14. 教員は受講生の反応を確かめながら授業を進めていた。	5	8	0	0	0
15. 授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	3	8	2	0	0
16. 授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	4	7	2	0	0
17. 教室内の学習環境は、適切に保たれていた。	6	6	1	0	0
18. 今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	4	7	2	0	0
19. 同僚や部下に推薦できるような授業内容であった。	2	10	1	0	0
<b>20. 反転授業を受けて、成果や問題点だと思ふことは何ですか。具体的に記入してください。</b>					
良かった点:事前に視聴することによって、授業内容や予備知識を持つことができるので、授業も理解でき、わからない事が何なのかを把握できる。問題点:先生の話聞いて納得はさせられたが、あくまで納得や驚きであり、“身につく”という点では、疑問あり。半年間のカリキュラムの中で、アタマの方に割り当てるより、受講生が苦しい・忙しい時期(年末や年始)に持ってきた方が授業内容的にもよかったのかなと思います。(受講者2)					
授業内容の概略を理解して、授業に臨めたこと。(受講者8)					
ユーストレスという存在を知り、過去の事例を当てはめることで、授業への理解を深めるために大変役立ちました。(受講者12)					
<b>21. この授業科目で学んだ事は、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。</b>					
新しい環境や業務などに取り組んだ際のストレス軽減方法として役に立つと思いました。(受講者5)					
仕事でストレスが溜まったときに、授業で勉強した方法でリラックスを取れるようになると思います。人間関係等がうまく行かない時、授業で勉強した価値観に関する内容を生かし、考え方を改めて乗り越えられるようになったと思います。(受講者7)					
これまでストレスマネジメントやマインドフルネスなどについて、関心はありましたが、具体的に学ぶことがなかったので、良い機会となりました。自分だけでなく、部下や職場の同僚に対しても参考となる考え方や行動を学ぶことができました。(受講者14)					
<b>22. 今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。</b>					
具体的なストレス問題の事例(受講者8)					
人事の立場として、得た知識は新規赴任者に伝えていきたい(受講者10)					
ストレスを越えて、自分が鬱になり出した症状なども教えてほしい。(受講者13)					
<b>*自由記述から読み取った、受講生からのニーズ</b>					
①マインドフルネスの詳細と実践方法 ②自己に適合したストレスマネジメントスキルの習得 ③業務に直結する課題への対処法 ④具体的なストレス問題の事例					

授業科目名	海外事業体(子会社)における経営者の役割・コンプライアンス体制				
担当教員名	野本隆				
受講者数	13名	回答者数	10名		
設問項目	① 強く 思う	② そう 思う	③ どちらとも いえない	④ そう 思わない	⑤ 全く 思わない
1. 授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	0	3	3	4	0
2. 授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	2	4	2	2	0
3. 授業の前にe-Learningによる事前配信ビデオ(以下、反転授業)を視聴した。 ①四回以上視聴した②二、三回視聴した③一回視聴した④部分的に視聴した⑤全く視聴していない	0	4	5	0	1
4. 反転授業を視聴した人は1、視聴していない人はその理由を2~5より選んでください。 ①視聴した②機器をうまく利用できなかった③時間がなかった④必要性を感じなかった⑤その他	9	0	1	0	0
5. 反転授業で出された事前課題に取り組んだ。	5	4	0	0	1
6. 反転授業は学習の理解を深めるのに役立った。	3	6	1	0	0
7. 授業によく出席していた。	7	2	1	0	0
8. 授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	4	6	0	0	0
9. 授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	1	8	1	0	0
10. 授業の中で、他の受講生との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	2	8	0	0	0
11. 毎回の授業のテーマは、明確に示されていた。	3	7	0	0	0
12. 教材の使い方は適切であった。	3	7	0	0	0
13. 教員の話し方は、明確で理解しやすかった。	6	4	0	0	0
14. 教員は受講生の反応を確かめながら授業を進めていた。	6	4	0	0	0
15. 授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	4	6	0	0	0
16. 授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	4	6	0	0	0
17. 教室内の学習環境は、適切に保たれていた。	2	8	0	0	0
18. 今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	3	7	0	0	0
19. 同僚や部下に推薦できるような授業内容であった。	5	5	0	0	0
<b>20. 反転授業を受けて、成果や問題点だと思ふことは何ですか。具体的に記入してください。</b>					
vision や mission など、事前に自分で作ってみることで考えるポイントがおぼろげながら把握できた。(受講者5)					
今までやりたいこと、計画したいことがあったが、具体的にどうしたらよいかについて考えていませんでした。講義を通して様々な手法を勉強できました。(受講者7)					
事前に考えを整理しておくことができた。また社内事例も事前に調べることもできた。(受講者10)					
<b>21. この授業科目で学んだ事は、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。</b>					
特にコンプライアンスについて理解を深められ、様々なリスクや対策を考えることができた。(受講者4)					
どういう目的、GOAL に向かって業務に取り組むのか、ベクトルをあわせることに役立つ。(受講者5)					
メインテーマは海外子会社の経営でしたが、国内の事業においても、マネジメントする立場(管理者)として大変参考になりました。また、自分自身をマネジメントする必要性、重要性が理解でき、その方法についても学ぶことができました。(受講者14)					
<b>22. 今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。</b>					
実行と振り返りをした上で、改めて受講してみたい。(受講者8)					
部下への思いの伝え方。管理者として上司としてのありかたをより学びたい。(受講者12)					
経営理念とコンプライアンスの共有について、方法や自社への取り入れ方などを学び考えたいです。(受講者15)					
<b>*自由記述から読み取った、受講生からのニーズ</b>					
①不正の実例に基づいたケーススタディ ②経営理念を社内で共有する方法 ③コンプライアンスを社内で共有する方法 ④管理者や上司としてのあり方					

授業科目名	子会社経営で直面する課題 ―人事労務政策―				
担当教員名	仲本利明				
受講者数	16名	回答者数	10名		
設問項目	① 強く そう思う	② そう思う	③ どちらとも いえない	④ そう 思わない	⑤ 全くそう 思わない
1. 授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	0	3	3	3	1
2. 授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	0	5	5	0	0
3. 授業の前にe-Learningによる事前配信ビデオ(以下、反転授業)を視聴した。 ①四回以上視聴した②二、三回視聴した③一回視聴した④部分的に視聴した⑤全く視聴していない	0	4	6	0	0
4. 反転授業を視聴した人は1、視聴していない人はその理由を2~5より選んでください。 ①視聴した②機器をうまく利用できなかった③時間がなかった④必要性を感じなかった⑤その他	10	0	0	0	0
5. 反転授業で出された事前課題に取り組んだ。	3	7	0	0	0
6. 反転授業は学習の理解を深めるのに役立った。	0	10	0	0	0
7. 授業によく出席していた。	4	4	1	1	0
8. 授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	1	8	1	0	0
9. 授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	1	7	2	0	0
10. 授業の中で、他の受講生との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	1	8	1	0	0
11. 毎回の授業のテーマは、明確に示されていた。	0	9	1	0	0
12. 教材の使い方は適切であった。	0	9	1	0	0
13. 教員の話し方は、明確で理解しやすかった。	0	9	1	0	0
14. 教員は受講生の反応を確かめながら授業を進めていた。	1	8	1	0	0
15. 授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	1	5	4	0	0
16. 授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	1	7	1	1	0
17. 教室内の学習環境は、適切に保たれていた。	0	10	0	0	0
18. 今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	1	7	1	1	0
19. 同僚や部下に推薦できるような授業内容であった。	1	6	2	1	0
20. 反転授業を受けて、成果や問題点だと思えることは何ですか。具体的に記入してください。	<p>事前に人事労務管理を行う目的や基本内容を勉強することで、講義前にある程度知識が身についたので良かったです。講義でのグループディスカッションで、事例と向き合えたことがさらに理解を深めることにつながりました。(受講者6)</p> <p>先生の経験に基づく説明に対して、授業を受けるに当たり興味を持つことができた。(受講者8)</p> <p>人事労務について調べる過程で、人事担当者とも話し合いをして、自社の課題や問題点も知ることができたので良かった。(受講者12)</p>				
21. この授業科目で学んだ事は、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。	<p>現場に視点を合わせて、かつ早期に判断する必要性を意識する事。(受講者5)</p> <p>人事労務といういままで関心の薄かった部分の重要性を認識できたため、自分がもし子会社経営に携わることとなった場合でも、なんとか対処していけると思う。(受講者9)</p> <p>経営者としての心の置き方。海外で問題が起こった場合のケーススタディなど、実際に起こった例を基に話していただけたので参考になった。人によってさまざまな解決方法はあると思うが、結果として求める場所はブレてはいけない、目標や信念を明確に持つことの重要性を感じた。(受講者12)</p>				
22. 今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。	<p>海外で勤務する際の心構え。(受講者5)</p> <p>人事労務問題は非常に重要な経営リスクなので、他者事例や勘所を学ぶ機会を持ちたい。(受講者10)</p> <p>ASEAN各国での人事労務上の課題やその解決策等について学びたいと思います。(受講者14)</p>				
*自由記述から読み取った、受講生からのニーズ	<p>①海外で勤務する際の心構え ②人事労務管理関係の紛争と解決方法の事例 ③ASEAN各国での人事労務上の課題と解決策 ④様々な事例に対する議論と勘所</p>				

授業科目名	グローバル企業の人材育成				
担当教員名	牧勇				
受講者数	16名	回答者数	13名		
設問項目	①強く そう思う	②そう思う	③どちらとも いえない	④そう 思わない	⑤全くそう 思わない
1. 授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	0	5	5	2	1
2. 授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	1	7	4	1	0
3. 授業の前にe-Learningによる事前配信ビデオ(以下、反転授業)を視聴した。 ①四回以上視聴した②二、三回視聴した③一回視聴した④部分的に視聴した⑤全く視聴していない	0	2	11	0	0
4. 反転授業を視聴した人は1、視聴していない人はその理由を2~5より選んでください。 ①視聴した②機器をうまく利用できなかった③時間がなかった④必要性を感じなかった⑤その他	13	0	0	0	0
5. 反転授業で出された事前課題に取り組んだ。	2	10	1	0	0
6. 反転授業は学習の理解を深めるのに役立った。	2	10	1	0	0
7. 授業によく出席していた。	6	4	2	1	0
8. 授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	4	8	0	1	0
9. 授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	1	10	1	1	0
10. 授業の中で、他の受講生との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	1	9	2	1	0
11. 毎回の授業のテーマは、明確に示されていた。	3	10	0	0	0
12. 教材の使い方は適切であった。	3	8	2	0	0
13. 教員の話し方は、明確で理解しやすかった。	5	7	1	0	0
14. 教員は受講生の反応を確かめながら授業を進めていた。	2	11	0	0	0
15. 授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	3	9	1	0	0
16. 授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	0	13	0	0	0
17. 教室内の学習環境は、適切に保たれていた。	1	12	0	0	0
18. 今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	2	11	0	0	0
19. 同僚や部下に推薦できるような授業内容であった。	2	10	1	0	0
20. 反転授業を受けて、成果や問題点だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。					
グローバル人材の定義や育成について、自分なりの考えを纏めることが出来た。(受講者5)					
到達目標や授業の概要が事前に示された為、準備ができ、授業に入りやすかった。(受講者9)					
自分としてグローバル人材の必要性や育成について考えることができた。しかし授業でその内容が比較等活用されることは少なかったと思う。(受講者12)					
21. この授業科目で学んだ事は、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。					
部下への接し方を学んだので実践したい。(受講者2)					
海外外向社員の研修にて、赴任前研修は行っているが、赴任中・赴任後の研修は実施していなかったため、研修のカリキュラムを組むことになった場合、役に立つと思う。(受講者5)					
会社が求める人材はどのような人材か、自分が目指すべき人材像はどのようなものかを考える助けとなる。(受講者9)					
22. 今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。					
他社の取り組み事例を考察したい。(受講者10)					
外部の公的機関の活用など、中小企業が導入しやすい育成方法等を把握、整理し、グローバル人材の育成に悩むお取引先中小企業にアドバイスできるようになりたいと思います。(受講者14)					
弊社の規模、業種にあった具体的な人材育成方法を学び考えたいです。(受講者15)					
*自由記述から読み取った、受講生からのニーズ					
①自社にあった社内研修システムの構築 ②研修に必要な要素 ③海外赴任者の事前・事後研修についての事例 ④海外赴任者に対する人事制度の事例					



授業科目名	海外子会社の経営者として必要な能力				
担当教員名	宮本昭洋				
受講者数	12名	回答者数	10名		
設問項目	① 強く そう思う	② そう思う	③ どちらとも いえない	④ そう 思わない	⑤ 全くそう 思わない
1. 授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	0	1	4	5	0
2. 授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	3	3	1	2	1
3. 授業の前にe-Learningによる事前配信ビデオ(以下、反転授業)を視聴した。 ①四回以上視聴した②二、三回視聴した③一回視聴した④部分的に視聴した⑤全く視聴していない	0	0	8	0	2
4. 反転授業を視聴した人は1、視聴していない人はその理由を2~5より選んでください。 ①視聴した②機器をうまく利用できなかった③時間がなかった④必要性を感じなかった⑤その他	8	0	2	0	0
5. 反転授業で出された事前課題に取り組んだ。	3	4	0	2	1
6. 反転授業は学習の理解を深めるのに役立った。	1	6	2	1	0
7. 授業によく出席していた。	4	3	3	0	0
8. 授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	0	8	1	1	0
9. 授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	0	7	1	2	0
10. 授業の中で、他の受講生との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	0	4	3	1	2
11. 毎回の授業のテーマは、明確に示されていた。	0	7	2	1	0
12. 教材の使い方は適切であった。	0	6	3	1	0
13. 教員の話し方は、明確で理解しやすかった。	2	6	2	0	0
14. 教員は受講生の反応を確かめながら授業を進めていた。	0	6	3	1	0
15. 授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	2	5	2	1	0
16. 授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	1	5	3	1	0
17. 教室内の学習環境は、適切に保たれていた。	1	8	1	0	0
18. 今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	2	7	1	0	0
19. 同僚や部下に推薦できるような授業内容であった。	1	6	2	1	0
20. 反転授業を受けて、成果や問題点だと思えることは何ですか。具体的に記入してください。	授業の概要を知ることができた。(受講者8)				
	海外での拠点長の心がまえが理解できた。(受講者11)				
	反転授業で紹介された書籍は興味深く参考になりました。(受講者14)				
21. この授業科目で学んだ事は、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。	「上司をコントロールする力」を意識して業務を進めたい。(受講者8)				
	インドネシアには現在拠点はないが、各地の特徴的な要素を知ることができた。(受講者10)				
	経営者のあるべき姿と心構えが役に立つと思います。また、税務上のリスクの重大さが少しですが理解できたと思います。(受講者15)				
22. 今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。	色々な対応事例 (受講者8)				
	国が設定している、非関税障壁等知りたい。(受講者12)				
	弊社投資対象国についての税制を具体的に学びたいです。(受講者15)				
	*自由記述から読み取った、受講生からのニーズ				
	①税務リスクについての概要 ②経営者のあるべき姿、もつべき心構え				
	③国、地域固有の要素 ④非障壁税率についての知識				

授業科目名	経営者の戦略的役割				
担当教員名	吉田史朗				
受講者数	12名	回答者数	11名		
設問項目	①強く そう思う	②そう思う	③どちらとも いえない	④そう 思わない	⑤全くそう 思わない
1. 授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	0	5	3	3	0
2. 授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	0	3	5	3	0
3. 授業の前にe-Learningによる事前配信ビデオ(以下、反転授業)を視聴した。 ①四回以上視聴した②二、三回視聴した③一回視聴した④部分的に視聴した⑤全く視聴していない	0	4	7	0	0
4. 反転授業を視聴した人は1、視聴していない人はその理由を2~5より選んでください。 ①視聴した②機器をうまく利用できなかった③時間がなかった④必要性を感じなかった⑤その他	10	0	0	0	0
5. 反転授業で出された事前課題に取り組んだ。	0	3	7	1	0
6. 反転授業は学習の理解を深めるのに役立つ。	1	8	2	0	0
7. 授業によく出席していた。	5	5	0	1	0
8. 授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	5	6	0	0	0
9. 授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	0	10	1	0	0
10. 授業の中で、他の受講生との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	3	8	0	0	0
11. 毎回の授業のテーマは、明確に示されていた。	2	9	0	0	0
12. 教材の使い方は適切であった。	2	8	1	0	0
13. 教員の話し方は、明確で理解しやすかった。	4	7	0	0	0
14. 教員は受講生の反応を確かめながら授業を進めていた。	2	9	0	0	0
15. 授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	4	7	0	0	0
16. 授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	3	7	0	0	0
17. 教室内の学習環境は、適切に保たれていた。	1	10	0	0	0
18. 今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	4	7	0	0	0
19. 同僚や部下に推薦できるような授業内容であった。	4	6	1	0	0
20. 反転授業を受けて、成果や問題点だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。					
経営戦略の立案に必要な要素を復習できたこと。(受講者5)					
経営イノベーション実現に向けて乗り越えるべき五つの壁の話は良かったです。経営には絶対的な正解はないという内容も良かったです。(受講者6)					
どの領域の話か、事前に準備できる。(受講者16)					
21. この授業科目で学んだ事は、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。					
頭の整理に役立ちました。(受講者1)					
分析手法等、社内の問題解決に役立ちそうなので、利用してみます。(受講者2)					
実際にSEPTEmber分析を行うことで、同じ様に自社の問題に対して自分自身で新しい視点で分析をして見たいと思います。(受講者15)					
22. 今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。					
リーダーシップやマネジメント能力を向上させる手段には、どのようなものがあるのか、調べてみたい。(受講者2)					
事例と未来型経営戦略(受講者4)					
「戦略的」という部分が少し分かりづらかったので、グループワークなどでより深く学びたい。(受講者12)					
*自由記述から読み取った、受講生からのニーズ					
①社内の問題に対する問題分析・解決スキル ②リーダーシップの向上 ③マネジメントスキルの向上 ④組織変革に成功した他社事例					